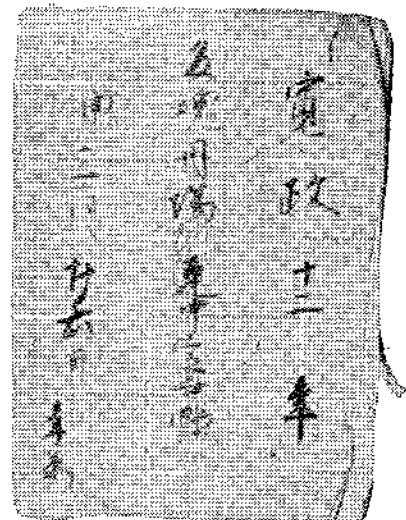
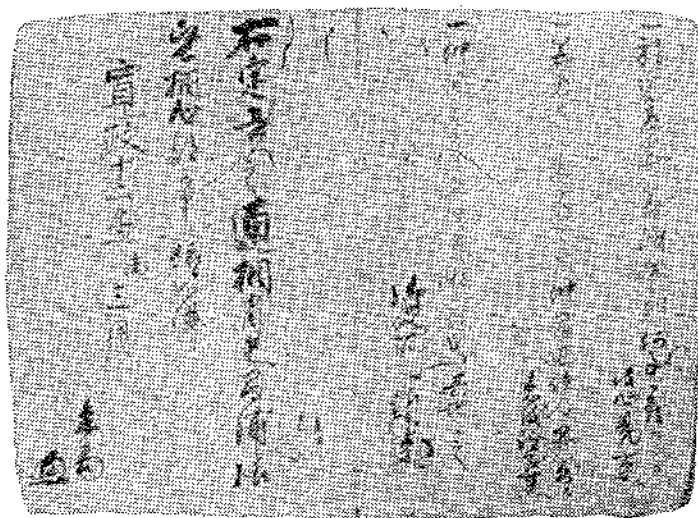


I 幕 末 期



寛政12年3月 反魂丹場所連中定書帳（財団法人 水橋郷土史料館蔵） 本文138頁参照

一行財政

二 明和三年二月 反魂丹口錢取立役申渡書

中町
源右衛門

一 明和二年八月 藥種役銀・同締役人等申渡書

今般藥種売買御役銀被仰付、縮役中野散地町徳右衛門へ被

仰渡候

一 里中々藥種買入之儀、唯今迄之通勝手次第買入可申候、

里中売人々御役銀為指出申問敷候

一 里子々買請候へ、石高等右縮役徳右衛門へ早速可及

(案カ)
按内候、委細へ徳右衛門申談答ニ候

一 町方所持種売買之儀、右徳右衛門へ相向承り候上可致

売買候、尤追而御定書を以被仰渡答ニ候

右之趣御儉約方々申來候間、町中相觸可申候、以上

八月五日

町奉行所

当番町年寄中

(前田文書・富山県立図書館蔵)

右旧臘御儉約方々申渡之通、反魂丹場所売買口錢取立役相
勤候様可申渡候、就右仕法等之義米ル十九日於役所可申渡
候条、其節源右衛門義役所へ罷出候様可申渡候、其節源右
衛門請縮之義も可申渡候、以上

二月十四日

町奉行所

当番町年寄中

(前田文書・富山県立図書館蔵)

三 文化五年九月 藥種屋株立申渡書

藥種之義第一毒藥・粗莖并真偽之差別有之、人命ニ拘り候

品故御旋も有之処、近年上方辺ニ反魂丹商売人共之内ニ、

出口不正之薬品取扱之族粗相聞、右等之趣者 公義御法度

致敷御縮方も被仰付置候義ニ候得者、若於相觸者不輕越度

ニ候、依之他所々藥物持参之旅人、藥種肝煎とも方々而止

期

宿為致遂吟味候様中渡置候、將又沙參屋株五拾八軒、地方

但シ四月より七月迄越後行、八月より

來未正月迄越後并播州姫路迄

末

生藥利株七拾五軒新規ニ申付候条、余商売之もの若致心得

旅名前 同断売子

喜 助

I 幕

違、都而藥種於致売買者、急度手当可中付候、此段一統殿

旅名前 同断売子

儀 助

辰九月

御勘定所

但 五畿内并紀州迄

別紙之通申來候条、町方一統可被申触候、以上

旅名前 同断売子

九月四日

町奉行

一 式人

平 蔵

当番町年寄中

(前田文書・富山県立図書館蔵)

但 播州并淡路迄

太 助

四 文政五年九月 御國・他國売藥場所人々名前

ノ五人

株持人 東水橋柳寺屋平右衛門

平右衛門

書上帳

一 式人

旅名前 茶木屋源左衛門売子

辰次郎

(表紙) 文政五年

新川郡五ヶ庄組

御國并他國売藥場所人々名前相改書上中帳

但 泉州并紀州・大和・伊賀・山城迄

喜兵衛

午九月

東水橋

ノ

持株人 東水橋柳寺屋平次郎

旅名前 茶木屋源左衛門売子

旅名前 館屋長兵衛売子

一 式人

平右衛門

一 式人

長右衛門

一 行 財 政

松次郎

但 越後并信州迄

株持人 東水橋館屋長右衛門

旅名前 松屋次兵衛売子

一 式人

弥 助

一 卷人

市兵衛

但 越中魚津并境迄

但シ山城并大和・伊賀迄

旅名前 同断売子

一 卷人

与七郎

一 式人

但シ河州并摂州・播州迄

ノ五人

株持人 東水橋谷屋次郎太

但シ山城・大和并伊賀・伊勢迄

旅名前 松田平蔵売子

旅名前 同断売子

一 卷人

平三郎

一 式人

但シ信州迄

株持人 上野屋平四郎

但シ河州・泉并摂津・播州・淡路迄

平四郎

右同断 売子

旅名前 沢井長兵衛売子

一 卷人

永 吉

一 式人

平 吉

但 加賀・越中迄

権三郎

但シ越後并信州迄

株持人 上野屋平吉

旅名前 松若久蔵売子

長三郎

株持人 上野屋長三郎

旅名前 尾嶋東蔵売子

半兵衛

次兵衛

左吉郎

元次郎

五人 株持人 尾嶋屋半兵衛

旅名前 平野調藏亮子

旅名前 八丸太郎亮子

甚左衛門

一人 久藏

一人 但 上州行

但 越前并若狭迄 右同断 亮子

右同断 亮子 伊右衛門 調藏 一人 但 信州行 右同断 亮子 平八

一人 伊右衛門

一人 但 信州行 右同断 亮子

調藏

右同断 亮子

但 隱岐国迄 右同断 亮子 一人 但 下野行 四郎兵衛

右同断 亮子

一人 但 下野行

一人 彦右衛門

三人 株持人 中野屋次右衛門

十助

砂町三人拾一人

但 芸州并石州迄 株持人 狐塚屋伊八郎 旅名前 尾嶋次右衛門亮子

五人 株持人 狐塚屋伊八郎 一人 太助

旅名前 岩瀬屋清七亮子

次助

一人 宗右衛門

但 山城并河州・摂州迄

宇兵衛

株持人 尾嶋屋次郎兵衛

但 越中并能州迄 株持人 小森屋宗右衛門 旅名前 眼目屋藤兵衛亮子

一人 藤八

但 新川郡迄

中町ノ三人 株持人 眼目屋藤八郎

旅名前 高田清次郎売子

一 四人

吉三郎

和三郎

藤藏

庄藏

旅名前 石正久藏売子

一 式人

和兵衛

但 丹後・但馬迄

右向断 売子

一 老人

和助

但シ山城・河内・泉・摂津迄

ノ三人

株持人 石正屋和右衛門

但シ芸州・長州・防州

株持人 眼目屋七郎衛門

一 式人

旅名前 茶木屋源左衛門売子

善次郎

一 老人

庄助

但シ伊勢行 株持人 東福寺屋五郎□□

傳助

但シ越後并出羽迄

片原町ノ十一人

株持人 梅沢屋善次郎

旅名前 堀吉藏売子

旅名前 井上平左衛門売子

一 式人

吉郎衛門

一 老人

三郎右衛門

□次郎

但シ出羽行

但 越後并信州迄

株持人 眼目屋三郎右衛門

株持人 室屋吉郎右衛門

旅名前 松井屋源右衛門売子

一 一人

喜兵衛

一 一人

次 助

但 佐州行

但 備前・備中迄

右同断 売子

ノ

一 一人

太 助

卯三月譲り替

一 株持人

池田屋清右衛門

但

四月々十月迄
十月々来未正月迄

佐州・相州行

善 助

ノ

株持人 梅沢屋宗左衛門

卯三月譲り替

旅名前 綿屋孫右衛門売子

一 株持人

肘崎屋伊右衛門

一 一人

傳次郎

紀州行

但 讃州并予州迄

ノ 三人

株持人 加積屋喜兵衛

ノ

株持人 浜屋四郎右衛門

旅名前 肘崎権兵衛売子

一 三人

旅名前 中川吉藏売子

一 一人

権三郎

一 三人

吉右衛門

但 新川郡迄

安五郎

別株持人 肘崎屋権兵衛

吉兵衛

旅名前 加賀屋伊兵衛売子

但 佐州行

一 三人

次右衛門

ノ

株持人 中野屋吉右衛門

龜 藏

旅名前 岩瀬屋清七売子

次兵衛

一 行 財 政

但シ 当二月の五月迄越中廻、
六月の十二月迄越後・信州
甲州の駿河迄

株持人 魚躬屋仁兵衛

新町ノ十四人

旅名前 松屋清八郎売子

一 式人

太兵衛

宗 助

但 長州・播州

株持人 松屋清八郎

旅名前 高田伊三郎売子

一 式人

伊十郎

傳 助

但

正月の四月迄越後・上州
下野迄五月迄未正月迄
泉・河州・紀州・大和迄

株持人 川井屋四郎次郎

旅名前 松若久蔵売子

一 式人

長三郎

□ □

但 越後行

株持人 日置屋久四郎

旅名前 若松久蔵売子

一 七人

久四郎

伊 助

勘 助

和兵衛

善兵衛

久七郎

久六郎

但 芸州・防州・長州迄

株持人 日置屋久四郎

旅名前 勝嶋半兵衛売子

一 三人

理 七

長右衛門

次 助

但 伯州・雲州

株持人 上ノヤ理兵衛

旅名前 松屋栄蔵売子

一 老人

次兵衛

但 讃州・予州迄

善兵衛

但 越後 出羽迄

株持人 石黒屋喜八郎

株持人 市江屋徳右衛門

旅名前 石黒権十郎売子

東天神町 十六人

一 老人

権之助

旅名前 勝嶋半兵衛売子

但 越後行

一 老人

清五郎

右同断 売子

但 伯州迄

一 三人

傳七郎

株持人 角屋清五郎

弥 助

旅名前 石黒七右衛門売子

清 助

一 四人

七五郎

但 出羽行

旅名前 綿屋孫右衛門売子

太四郎

甚 助

一 式人

平 八

清 助

又 吉

但 下野・常州下館迄

但 讃州・予州迄

株持人 石黒屋七右衛門

株持人 石黒屋権兵衛

旅名前 高田喜八郎売子

旅名前 川井源右衛門売子

一 式人

喜八郎

一 老人

勘 助

但 河州并泉・紀州迄

一 一人

善 助

右同断

但 山城・河州・泉・摂州・播州

一 四人

源 六

右同断

吉兵衛

一 三人

又 六

弥 助

喜 平

源 藏

善 六

但 讚州并伊予迄

但 讚州并伊予迄

ノ 五人

株持人 川井屋源右衛門

ノ 五人

株持人 谷屋林藏

旅名前 嶋田孫兵衛亮子

旅名前 松若久藏亮子

一 一人

孫兵衛

一 三人

文 藏

勘 助

長 七

但 越後行

与 吉

ノ

株持人 尾嶋屋孫右衛門

但 長州・防州

西天神町ノ式十人

ノ

株持人 谷屋次郎左衛門

旅名前 松屋林藏亮子

旅名前 一丸屋文藏亮子

一 一人

庄 吉

一 一人

太郎兵衛

飛出(歸丸)行

傳兵衛

右同断 亮子

但 芸州・石州迄

一 行 財 政

I 幕 末 期

株持人 尾嶋屋太郎兵衛

旅名前 松若久藏売子

一 志人 和兵衛

但シ金沢・大聖持并越前迄

株持人 浦田屋和兵衛

旅名前 市江屋安左衛門売子

一 式人 安三郎

太 助

但 駿河行

株持人 市江屋安兵衛

旅名前 松井安蔵売子

一 志人 弥三郎

但 越後行

右河断

一 三人 弥三助

竹二郎

但 佐州行

弥三衛門

株持人 市江屋弥三右衛門

旅名前 松屋清八郎売子

一 式人 勘左衛門

平 蔵

但 石州迄

株持人 若杉屋嘉兵衛

旅名前 嶋宗十郎売子

一 三人 久 六

次 助

市右衛門

但 芸州・石州迄

株持人 尾嶋屋久兵衛

浜口町 式拾式人

惣合百十七人 人数

右私所方売薬場所并人々名前詮義仕、書上之申処相違無御

座候、以上

午九月

東水橋当分肝煎
与三左衛門

一行財政

卯三月ニ讓替

一 株持人

弓館屋

孫 八

右ノ滑川高月屋清吉ノ讓リ請仕候

卯

宗左衛門
 吉郎右衛門
 四郎右衛門
 吉左衛門
 仁兵衛
 喜兵衛
 權兵衛
 七郎右衛門
 三郎右衛門
 善次郎
 和右衛門
 五郎右衛門
 次郎兵衛
 藤 八

次郎 口
 長 吉
 平 四郎
 平 次郎
 平 右衛門
 平 吉
 半 兵衛
 傳 八郎
 次 右衛門
 宗 右衛門
 清 八郎
 四 郎三郎
 久 四郎
 理 兵衛
 德 左衛門
 清 五郎
 七 右衛門
 喜 八郎

權兵衛

候条、組々一統可令承知候、勿論御規定之趣且仲間示談之

孫右衛門

儀、前々之通無違失急度相守可申事、

源左衛門

一 近年薬種并紙類等高直に付、仕入向心得違之族茂有之

林蔵

由、元米他国商売之義、歩(力)悪敷成行候而者、第一御国産

次郎左衛門

之取理及銘々家禄衰微之基相成候時者不容易儀篤与令意

太郎兵衛

得、向後相改精誠薬品吟味專要之事ニ候、從來他所々似

嘉兵衛

寄之壳藁数多相弘候由、依而以後包紙ニ日印を付相割可

安兵衛

申事、

弥三郎

付り、日印(印脱カ)之形相渡し候条、組々相揃不洩様御印押可

久兵衛

申事、

和兵衛

一 御益上納金、是迄町々日行使取立来候得共、自今其組

肝煎 与三左衛門殿

(財団法人 水橋郷土史料館蔵)

年行可(二脱カ)おゐて取立可及上納事、

但し、三月廿日・八月廿日限り両度納之事、

右之趣嚴重可相心得事

五 (弘化元年)二月 反魂丹方、産物方付属の心

得方申渡書

辰二月

御産物方

[別紙 目印形]

富山産物方改

此度御改正之御趣意ニ付、反魂丹方以来当役所付属被仰付

〔富山壳業業史料集〕

六 弘化元年 反魂丹方上縮出納簿

天保十五辰年町御役所より当御役所へ御付属ニ相成、名

前・連人・諸組等取調理左之通

一 壹兩

改而在来之通之分、秋上納半高分

右拾匁名前之内二面辰秋御詮義之上、

本名前被 仰付、半高秋上納

一 壹兩壹歩

右拾匁名前之内五面辰秋御詮義之上、

一 千百七拾三兩 古名前、千百七拾三面

一 壹兩貳歩

貳歩ツゝ上納被 仰付、半高秋上納

一 六百七拾壹兩壹歩 古連人、八百九拾五人

一 壹兩貳歩

右六匁連人之内八人辰秋御詮義之上、

一 三歩 新連壹人、辰年々面出シ

一 壹兩貳歩

壹歩貳朱ツゝ上納被 仰付、半高秋上納

一 貳拾兩 薩摩組

一 銀八百拾貳匁五分

居名面箱役、百貳拾五人、但シ六匁五分ツゝ

一 壹兩壹歩 新名面御礼金、寅年々八ヶ年之内、有

金ノ千八百七拾兩

分ツゝ

澤屋平四郎

金ノ千八百七拾兩

一 銀六百八匁 越中組切名前、八匁ツゝ、七十六面

銀ノ壹匁七百拾五匁五分

一 銀百七拾六匁 同組切連人、四匁ツゝ、四十四人

此金 貳拾六兩三歩・永五匁四分七厘

一 銀五拾目 秋田組拾匁ツゝ、名前拾面、春上納在

金合 千八百九拾六兩三歩・永五匁四分七厘

来半高

内拾三兩三歩・永

一 銀三拾九匁 同組連人、六匁ツゝ、十三人、右同断

壹匁貳分五厘

水戸御領御指留ニ付御用捨ニ相成、名前廿七面連人三十四人之内歩割

一 銀拾五匁 右拾匁名前之内三面辰秋御詮義之上、

拾兩三歩・永拾

改而在来之通秋半高分

匁一分六厘

高松御領御指留ニ付御用捨分

一 銀拾五匁 右六匁連人之内五人辰秋御詮義之上、

拾貳兩貳歩・永

一 行 財 政

式拾三匁七分四厘 長門御領御指留ニ付御用捨分

天保十五辰三月十六日御役金御算用之控

拾四匁式步

仙台御領新銭吹立銭相場弱目ニ付御用

関東組

五匁

捨九州佐賀御領・竹田御領・相州御領(長方)

名面百八拾匁、連式百人、内居拾式人銀六匁五分ツ

御指留同断

一 百五拾六匁式步式

老匁

廣田屋佐四郎・驛流屋善二郎、秋田御(方)

朱・永式匁五分

春上納

領之内、御役人替ニ付名面式兩半高御

外ニ七匁三步・永

用捨

拾三匁一分式厘五

水戸御指留ニ付名廿七面・連三十四人

式步

北田組四十物屋甚左衛門、能登場所ニ

毛

步割御用捨、未進共

候処、懸纜三十メ文那らて無之、難渡

五畿内組

人ニ付□ □

名面七十六面、連九拾人、内居拾人

老步式朱

仙台組有澤屋平四郎御礼金之内御用捨

一 百式拾老兩三步

春上納

メ五拾八匁式步・永式拾式匁六分五厘

美濃組

外ニ 老兩

宮尾屋松太郎・島野屋多七、一許ニ付

名九十六面、連百拾人、内居十一人

未進

一 八拾九匁式步式朱

式步

四十物屋甚左衛門難渡人ニ付未進

永四匁六分九厘

春上納

都合 六拾匁・永式拾式匁六分五厘

信州組

名八拾式面、連九十人、内居廿七人

指引残り 千八百三拾六匁式步・永七匁八分式厘

一 七拾七匁ト永廿四

上納仕候、

匁六分老厘

春上納

九州組 名七拾兩、連六十
七人、内居七人

一 五拾七兩壹步 春上納

外ニ式兩三歩式朱 肥前佐賀相良・豊後竹田御差留ニ付、名

五面・連四ッ歩割御用捨并ニ御算用除共

越後組 名五十八面、連三
拾九人、内居四人

一 四拾三兩貳歩式朱 春上納

北中国組 名六拾七面、連廿
七人、内居八人

一 四拾三兩貳歩式朱 春上納

江州組 名六十三面、連拾
九人、内居五人

一 三拾八兩貳歩式朱 春上納

北国組 名六十貳面、連
九人、内居貳人

一 三拾□兩三歩式朱 春上納

外ニ式歩 四十物屋甚左衛門能州場所定未進

伊勢組 名三十八面、連廿
九人、内居三人

一 式拾九兩三歩式朱 春上納

上総組 名三十面、連三十
六人、内居十貳人

一 式拾八兩貳歩 春上納

駿河組 名廿二面、連廿
貳人、内居壹人

一 式拾八兩貳歩 春上納

一 拾八兩三歩 春上納

南部組 名廿貳面、連拾
四人、内居三人

一 拾六兩壹歩 春上納

四国組 名廿六面、連拾
七人、内居貳人

一 拾四兩貳朱

永七匁八分式厘 春上納

外ニ□兩壹歩式朱 高松御領御指留ニ付、名七面・連五人
(五匁)

御用捨

飛騨組 名拾五面、連四人

一 九兩 春上納

奥中国組 名七十貳面、連三
十八人、内居三人

一 四拾三兩貳歩

永□匁四分式厘 春上納

外ニ六兩三歩・永九 長門御領御差留ニ付、名十九面・連拾

分三厘五毛 式人歩割御用捨外ニ未進共

伊達組 名四十六面、連三
十七人、内六人

一 三拾六兩貳歩 春上納

仙台組 名廿面、連拾貳
人、内居三人

一 三拾六兩貳歩 春上納

一 行 財 政

期

一 七兩老歩

春上納

利三兩老歩ト永拾一

末

外ニ七兩老歩

半高御用捨

奴四分三厘

六月ノ十一月迄

I 幕

出羽組

名廿六面、連三十
四人、内居老人

一 五兩式歩式朱

肥州御取上ケ帳面代、金垣屋庄(カ)次郎分

一 式拾五兩三步

春上納

御預リニ相成

秋田組 名四面

一 三兩ト永四匁五分

春上納

五厘

六月ノ十一月迄

外ニ式歩

廣田屋佐四郎・(カ)騨濱屋善次郎御用捨

一 九兩老歩一朱

九州中村屋彦三郎御取上帳面代御預リ

越中組

名老面、紐切名面七十六面、但シ八匁
ツ、内四十四人連人、但シ四匁ツ

利老歩ト永二匁九分

三厘七毛

九月ノ十一月迄

一 六兩式歩老朱

春上納

惣ノ九百老兩式歩・永三匁九分六厘

元利ノ七拾四兩三步三朱・永五匁三分七厘七毛

一 式兩

吉川屋直次郎年季之内上納

辰十二月三日改

一 式兩式歩ト永三匁

拾六匁式百十一文売券料、三百七十七

三分

通、但シ一通四十二文ツ

辰八月御取立左之通

三口合九百六兩ト永七匁式分六厘

關東組 名百八拾面、連式
百人、内居拾式人

内八日五拾兩

御勘定所へ上納

一 百五拾八兩三步

残り五拾六兩・永七

辰六月元

永五匁六分式厘

秋上納

匁式分六厘

但シ四月元ニ可相成候所、初年ニ付、

外ニ七兩三步・永拾

水戸御指留ニ付名廿七人・連三十四人

右之通御預リニ相成候事

三匁一分式厘五毛

歩割御用捨未進共

五畿内組 名百七十六面、連九拾人、内居拾人

一 百貳拾□兩三步

永壹匁五分六厘 秋上納

美濃組 名九十六面、連百拾人、内居拾壹人

一 八拾九兩貳步・永

廿貳匁六分五厘五毛 秋上納

外ニ貳朱卜永九匁三

分七厘五毛 長門行御用捨

信州組 名八十貳面、連九十人、内居廿七人

一 七拾七兩卜永貳拾

四匁六分一厘 秋上納

九州組 名七十面、連六十七人、内居七人

一 五拾七兩三步・永

廿一匁壹分 秋上納

外ニ貳兩三步貳朱 肥前佐賀相良・豊後竹田御指留ニ付、

名五面・連四ツ御用捨

越後組 名五拾八面、連三十九人、内居四人

一 四拾四兩卜永三匁

一分貳厘 秋上納

北中国組 名六十七面、連貳十七人、内居八人

一 四拾四兩壹步三朱 秋上納

江州組 名六十三面、連十九人、内居五人

一 三拾九兩貳朱卜永

七分八厘 秋上納

北国組 名六十貳面、連九人、内居貳人

一 三拾四兩卜永七匁

八分壹厘 秋上納

外ニ貳步 四十物屋甚左衛門熊州場所定未進

伊勢組 名三十八面、連廿九人、内居三人

一 三拾兩貳朱卜永五

匁四分七厘 秋上納

上総組 名三十拾面、連三十六人、内居十貳人

一 貳拾九兩貳步貳朱

永九匁三分七厘 秋上納

駿河組 名廿二面、連廿貳人、内居壹人

一 拾八兩三步・永拾匁

一 行 財 政

一分六厘 秋上納

南部組 名廿貳面、連拾四人、内居三人

一 拾六兩貳步・永五

又四分七厘 秋上納

四國(紀脱カ) 名廿六面、連十七人、内居貳人

一 拾四兩(符カ) 秋上納

外ニ五兩老步貳朱 高松御領御差留ニ付、名七面・連五人

御用捨

飛騨組 名拾五面、連四人

一 九兩 秋上納

奥中国組 名七十貳面、連三十八人、内居三人

一 四拾三兩三步・永

壹分八厘 秋上納

外ニ六兩三步・九分 長門御領御差留ニ付、名十九面・連十

三厘五毛 八人御用捨外ニ未進共

伊達組 名四十六面、連三(所脱カ)

十六人、内六人

一 三拾七兩・永拾又

九分三厘 秋上納

仙台組 名貳拾面、連十貳人、内居三人

一 七兩貳步下永五又

四分七厘 秋上納

外ニ七兩一步 半高御用捨

出羽組 名廿六面、連三十人、内居老人

一 貳拾五兩三步・永

拾又一分六厘 秋上納

秋田組 名四面、連無

一 五兩三步貳朱下永

九又七分六厘 秋上納

外ニ貳步 廣田屋佐四郎・驛流屋善次郎御用捨(カ)

越中組 名老面・組切名面七十人、内連人四十四人

一 六兩貳步三朱 秋上納

外ニ九百拾三兩老步・永拾又七分貳厘五毛

一 三步貳朱 有澤屋平四郎寅年カ八ケ年御礼金

一 壹步貳朱 秋田組米屋大二郎浄円寺付初而上納

合九百拾四兩貳步・永拾又七分貳厘貳毛

内七百五拾貳兩 八月廿日 御勘定所へ上納

残り百六拾貳兩貳步・

永拾匁七分貳厘五毛 九月元霜月迄

利四兩三步貳朱ト永

三分貳厘 三ヶ月

元利ノ百六拾七兩壹步三朱・永四匁七分九厘

十二月廿五日

一 貳拾兩 薩摩組

一 貳兩 萩原屋長七、町方ノ付送り未進之内取

立

一同 貳兩ト永壹匁五

分五厘 券料、拾貳ノ九百文、三百通

一同 貳兩貳步・永貳

拾貳匁六分六厘

六毛 佐渡向寄、町方ノ付送り未進之内取立

四口ノ貳拾六兩貳步・永貳拾四匁貳分六毛

合百九拾四兩ト永貳拾貳匁七分四厘六毛

一 七拾四兩三步三朱

永五匁三分七厘七毛 前段春御取立之残り金

一 合貳百六拾九兩貳朱ト永九匁三分七厘三毛

内百壹兩貳步貳朱

又九拾八兩

七月元 又四兩壹朱

又壹兩

同 又五兩壹朱

利壹步ト永三分

一厘貳毛 十二月廿四日

壹兩貳步貳朱

壹兩ト五分

拾五兩貳步

貳拾五兩三步貳

朱・永壹匁五分

六分貳厘

貳兩貳步貳朱ト

永五匁一厘

利三朱ト永貳

匁六分五厘

八ヶ月

江戸表へ上納金

秋上納八百五拾兩御勘定所受後残り金、

御勘定所へ残り金上納

帳付小使被下方

妙國寺奉納

十一月迄五ヶ月

江戸行中役様へ渡ス

江戸行荷物駄賃

御奉行所等被下方

上縮ノ小使迄被下方

五月元反魂丹方上縮等雜用

期 又式両

御中役様方へ上ル

末 九口ノ式百五拾三兩三步ト永拾匁三分四毛

幕 差引残り拾五兩壹歩ト永拾匁五分六厘九毛

此分末十二月九日元利上納相濟候

(宮山亮葉菜史史料集)

七 弘化三年 反魂丹役所雜費・給料等書上

午正月

匁一 壹ノ五百九拾文

中島屋甚四郎、紙代相渡、彌

匁一 貳百貳拾文

黒肉直シ手間、同

匁一 八百拾四文

炭拾三ノ六百目、彌

三月十九日

妙國寺へ相渡

匁一 金貳歩

同

三月廿四日

炭三俵、数見ノ

匁一 壹ノ九百拾文

券料ノ、炭壹俵

五月廿二日

同、炭壹俵

匁一 五百三拾文

同、大法寺様行

六月廿四日

同

匁一 四百七拾文

同

四月二日

同

匁一 四ノ三百文

同

反魂丹方

七月十二日

匁一 貳兩貳歩、但シ五百疋宛

帳付兩人

匁一 同

小使兩人

匁一 百目、但シ五拾日宛

匁一 同

妙國寺行、但シ秋渡り

匁一 金貳歩

通付、早瀬炭四俵

十月九日

同四俵

霜月九日

同四俵

匁一 六百四拾文

同四俵

匁一 六百四拾文

同四俵

九月十九日

同四俵

匁一 壹ノ八百八拾文

一束四冊帳面

十二月十九日

炭四俵

匁一 六百四拾文

宗右衛門

十二月廿五日

彌三兵衛

匁一 四兩貳歩三朱

宗右衛門

匁一 同

善次郎

十二月廿五日

次郎吉

匁一 三匁

彌三郎

匁一 同

彌三郎

一 行 財 政

一 匣一 壹兩壹步 帳付甚七 一 壹脚 丹波国行 久々湊村 孫右衛門

外壹步 御年暮 旅名 山本六郎右衛門

一 匣一 同 注兵衛 一 壹脚 佐渡行 殿村津幡江村伊左衛門

一 匣二 三步卜式匁 小遣林三郎(使カ) 旅名 中川吉藏

外二壹步 御年暮 一 壹脚 奥州行 殿村津幡江村九左衛門

一 匣一 同 喜助 南部廻り

一 匣一 同 喜助 旅名 松野半四郎

一 匣一 同 喜助 奥州行 同 仁左衛門

一 匣一 同 喜助 仙台廻り

一 匣一 同 喜助 旅名 津崎仁八郎

一 匣一 同 喜助 越前国行 片口村 四郎兵衛

一 匣一 同 喜助 加州廻り

一 匣一 同 喜助 旅名 岩瀬屋清七

一 匣一 同 喜助 右同断 同 人

一 匣一 同 喜助 堀岡新村 傳 吉

一 匣一 同 喜助 陸奥国行 海老江村 弥三八

一 匣一 同 喜助 仙台廻り

一 匣一 同 喜助 旅名 中川弥三八

一 匣一 同 喜助 布目村仁右衛門

八 弘化四年六月 射水売薬人名・場所先・脚数

書上

〔表紙〕
弘化四年六月改

射水郡売薬他国出脚吟味人手合ヶ所分主付

I 幕末期

一	老脚	備前国行	同	人	小千谷廻り	
		備中国・周防国廻			旅名 高田喜三右衛門	
		旅名 高田清次郎				同
一	老脚	武蔵国行	下村	彦右衛門	一	老脚 武蔵国行
		上野・下野・下総国廻り			旅名 三輪八郎兵衛	同
		旅名 小林十蔵				久五郎
一	老脚	越前国行	久々湊村	清右衛門	一	老脚 越前国行
		右同断			丸岡廻り	荒屋村
一	老脚	越前国行	放生津	嘉次吉	一	老脚 駿河国行
		福井・若狭・小浜廻り			高□	同
		旅名 中村や次郎左衛門				政右衛門
一	老脚	武蔵国行	同	八兵衛	一	老脚 越後国行
		江戸廻り			石黒権十郎	赤井村
		旅名 高田藤次郎				作右衛門
一	老脚	信濃国行	同	人	一	老脚 越後国行
		松本廻り			石黒権十郎	新開発村
		旅名 嶋田清五郎				半右衛門
一	老脚	越後国行	同	長右衛門	一	老脚 越後国行
					柏崎・信州野尻廻り	今井村
						庄左衛門

堀井吉蔵

中川□

一 老脚 武蔵国行 同 傳右衛門 一 老脚 下野国 小林村 徳右衛門

熊谷在・飛州・高山廻り 佐渡長蔵

一 老脚 陸奥国行 高木村 次郎兵衛 一 老脚 陸奥国行 南高木村 重三郎

旅名 高田清次郎 松前廻り

一 老脚 陸奥行 石黒藤助 旅名 渡辺甚四郎

一 老脚 右同断 同 人 一 老脚 出羽国行 同 人

旅名 水巻小兵衛 米沢廻り

一 老脚 右同断 同 人 一 老脚 出羽国行 中野村 久太郎

竹内次郎兵衛 米沢并越後国□□

一 老脚 右同断 同 与三兵衛 奥州伊達在廻り

高田善次郎 澁田久太郎

一 老脚 駿河国行 同 人 一 老脚 右同断 同 人

一 老脚 下野国行 又兵衛 同

一 老脚 備後国行 半兵衛 一 老脚 奥州 同 吉三郎

旅名 越間三郎兵衛 南部廻り

一 老脚 長門国行 同 人 一 老脚 右同断 水巻源助

一 老脚 佐渡□ (行カ) 同 人

政 財 行

細野弥兵衛

せんた廻り(い脱カ)

一 老脚 下総国行 同 善三郎

滝田清六

伊藤主藏

一 老脚 丹波国行

久々湊村

喜兵衛

一 老脚 布目村

仁右衛門

丹後国・仁馬国廻り

一 老脚 出羽国行 同

吉右衛門

旅名 柴垣津右衛門

米沢廻り

松井甚兵衛

旅名 松野半四郎

但し式人ハ弘化四年十二月新脚也

一 老脚 武蔵国行 鏡宮村

弥次兵衛

メ五拾老脚 吟味人布目村仁右衛門

下野国廻り

老脚 不行カ

三ヶ新村

喜左衛門

高田弥次兵衛

老脚 武蔵国行

吉久新村

傳兵衛

一 老脚 陸奥国行

同人

室山平左衛門

伊達二本松廻り

但右式人ハ嘉永元年十月新脚
中田宗兵衛出

老脚 長門行

久々湊村

清右衛門

一 老脚 せんた行(い脱カ)

三ヶ新村

喜左衛門

旅名 松や清八郎

一 老脚 同

同 和泉国行

大坂出

八助

一 老脚 同

庄五郎

旅名 三国や(喜カ)右衛門

橋次右衛門

同 越前国行

山出

市右衛門

一 老脚 陸奥国行

中野村

清六

(老脚脱カ)尾張国行

新川出

次郎左衛門

柳瀬村

政 財 行

旅名 宮城忠藏
荒井両房

志脚

布目村

仁右衛門

一 志脚

陸奥国行

同

次郎左衛門

同

同 人

仙台廻り

ノ五脚 嘉永二年十月新脚也

(志脚脱カ)

一 志脚

越後国行

同

久四郎

越後行

鏡宮村

六兵衛

旅名 太山甚右衛門

一 志脚 陸奥国行

小杉新町

長之助

一 志脚

越後国行

同

理兵衛

仙台廻り

旅名 松尾小兵衛

一 志脚

陸奥国行

同 人

一 志脚 右同断

同 人

南部廻り

一 志脚 右同断

同 人

旅名 大和や平兵衛

旅名 竹内弥三次

一 志脚

陸奥国行

同 人

一 志脚 出羽国行

同

藤右衛門

南部廻り

庄内廻り

旅名 加賀や菊右衛門

旅名 越前や彦右衛門

一 志脚

同

太兵衛

一 志脚 陸奥国行

同

弥兵衛

一 志脚

奥州行

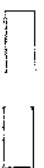
同

源右衛門

南部廻り

南部廻り

旅名 稱積や庄助



期

末

慕

I

一 老脚

信濃国行

大白石村

安兵衛

彦根高□

越後廻り

□草津廻り

旅名 嶋田清吉

旅名 三輪八郎兵衛

一 老脚

越前国行

橋下条村

与左衛門

一 老脚

右同断

同 人

旅名 中川

一 老脚

武蔵国行

同

長右衛門

一 老脚

尾張国行

同 人

下総国廻り

三河国廻り

旅名 □ □ □ □

旅名 中川小兵衛
若林□□□

一 老脚

武蔵国□

同 人

一 老脚

同

五兵 □ (衛カ)

江戸廻り

一 老脚

陸奥国行

小杉三ヶ村

太吉郎

一 老脚

旅名 小林十蔵

一 老脚

旅名 大和屋平八

南部廻り

一 老脚

但し右脚弘化四年十一月大門新町伊助を譲り

小杉新町 小兵衛

一 老脚

陸奥国行

同 人

一 老脚

大和国行

黒河村 四右衛門

一 老脚

仙台廻り

和泉国廻り

一 老脚

旅名 時名庄八

黒河村

丈 助

一 老脚

旅名 堀井吉蔵
嶋川文七

一 老脚

信濃国行

黒河村

丈 助

一 老脚

但し右脚弘化四年十二月新脚

一 老脚

旅名 中村謙蔵

黒河村

丈 助

一 老脚

武拾六脚 吟味人小杉新町長之助

一 老脚

近江国行

黒河村

平右衛門

一 老脚

陸奥国行

小杉新町

清五郎

一 老脚

近江国行

黒河村

平右衛門

一 老脚

陸奥国行

小杉新町

清五郎

南部廻り

旅名 齊藤吉郎兵衛

但し右脚嘉永元年十月出来脚也

老脚 信濃国行

小杉新町

小兵衛

一 老脚

中村小右衛門

大門新町

小右衛門

旅名 北嶋太蔵

米子并出雲国□里

(江カ) 松井廻り

旅名 山城次兵衛

但し右脚へ嘉永元年十月新脚也

新脚 新川郡出

(マト) 旅名

弥兵衛

一 老脚

陸奥国行

同

吉四郎

老脚

新脚 新川郡出

小杉町

同 同町

仙台廻り

同

同 同町

小三郎

旅名 □ □

旅名 山本六郎右衛門

同 江州出 南部廻り

同 同町

清五郎

一 老脚

出雲国行

大門村

七三□

旅名

松や源右衛門

ノ三人嘉永二年十月新脚也

一同 武蔵国行

小杉村

又□ □

一 老脚

伯耆国行

東広上村

市□兵衛

名 小林十蔵

一 老脚

丹波国行

中田新村

辻右衛門

嘉永元年 老脚

尾張国行

三ヶ

一 老脚

丹後国・但馬国廻り

柴垣清右衛門

名古屋廻り

□ □

一 老脚

せんだ行 (説カ)

下関村

清左衛門

旅名 松井源右衛門

ノ七脚

吟味人 大門新町

小□ □

弘化元年 同

伯耆国行

小杉新町

太兵衛

一 老脚

伊予国行

横田村

□ □

上嶋廻り

小西安兵衛

但し右脚ハ嘉永元年十月新脚也

左脚 尾張園行

大門町

又右衛門

旅名

同 佐渡 東広上出

市郎兵衛

〓 〓

又式人嘉永二年十月新脚也

同 下総行

上伏間江村 甚右衛門

(竹橋家文書・富山市役所蔵)

九 (嘉永元年)三月 反魂丹場所売買の節、老厘

上納申渡覚書

反魂丹場所売買の節、仲扱人共々御益令上納人数指極度旨、
先年々度々願出候得共、左様有之候而者一統迷惑之筋ニ茂
相聞候ニ付其儀者指止、是以後売買相済売券出来之砌、買
人々老厘可令上納候、一右場所は迄連人面之分名前ニ引直

候様、

右之通被 仰付候条入念可被申付事

申三月九日

(富山売薬業史史料集)

一〇 嘉永三年二月 薬種会所新設につき薬種取扱

心得方申渡書

今度薬種会所御建方就被 仰付候、都而同所より薬種屋
共江御払付ニ相成、勿論薬種商売之儀者、兼而定法も有
之ニ付、先年申達置候通、薬品之儀者真偽之差別も有之、
殊ニ奇人命ニも拘り候品柄故、嚴重縮方申付置候次第ニ
候、依而以来大坂之外自然他国々売買之薬品も、右同所
々御買上ニ相成候条、猥ニ取扱候義堅不相成候

一 反魂丹売人とも諸国江罷越、右売薬代金之為代り、其
国々々産物之薬品請米候之向有之ものハ、駄賃銀・口銭
添を以右同所江御買上ニ相成候
一 是迄薬種之外取扱候義不相成旨、先來々度々相達置候

勉、近年猥ニ他所ヲ買受、随意之扱方有之趣粗相聞、以

勉如件

之外難相濟事ニ候、依而其筋為調理方廻り之もの入念中

嘉永三年十二月

御算用場

付置候条、此後右休之族於右之ハ、荷物等取揚殿格手当

小堀金五右エ門殿

可申付候条、一統可相心得候

吉野 主 馬殿

右之趣、町中一統不洩様、入念可有御申触候、以上

(高岡市史料叢書)

二月廿四日

御勘定所

浅野久左衛門殿

小塚宇兵衛殿

(前田文書・富山県立図書館蔵)

三 嘉永四年六月 高岡町薬種屋、株仲間以外の

薬種屋禁止嘆願書

乍恐書付を以奉願上候

二 嘉永三年十二月 高岡町売薬商人等株立運上

中付書

覚

一 銀 五枚 高岡町薬種商売八人並合薬商売七人役銀

高

政 財 行

一 右、今般株立運上願被仰付候、役銀高右之通当戊年より取
立、毎歳故小物成銀之内へ詰込上納有之、這面可被遂勘定

私共義、薬種屋家業仕罷在候処、旧冬御算用場表御詮議之
上、以前之通高岡町薬種商売八人より、株立御連上とし
て毎歳銀五枚宛上納可仕候様、且右の外にも以後右商売退
出とも有之候は、其時々書上候様仰来候段、被為仰渡奉得
共意申候得共、乍恐是迄在来り候薬種屋之外に、新規の商
売人出来仕候ては、私共迷惑之筋不少訳に御座候、元来薬
種屋之義は、合薬香只屋とも違ひ、御締方有之商売柄にて、
誓詞も被為仰付候程之義に御座候、乍恐御城下を始として

期 御当所におゐても、古来より軒敷御取極被為成置候訳にて、
 猥に薬種屋商売難成、既に天保九戊午諸株御指解の節も、
 薬種屋株之義は御解無御座、御役銀而已御用捨被為仰渡候
(容赦方)
 左候得は今度被為仰渡候退出之義は、乍恐合薬屋に拘り候
 儀にては無御座哉、何れ共無株に相成候ては、私共上方等
 諸向仕入は不及申、充先共人々過分之仕送り差出置指当り
 袋看板一層の家録(録方)にも仕来候処、此末同商売勝手に相成候
 ては、旧来之家業一時に亡失仕而已ならず、畢竟御縮方之
 程も如何可相成哉と心痛仕罷在中候間、在来之通被為仰付
 置候様奉願上候、尤先前薬種屋之内盛衰にて、株讓替御願
 申上候節も、得と讓請人手前穿鑿仕、人柄等聞糺候上中間(仰方)
 一統調印を以、讓替御願申上候極合も御座候、就夫近頃御
 難題の御義御座候得共、今般被為仰渡候御役銀之内、合薬
 屋江配分方も有之、私共手前にて致候ては、心服方も如何
 と奉存候間、先前之通薬種調理方御役人、御立被下候様奉
 願上候、尤御骨折銀之義は私共より奉指上可申候間、此段
 御詮義之上願之通御聞届被為成下候様偏に奉願上候、以上

亥六月

津島屋小八郎 ㊦

- 関屋平左衛門 ㊦
- 植屋藤右衛門 ㊦
- 井波屋太助 ㊦
- 蓮花寺屋理左衛門 ㊦
- 棚田屋喜兵衛 ㊦
- 手崎屋新藏 ㊦
- 戸出屋藤八 ㊦

高岡町 御会所

右書付指出申に付、奥書仕上之申候、以上

当番町肝煎

半左衛門 ㊦

(付紙)
 本文願之趣承届候条、其加銀之儀は宅軒より銀壹枚宛当
 幕より指出、尤御縮方之儀は跡々被仰出之通、嚴重相守
 可申候、且薬種方主付役人之儀は、遂詮義可申渡事

辛亥十一月

〔高岡薬業史稿〕・内藤記念くすり博物館蔵

三 安政元年六月 算用場、他国出売薬役銀上納

方申渡書

各支配所他国出売薬銀等、天保八年以後株立運上等御指止
ニ相成候之処、去戌年最前之振を以取立方申進置候得共、
散小物成之品所ニ寄不列ニ相成候而ハ縮方難相立候ニ付、
当年より相改、他国出売薬役銀壹人拾五匁、同出脚役銀壹人
拾五匁、地廻り売薬役銀壹人八匁五分、所方切ニ而売捌他
所へ商ニ罷出不申分ハ壹人七匁宛取立、散小物成銀之内へ
致上納候様可被申渡候、右しらへ役之者へ出脚銀之内拾歩
壹被下候条、右被下銀引去殘銀高諸方御土蔵上納有之、右
奉行請取切手當場小物成方へ日印請ニ可被指出候、且株役
銀名前、出脚役銀名前別帳面ニ調分可被指出候、以上

六月

御算用場

太田勘左エ門殿

外類 役 中

一 行 財 政

他国出売薬御役銀等、天保八年以後株立御運上等御指止ニ
相成候之処、去戌年最前之振を以御取立方被為仰渡候得共、

散小物成之品所ニ寄不列ニ相成候而ハ縮方難相立候ニ付、
当年より御改、他国出売薬御役銀壹人十五匁、同出脚役銀
壹人拾五匁、地廻り売薬御役銀壹人八匁五分、所方切ニ而
売捌、他所へ罷出不申分ハ壹人七匁宛取立、散小物成銀之
内へ上納仕候様、尤右調理役之者へ出脚御役銀之内拾歩壹
被下候条、右被下銀引去、残り銀高諸方御土蔵へ上納可在、
依而株御役銀名前、出脚御役銀名前別帳面ニ調分可指止
旨御算用場表より仰来候ニ付、入念相しらへ可書上旨被仰
渡、奉得其意段々取調理仕候処、他国出売薬帳之表、薬代
取上り高ニ殊之外甲乙御座候、凡何百貫文取集り候帳面株
より、何拾貫文斗ならて取上り不申帳面も有之、右何拾貫
文計り取上り候株を以売薬渡世之者も有之、又何百貫文取
上り候帳面株を以渡世仕候者も有之、別而地廻り売薬当所
ニ御座候帳面ハ薬代百貫文計取上り候株より、四五貫文な
らて取上り不申株も御座候、夫故出脚も壹人脚ニおよひ不
申売薬株多分有之、其上場所先ニ寄売薬帳之位ニ種々不同
御座候故、其入混難義之向も御座候間、何卒他国並地廻り
共、売薬御役銀壹、五百目定御役ニ被為仰付被下候様奉願

期 上候

I 幕

一 所方切ニ而売捌、他所へ商ニ罷出不申分と申者合葉屋ニ相当り、右合葉屋御役銀之儀ハ葉種屋並合葉屋と申名日を以、毎歳銀五枚宛上納仕米り申候、左候間当年より合葉屋一人ニ銀七匁宛上納仕候時ハ乍恐御役ニ重之様ニ奉存候間何レ成共一方ハ御用捨被為仰付被下候様奉願上候

右兩様願之趣乍恐御賢察被為成下候様、御算用場表へ品能被為仰遣被下候様、奉願候、以上

寅九月

町肝煎 儀左エ門 高原屋

同 儀 作 沢田屋

同 新 藏 手崎屋

同 六郎右エ門 中条屋

高岡町

御会所

(『高岡市史料叢書』)

一四 安政元年閏七月 高岡葉種屋仲間、売葉役銀

輕減方願書

(前文欠)散小物成銀之内江詰込上納可仕様、被為仰渡奉得其意罷在申候、然処今般他国出売葉御縮方被仰渡、所方切ニて売捌候者者(符丸)ハ老人七匁五分宛致上納候様被仰渡、右売捌人と申ハ、合葉屋ニ相当り、御役銀二重ニ相成可申奉存候ニ付、定御役銀五枚之義ハ私共仲間八軒上納仕度奉存、則別紙書付を以御願申上候通ニ御座候、就夫甚以恐多御義ニ奉存候得共、前段当御役所江上納仕来候銀八枚之分ハ、何卒格別之御詮義を以御用捨被為成下候様奉願上候、此段各様方宜敷被仰上、右願之通御聞届被為成下候ハ、難有仕合可奉存候、以上

寅閏七月

葉種屋

津島屋 小八郎

関 屋 庄右衛門

榎 屋 藤右衛門

井波屋 太 助

蓮花寺屋 理左衛門

町肝煎衆中
棚田屋 喜兵衛
手崎屋 新 藏
戸出屋 藤 八

(『高岡薬業史稿』・内藤記念くすり博物館蔵)

一 貳兩壹歩壹朱
通用金銀也
貳匁五分共
但し年分高三百壹匁之所御年銀中半高減し百五
拾目五分暮壹ケ度渡り

右者薬種上縮相勤申候ニ付為御給料被下銀受取申所如件

慶応二年寅十二月

薬種上縮

中田孫九郎 ㊦

三 安政六年八月 反魂丹頼母子方、勘定所取扱
の申渡書

此度御趣意茂有候之候ニ付、反魂丹頼母子方、御勘定処取

右之通相違無御座候也

扱被 仰付候之条、此段町中一統可申触候、以上

内 山 ㊦ 藏 ㊦

宋八月

町 奉 行

村 澤 弥右衛門 ㊦

(『富山売薬業史史料集』)

(内藤記念くすり博物館蔵)

二六 慶応二年十二月 薬種上縮の給料受取り覚書

二七 (年不詳) 反魂丹役所設置につき締方申渡書

覚

反魂丹之儀者

銀百五拾目五分代

御領国之銘産ニ而人々製方念を入候故歟、於諸国旧来より

信用致し來候事本懐之至候、加之過分之御益、其上 御領
 分融通下方之礎ニ茂有之候、全手代小者等入情々起ル儀ニ
 候、然処其内近年於旅先不埒之者も有之体ニ而故障之分度
 有之由粗相聞、往々右体ニ押移、相互に産業之衰ひに至候
 事者歎敷事ニ候、其上御同益ニ茂障候而者以之外之事ニ候、
 此度反魂丹方別役所ニ被 仰付候以後御趣意之通奉得其意、
 猶更嚴密ニ可令商売候、若心得違之者於有之者可為曲事候、
 一 反魂丹商売一件之儀者是迄度々定書等を以相違有之候
 通、諸事堅可相守事
 一 右産業ニ相拘り候願筋等何ニ不限都而当役所江可申出
 事、右等之趣諸組年行可共江申渡、右所業之者共江不洩
 様急度申聞候様可申渡者也

子三月

反魂丹方

役所

反魂丹 上縮

(富山県立図書館蔵)

二 生 産

一八 (寛政八年)九月 熊買上値段値上の上申書

熊胆之儀是迄御買上直段下直ニ付熊捕之者共無情ニテ捕獲
 不申様之義ニ候ハ、直段之儀ハ藥店ニ買請候程之直段ニ御
 買上被下候ハ、格別入情熊捕可申候右等之趣不村々段々申
 合候処近年熊別而差当り不申候得共藥店エ買請候直段を以
 御買上被下義ニ候ハ、猶更心懸ケ熊捕獲次第御案内可申上
 旨申聞候

右御尋ニ付小紙を以申上候、已上

辰九月

沼保村 彦 四郎

天正寺村 十次郎

新堀村 半三郎

山田村 庄 助

黒崎村 六左衛門

篠原權五郎様
松崎左兵衛様

石佛村 新三郎
神田村 惣右衛門
沼保村 幸右衛門

(こまさらへ)

元 天保六年十一月 薬種取締り願書

新川郡東岩瀬上野屋源七等式人并銀主隣村森村三郎右衛門
都合三人、於同所薬種売買店相建中度願書并仕法帳面指出
候ニ付、御達奉申上候、然処立山等谷合ノ村々々掘出候草
根木皮并猪・猿も夥敷居候故、三山麓薬草掘稼之者共并狩
人等ハ多居候而取揚候へ共、是迄新川郡・射水・砺波三郡
共誰買入候者も無御座候処、狩人等ハ其日稼之困窮者共ニ
付、売急キ候而、替々他領へ持運下直ニ買受候而も無掘売
來申様子ニ御座候、尤右体之趣ニ付近年岩瀬御役所ニおい
て熊取揚御断申上候へハ、即日代銀御渡之義兼而被仰渡方

も御座候へ共、勝手悪敷故歎御役所へ指出不申様子ニ御座
候、且又各々村々々売先へ手遠之者も有之不弁理之様子ニ
御座候得共、無是非他領他国へも持運可申道理ニ御座候、
依テ薬種売買店相建、其外各々村々向寄々々勝手宜敷方々
出張店仕、都而薬種等直段宜敷買入候へ、薬種掘ノ者共并
狩人稼方成立ニも相成、追々立山一山等之薬種等買集候者、
往々御国産成立之基与奉存候

一 新川・^(射水)体水・砺波三御郡々売薬人、御領国并他国へ持

参仕渡世仕來候者共凡千五六百人も在之候処、不殘富山

薬種屋共是迄買入申よしニ候へ共、以來ハ右店々売捌

仕送等いたし、御国用余分ハ当時江戸表産物売支配所并

屋七左衛門・大阪鎰屋善兵衛両家相送り申度よし申聞候、

右両家ニも立山々出候者、都而上品ニも相望可申よし申

越候、且又上方々取寄候薬種者、以來鎰屋善兵衛方々相

送り申度よし申聞候、左候得ハ交易ニも相成可申候

一 銀主東岩瀬隣村森村三郎右衛門義、身元相心^(行方)ニ而御御

高も所持仕罷在候ニ付、右様新成願方杯ハ世間お兼初発

名前ハ指出兼候旨、私へ内談ニおよび候ニ付、別紙ニ相

整為指出候へ共、御圍屈之上ハ同様ノ義ニ御座候

右ノ趣御詮義之上御圍屈被下候ハ、里方等村々浜手ニ
も薬種ハ品々御座候間、買入店相建候へハ、幼少者等ニ
至迄も稼方ニ相成候哉与奉存候、尤都而藥種者前々も他
国他領へ指出申義ハ御止事之義ニハ御座候へ共、藥種掘
并狩人江被仰渡被下候様仕度奉願上候、且又御冥加銀ハ
私ハ取立奉指上候、勿論店成立ニ応シ御冥加増方仕候様
為心得可申候、左候へハ永久御国益筋と奉存候間、何分
宜敷御詮義可被下候様仕度奉願上候、以上

十一月 産物主付御銀才許 一丸甚六

御算用場

(江戸方御用留・金沢市立図書館蔵)

二 天保六年十一月 東岩瀬上野屋源七等、生薬

買入問屋立方仕法書

立山下等谷々村々ハ掘出候生薬種、岩瀬ニおいて買
入問屋相建候仕法書

私共之内前々ハ藥種取扱渡世仕罷在申候新川御郡岩瀬等所
々売買人凡九百人程、御領国并他国江売薬持参仕永続仕来
申候、尤惣御年寄中主付ニ而、売薬一株御役銀廿式匁宛、売
子皆人役拾五匁宛毎歳御取立上納仕候、右九百人程之者共
取扱候藥種之義者、他国他領之商人ハ過分年中買受来申候、
藥種ノ内多分新川御郡立山下等山方村々、別冊ノ通草根・
木皮・黄耆・黄蓮等諸々藥草取揚、及狩人并熊等ノ胆多捕
申候得共、新川御郡之内ニ而誰買人申者も無御座候故、藥
種等掘出候者之義ハ其日稼同様ニ而、不残他国他領へ持運
売来申候、段々承合候処、売薬人へ買受候直段身、生薬種
山方等持参之者共ハ買入候直段等ハ過分之違ニ御座候、左
候へハ年分銀高過分之事故、儲成銀主無御座候而ハ迎も詮
義方片付不中、仲間相欺居候処、此度別紙申上候人身元體
成義ニ而、銀主付相成候間、於岩瀬藥種等買入座相建売買
仕度奉存候、尤右藥種等御領之外ハ当時御産物売支配所江
戸表舩屋七左衛門・大坂鑓屋善兵衛江折送売捌仕度奉存候、
依而為御冥加来ル申年ハ西戊三ヶ年之間、銀五枚充上納仕
候、且私共方ニ而製法仕候藥種、是迄売買之直段ハ下直ニ

付而ハ、葉極上惣而之売買人等へ売高過分ニ相成候上ハ、

御産物主付御銀才許 一丸甚六殿

追々御詮義ヲ受上納高出情可仕々奉存候、此段何分ニも宜

(江戸方御用留・金沢市立図書館蔵)

敷御願可被下候、尤射水郡高岡等売買人他国等へ三四百人

斗も罷出候者御座候間、何れニも立山下葉種等於岩瀬買入

製法仕、御領内中売弘申度奉存候間、御聞届ノ上ハ新川御

郡葉草掘并狩人共都而取扱ノ品、右葉種店へ売出、他国他

領へ堅指出不申様、敷重被為仰渡被下候様奉願上候、勿論

直段之義者是迄他領等も売遣シ候引競も在之候間、精誠成

限直段宜敷買入可中与奉存候、尤各々村々々岩瀬へ指出シ

候而ハ向寄悪敷ケ所ハ、其向寄々々御出張座相建買入申義

ニ御座候、且立山等ノ麓谷々之義ハ莫太ノ事ニ而、何品ニ

而も結構成葉種等ニテ、何国ニも望人多有之売捌方指支申

義無御座候間、幾々過分成御産物ニ相成可申哉ニ奉存候、

左候へハ今般初発之義ニ候間、至テ事軽ニ仕取懸度奉存候、

売人中等追々したしみニ応シ段々手広ニ仕度奉存候間、何

卒此段御願可被下候様奉願上候、以上

天保六年十一月

東岩瀬
同 上野屋 源 七
小松屋 金右エ門

一 水次(猿カ)
一 有峰
一 双嶺谷 薄波村等六ヶ山 右同断

三 天保六年十一月 立山麓の生薬と村々書上
立山麓草根・木皮等過分ニ掘出シ中村々狩人等予書
記シ申上候

飛州堺

一 猪谷等村々 猿捕申候並狩人罷在候、且葛根・厚朴等

品々

一 長棟山 葛根・厚朴等品々

立山南口

一 奥野山 熊・猿・猪捕申並狩人罷在候、且黄蓮・

黄芩・黄耆・山藥・竹節人参・白朮等其

外品々

一 水次(猿カ) 熊・猿・猪等其外葉草品々、右同断

一 有峰 右同断

一 双嶺谷 薄波村等六ヶ山 右同断

期 末 立山下

一 小見村 右同断

一 龜谷山 右同断

一 原村 諸薬草品々

一 本宮村 右同断

一 中地山村 右同断

一 岡田村 右同断

一 芦嶽 右同断

一 栃津村 右同断

一 千垣村 右同断

一 横江村等 右同断

白岩谷山方

一 長倉村 熊・猿・猪捕申候並狩人罷在候、其外諸

薬草品々

一 城前村 右同断

一 芦見村等 右同断

大岩山

一 浅生村 右同断

一 檜谷村等式ヶ村

同下

一 大松村等六ヶ村 諸薬草品々

中谷

一 種村 熊・猪捕申並狩人罷在候、其外諸薬品々

一 千石村 右同断

一 同下

一 稻村等村々 柴胡・前胡・独活・羌活等諸薬草品々

立山東又早月谷

一 伊折村 熊・猿・猪捕申候狩人罷在候、其外諸薬

草品々

一 蓬沢村 右同断

一 下田村 右同断

一 早月中村等三ヶ村 右同断

中谷

一 五位尾村 杏仁・桃仁等諸薬草品々

一 長谷村 右同断

一 黒川村 右同断

一 胡摩堂村 (護カ) 右同断

東早月

一 虎谷村 熊・猿・猪等捕申候並狩人罷在候、其外

諸薬草品々

一 河原波山 右同断

一 大熊村 右同断

角川谷

一 松倉山 右同断

一 鹿熊村等六ヶ村 右同断狩人多罷在申候

片貝谷

一 山女村等三ヶ村 右同断

布施谷

一 尾山村等六ヶ村 熊・猿・猪捕申候並狩人罷在候、其

外諸薬草品々

産

黒部谷村

一 笠破村 右同断

一 内山村 右同断

一 乙沢村 (音カ) 右同断

二 生

小川入并ひり谷

一 山崎村等三ヶ村 熊・猿・猪捕申候並狩人罷在候、其

外諸薬草品々

一 笹川村等村々 諸薬草品々

越後塚

一 大平村 諸薬草品々

右薬草等掘出シ候村々等子メ相記シ申候、此外山方村々里

方ノ村々ニも薬草之類莫太之義 (大カ)ニ御座候、浜方ニも防風等

出来仕候

但 山方等手遠之ヶ所ハ、上之手之分ハ笹津村ニ在ヶ所、

出張店上市村・三日市村、下筋村ニハ泊り駅ニ出張店建

置買受申度奉存候、左候ヘハ手遠ノヶ所ハ弁理宜与奉存

候

一 前口八間後口ヘ廿五間程土蔵式ツ納屋、戸前上野屋源

七宅之事

未十一月

東岩瀬上野村 (屋カ)

源 七

小松屋 金右衛門

御産物主付御銀才許 一丸甚六殿

(江戸方御用留・金沢市立図書館蔵)

三 天保七年四月 東岩瀬村に藁草問屋設立反対

願書

新川郡東岩瀬上野村源七等藁草等之間屋仕度旨、仕法書ヲ
(註カ)
 以産物方主付御銀才許一丸甚六江願出シ候由ニ而、甚六添
 書ヲ以御算用場へ御願申上候ニ付、藁草等問屋相建候而も
 村々差支之義無之哉、遂詮義可申上旨被仰渡奉得其意候、
 則藁草掘出候村々詮義仕候所、右様問屋等相建候而ハ売捌
 方手詰ニ相成、是迄直段問合何方へ成共高直ニ買入候者へ
 売渡来候処、以後直段押付可申下々甚迷惑仕候義ニ御座候
 間、是迄之通村々勝手ニ売捌候様奉願上候段申聞候、何分
 村々不迷惑様宜御詮義被成下候、在来通勝手ニ売捌候義被
 仰付置候様仕度、書付を以御達申上候、以上

中四月

御郡御奉行所

(江戸方御用留・金沢市立図書館蔵)

宝田 宗兵衛 印

伊藤 源 次 印

(参カ)
松木 弥 助 印

神保 嘉一 郎 印

結城七郎右エ門 印

朽木八郎右エ門 印

金山伊三右エ門 印

神保 助三 郎 印

岩城 七三 郎 印

野嶋 久兵衛 印

金山 彦左三門 印

(東カ)
伊藤 彦四 郎 印

田村 前 名 印

金山 十次郎 印

(原カ)
伊藤次郎左衛門 印

三 (安政三年)五月 無株者の薬種捌方取締り嘆

願書

乍恐口上言を以奉願上候

私共義薬種商売仕、先前より彼為仰渡し御法式相守、仲商共相互ニ吟味合渡世仕来申候、然近來無株之もの共諸国ノ薬種取調買人之撰無猥擲歩行余り増長之次第ニ御座候、私共商売方自然と手薄ニ相成、其上諸国ノ買入薬種不依何相場相狂、商売向手配り不都合ニ相成、捌方六ヶ敷無精御座候而ハ、行々取続方ニ指障り候義願前仕候、誠ニ以心痛至極罷在申候、依之不得止事ノ御歎題中上候、右之趣何分ニも宜被為聞召訳、何卒御取縮被為成下候ハ、商売向都合宜相成、末々一家相続仕候様被仰付候得者弥増御国恩を扇キ、一統ニ難有奉存入候、何卒御慈悲之上を以右奉願候通被為仰付被下候得者忝仕合ニ可奉存候、已上

辰五月

薬種屋共

(二)こまざらへ(一)

二 生 産

三 文久三年十二月 射水郡薬種仕法書

射水郡薬種仕法帳御達申上候ニ付、別冊控為御承知相廻申候、先々急速御廻從納善左衛門へ御返可相成候、以上

亥十二月廿一日

石崎市右衛門

南 善左衛門

諸郡

御扶持人中様

文久三年十二月

薬種仕法書

射水郡

射水郡之義薬種品数ハ無御座候得共西条組五十里村辺・南条組島村辺之者共耕作之透ニ御郡之内所々山方等へ罷越、半夏・茯苓・黄蓮之類^(堀カ)立候得共纔之義ニ而是迄氷見町等へ其時々売渡来候義ニ御座候得共、追々勢子為致薬種^(堀カ)堀立方相増候様為致度奉存候ニ付、土洗人先ツ左之ヶ所ニ相立候義御聞届被下候様仕度奉存候

守山町ニ老人

期 一 会所相立候とも雜用も有之纒之粟種ニ而者雜用出道も
 末 無御座候間、当分守山町肝煎方ニ世話為致置、追而粟
 幕 種相増候上ニ而会所立方詮義仕可中と奉存候

一 土洗人之義月々斤数等相調理、肝煎方ニ翌月上旬為書
 出可申候

一 御城下并高岡等粟種屋ニ而入用之節ハ守山町肝煎方へ
 粟種屋罷越出詰立会直段極以易之候上引取候者可然と
 奉存候

右射水郡之義粟種^(堀カ)堀人少ク、当時ハ余斗も無御座候ニ
 付、為試前段之通被仰付被下候得ハ追々勢子仕相増候
 様ニ為仕申度、尤相増候場ニ至リ候得ハ土洗人も相増
 且会所等之義尚又詮義仕御達中上度奉存候、以上

亥十二月

南善左衛門

松橋理三郎

高嶋庄右衛門

作道村甚兵衛

石黒源三郎

水内六三郎

御産物方

(産物方御用留、金沢市立図書館蔵)

三 元治元年三月 粟種搗屋株売渡証文

永代売渡申粉挽搗屋株之事

一 私所持仕候粉挽搗屋株粟種動挾拾三本之内式本、諸道
 具相添代銀老貫式百目ニ相極メ、売渡銀子不残唯今請
 取申候所実正ニ御座候、然上者此株之儀ニ付是已後御
 年貢ハ勿論御役銀參請等ニ茂相立不申候、為其後日之
 粟種搗屋株売券証文仍而如件

文久四年子三月

大泉村

小三郎 印

頼母子連中

右之通売買同名一統納得仕候、以上

大泉村肝煎

七兵衛 印

同継合頭

忠兵衛 印

同 長右衛門 ㊦

二月十八日

右之通相調理中候所相違無御座候、以上

年行司

伝五郎 ㊦

能州御郡奉行中

御算用場

同 又兵衛 ㊦

写

右之通印形相違無之候

粉挽揚屋肝煎

嘉助 ㊦

薬種仕法大綱左ニ申渡候

右之通承届候、以上

上総

高堂平右衛門 ㊦

一 御国産薬種会所相建御城下近郷之薬品不残土洗人^(点方)為指出、御医師中立会を以黙検、直段相極売捌可申候、

老ノ式百目

動扶式本売券

宮田清三郎

(内藤記念くすり博物館蔵)

一 直段立方之義ハ大坂等之相場時々承合、土洗人等難義ニ不相成様見斗相当ニ直段取極可申候

三 慶応元年二月 薬種仕法大綱

産

別紙写之通薬種仕法方申渡候条可被得其意、且砺波・新川

御郡等御縮山へ立入候者共当场洋物方印章之縁礼可相渡候、

生

尤堀子^(堀方)・土洗人等薬種屋等へ直売・直買不相成様嚴重可被

二

申渡候、右之趣夫々不相渡様可被申渡候、以上

一 能越等遠所^ヲ出産之品々当地へ為指出候前者不益之筋も可有之哉、依而要^ル用之薬品入用高急^ニ取^ル其^ケ所々産物会所へ可申遣置候、尤出産次第送り越候様夫々可申渡候

一 遠所町等ニ罷在候薬種屋共用薬入用高取^ル其^ケ所会所へ書出、会所^ヲ買請可申候、尤堀子^(堀方)・土洗人^ヲ直買不相成義ニ申渡候問左様可相心得候

但買取直段之義当地直段ニ不相触買入候義ニ申渡

候、且買入高追而相届候様是又申渡候

一 御国内不向之品々出津願出候へハ時々詮義ニ相渡候之
条詮義之趣可申聞候、付リ出津之節諸品同様百歩一口
錢取立、当分在来之通り其ヶ所産物会所ニ而為取揃可
申候

一

一 薬種売人・買人ガ代銀百日ニ付五分充口錢取立会所ニ

除置可申候、口錢取立方月々相達候上可及指凶候

一 新川郡等御縮山へ立入候堀子等へハ為見合産物方印章

之縮札相渡可申候

一 年中而三度充為御縮方可令廻村候、其外詮義を以廻村

可申付候

一 洩菜種等有之候ハ見答指押相達可請指凶候

右仕法方大綱ニ候、猶追々詮義之上可申渡答ニ候へ共

心付之趣有之候ハ可申達候、尚更御縮高跋重可相心

得もの也

丑二月

御算用場

御国産菜種縮役

(産物方御用留・金沢市立図書館蔵)

三 流 通

(1) 懸 場

三七 天明四年〜寛政八年 奥中国組歩帳

〔第一丁・第二丁表裏空白〕

〔第三丁表〕

四番 女清

寅二月十日改ル(四) 丑子年

歩高六步(四) 生場所(四)

印形改(四) 戌四月十日改

一 菜種屋權七 備前・備中・安芸(備後)

女川屋清 四郎(四)

(四) 右三ヶ国通り筋(四) 手代 老 人(四)

周防・長門(四) 安芸国広島堺西之方周防迄筋(四)

小者 式(七) 人(四)

備後国、道筋・東城・西城、吉野屋宗左衛門ガ買添、天

明四年辰五月十一日

小者老人添[㊦]、歩高三步、備前・備中・備後・安芸国広島迄道筋、寛政三年亥四月三日京田屋直次郎江売切、

④内三步京田屋直次郎方江売切[㊦]

〔第三丁裏〕

所持之内周防・長門五歩[㊦]、名前付、懸高[㊦]三百[㊦]文之帳
老冊、代銀[㊦]式[㊦]目極、右引当頼母子入、天明五[㊦]五月十

七日(午四月廿一日消入)

④三步周防・長州、名前付、懸高[㊦]式百貫文之長面一冊、

(較力)

代銀老貫式百目ニ引当、天明六年午四月廿一日(寛政元年西五月十一日消入)

④又三步、備前・備中・安芸・備後[㊦]四ヶ国、式百五十貫文之帳面、代銀老[㊦]五百[㊦]匁ニ頼母子引当相

〔第四丁表〕

成申候、寛政元年西五月十一日(亥三月朔日消入)

④又老歩、周防、懸高[㊦]百五拾[㊦]文之帳面、代銀老[㊦]目、

立町酒屋善三郎方へ引当、寛政二年戌六月八日(亥五月

三 流 十六日消入)

④又式歩、長門国老ヶ国、手代老人相添、懸高[㊦]百八拾[㊦]文之帳面老冊、代銀老[㊦]式百目ニ頼母子引当出ル、寛政

二年戌六月廿一日(亥三月十一日消入)

〔第四丁裏〕

又式歩、備前・備中[㊦]式ヶ国道筋、懸高[㊦]式[㊦]文帳面老冊、
代錢百七拾[㊦]文ニ、長井原町七高屋治兵衛方へ引当、

又老歩、備後国道筋、小者老人、懸高百五拾貫文帳面、

代錢百三十[㊦]文ニ、長井原町七高屋治兵衛方へ引当、寛

政三年亥三月朔日(同四月三日消入)

〔第五丁表〕

内三步、小者老人相添、備前・備中・備後・安芸之国広島迄道筋、懸高[㊦]四百七拾[㊦]文帳面、代錢四百式拾[㊦]文

ニ、京田屋直次郎方江売切、寛政三年亥四月三日

又老歩五厘、長門国不殘、式百五拾貫文帳面老冊、代錢

式百貫文ニ、千石町河口屋源次郎方へ引当、寛政二年亥

四月廿六日(寅二月十一日消入)

〔第五丁裏〕

又老歩、周防国不殘、掛高[㊦]式百貫文之帳面老冊、代銀[㊦]

卷ノ五百目、室町石坂墨宗四郎江引当、寛政三年亥五月十六日(子四月三日ニ消入)

又五厘、安芸国広島界ノ西ノ方不残、懸高ノ式百七拾ノ文之帳面老冊、代銀式ノ目ニ、三番町塩屋宗助方へ引当、

寛政四年子閏二月廿八日

又圃老歩、周防国不残、掛高ノ三百貫文之帳面老冊、代

錢式百五拾ノ文ニ、堤町川上屋喜兵衛方へ引当、圃子四

月三日(寅二月一日消入)

老歩周防国不残、老歩五厘長門国不残、ノ式ケ国、懸高ノ六

百貫文長面一冊、代銀五貫目ニ、能登屋徳右衛門方へ引当申

候、寛政六年寅二月六日

〔第六丁表〕 五番 美正

歩高式歩 生場所圃

置名代 周防・長門・備前・備中・備後
安芸圃ノ六ヶ国通り筋圃

美濃屋正 兵 衛

〔第六丁裏〕

歩式歩五厘、越中・加賀・能登・越前・近江・山城・津

国・和泉・河内・備中・備前・備後・安芸・周防・長

門・美濃・尾張・三河・武州・上州

右場所、天明四年辰四月被仰付候新名前、手代老人相添、

美濃屋忠助殿へ被相讓候、

歩高式歩五厘ノ内 但シ、忠助殿歩高共ニ本家へ借シ分ニ而

ノ

一 備前・備中・備後・安キ・周防・長門、ノ六ヶ国道筋、

掛高ノ三百貫文、頼母子引当、酉九月廿一日

〔第七・第八丁表裏空白〕

〔第九丁表〕 六番 田文

歩高八歩 生場所圃

一 菓種屋源十郎(備前・備中圃備後・安芸圃 亥年改筋
道筋(此道筋消ス事) 田畑屋文右衛門)

引残天明元年辰五月三日改歩高式歩也用 手代 老人

小者 老人

歩高八歩内

一 五厘、備前・備中・備後・安芸ノ四ヶ国道筋、菓種屋宗

七名代本屋重右衛門ノ買入場所、天明六年午四月三日

右買込ニ相成候ニ付、向寄見消、丸国々仲調納得仕候事、

寛政八年辰三月十四日

一 車屋勘四郎名代之分 備前・備中・作州ノ内蔵舖・なら原辺斗り

右茶木屋条次郎殿分買添[㊦]、天明四年辰二月十八日

作州不残五厘、井上屋清次郎江売切、天明六年午四月

三日

〔第九丁裏〕

右之内老步、浦田屋平四郎引当、卯三月廿三日（辰二月

八口けし）[㊦]

又老步、名前付、□子屋喜八郎引当、卯三月廿三日

又老步、備前、備中道筋ノ式ケ国、掛高百八拾貫文帳面、

代銀三貫六百目ニ、室町牧野屋吉兵衛殿へ引当、辰二月

八日

〔第十丁表〕

又老步[㊦]五厘、作州・備中・備前ノ三ヶ国、掛高百八拾貫

文之帳面、代銀貳貫目ニ、鍛冶町老丁目井上屋傳次郎江

引当、辰二月十八日

（右三通共、天明五^{（巴カ）}十二月廿三日ニ消ス）

右場所内、式步、新名前ニ而田畑屋甚藏方へ売切、天明

五^{（巴カ）}三月廿三日、田畑屋文右衛門[㊦]

〔第十丁裏〕

步高八步、備後・安芸道筋・備前・備中ノ四ヶ国、名前

付、手代・小者相添、不残懸高五百貫文、代銀五貫目ニ、

室町牧野屋吉兵衛方江引当、天明六年四月三日

（右売券未三月十八日消入）

内式步、備前一国、手代老人添、懸高ノ貳百ノ文之長面

一冊、代銀貳ノ目ニ、頼母子引当入ル、未三月十八日

六步、安芸道筋・備後・備中ノ四ヶ所、小者老人添、懸

高ノ三百ノ文之長面、名前付、代銀三ノ目ニ、古^{（カ）}か

〔室〕町牧野屋吉兵衛へ銀引当入、未三月十八日

ノ出切也

〔中略〕

〔第十八丁表〕 九番

步高老步[㊦]

一 松井屋佐兵衛 備前 備中

（岡山ノ西南ノ方者村澤屋忠

兵衛売渡、此儀売渡し之年

中渡し印判取置）

〔本〕江屋清藏[㊦]

松井屋佐兵衛[㊦]

小者 老人[㊦]

（同名代ニ而此小者五

畿内ニ而売申候、以

後老人廻り、天明六年三月朔日

〔第十八丁裏〕

右場所、白木屋弥三郎引当、卯三月廿八日（寛政三年亥

二月八日消入）

右場所、備前老ヶ国、名前付、頼母子引当、寛政三年亥

二月八日（寛政五年丑二月消入）

右場所老步、名前相添、備前老ヶ国、尤外ニ播磨老ヶ国、

懸高ノ六百貫文之帳面老冊、代四貫八百目、愛宕町木郷

屋清蔵売切、

寛政五年丑二月

松井屋佐兵衛

〔第十九丁表〕

式分、備前国不残、連人老人相添、懸高ノ四百八拾七ノ

文之帳面老冊、代錢三百八拾七貫文ニ、松屋善次郎方

買入、寛政八年辰二月廿六日

〔第十九丁裏空白〕

〔第二十丁表〕 小番 亀善

歩高五歩五厘 生場所圓

一 松井屋源兵衛

（改松野兼賢）

備中（美作之内久瀬、高田、湯原、伯耆之内倉吉）
（此分天明五巳三月廿六日、松尾屋源右衛門方へ売切）

吹屋宗九郎

手代 老人

手代 老人

手代 老人

⑨歩高老步五厘、備前下津井辺、室屋富三郎方へ買添、

天明四年辰五月三日

備前国不残、寛政六年寅三月廿八日、歩老步付ニ而、風

呂屋町田尻屋伊兵衛方へ売切、尤仲間納得之上、買つ

しに相成、此場所主中屋長兵衛也、名前不持故、

〔第二十丁裏〕

右之内三歩〇頼母子引当、西四月十一日（天明五年巳二

月廿一日消入）

又五厘、浦田屋富三郎へ引当、寅五月六日（天明五巳三

月廿六日消入）

又式步、五畿内五ヶ国、備前・備中、懸高ノ三百七十ノ

文帳面老冊、代銀式ノ五百目ニ売切、吹屋弥三吉方へ相

讓候、天明四年辰四月廿八日

老步五厘、備前、室屋富三郎が買添之場所、代銀三百七十日、中野町散地布市屋喜兵衛方へ引当、天明四年辰五月三日(寛政元年酉三月朔日消入)

〔第廿一丁表〕

(付紙)

一步高五歩、吹屋惣ノ分、

外ニ老歩五厘、室屋富三郎が買添、

ノ六歩五厘

右之内五厘頼母子引当、

内老歩、頼母子引当、天明六年午五月廿六日(寛政元年

酉三月朔日消入)

又五厘、頼母子引当、天明六年午五月廿六日(寛政元年

酉三月朔日消入)

〔第廿一丁裏〕

右之内貳歩、寛政元年酉三月朔日ニ頼母子引当テ(子四

月六日消入)

四歩五厘、酉三月廿三日、佐のや久兵衛殿方へ引当テ(戌

三月廿一日消入)

ノ六歩五厘出切、

又四歩、戌三月廿一日ニ佐野屋久兵衛殿方へ引当テ(寛政五年三月廿六日消入)

又五厘、戌三月廿一日ニ頼母子引当テ(亥二月廿二日消

入)

ノ六歩五厘出切、

〔第廿二丁表〕

又五厘、亥二月廿三日ニ頼母子引当

又老歩、備前国津高郡・赤坂郡、懸高ノ百三拾貫文帳面、

代錢七拾ノ文、頼母子引当、寛政四年子四月六日(同六

寅三月廿一日消ス)

又老歩、備前国御野郡・児島郡、懸高ノ百三拾ノ文帳面、

代錢七拾ノ文ニ頼母子引当テ、寛政四年子四月六日(同

六寅三月廿一日消ス)

〔第廿二丁裏〕

又老歩五厘、召連人相添、備中国川辺・矢懸・七日市・

高屋迄、掛高ノ貳百六拾貫文之帳面壹冊、代銀百九拾貫

文ニ頼母子引当テ、寛政五年丑三月廿五日

又老歩五厘、備中国板倉・足守・物社・松山迄、懸高ノ

式白三拾五貫文之帳面老冊、代錢百八拾貫文、頼母子引
当、寛政五年丑三月廿五日

又老步、備中国庭瀬・倉敷迄、懸高ノ百三拾貫文帳面老

冊、九拾貫文ニ、同年丑四月八日、熊野屋忠三郎殿へ引

当、

〔第廿三丁表〕

ノ六步五厘出切、

内老步、備前国不殘、寛政六年寅三月廿一日、風呂屋町

田尻屋伊兵衛方江壳切、右場所買つぶしニ相成、尤仲間

納得之上、

老步、備中国井原在・高尾下も不殘、懸高ノ百三拾五貫

文長面老冊、代錢九拾貫文ニ頼母子引当テ、

ノ五步五厘出切、寛政六年寅七月廿三日改、

廿三丁裏空白〕

〔中略〕

〔第四十四丁表〕 十六番

直名代 備前・美作式国圖

中市屋六右衛門

〔天明四年辰三月廿八日、右場所、泊屋八十郎殿江壳切、

但し是迄場所名前中市屋右衛門与御座候得共、名替仕、
茶木屋清兵衛与相改候)

〔第四十四丁裏〕

右之内五厘、泊り屋八十郎引当、寅五月廿三日〔天明四

年辰三月廿八日消入〕

右之場所、泊屋八十殿へ辰三月廿八日、壳切

〔中略〕

〔第百四十九丁表〕 三十五 室五

步高六步五厘圖 外ニ三歩五厘五畿内ニ有、

一 薬種屋傳之丞

備前、備中式圖
(伯耆ノ三ヶ国)

室屋五兵衛圖

手代式人圖

小者老人圖

内手代老人村忠方へ壳
切、寛政四年子六月改

〔步高六步五厘、外ニ三歩五厘〕

外ニ、步四厘、備後国通り筋、天明四年辰五月十三日、

美濃屋忠助を買添、

步老步、又五厘生場所を相譲り、備前・備中・伯耆、

三ヶ国、中市屋新助を買添、天明七年申正月十日〔此

買添不残売切)

〔歩高六歩五厘、外ニ三步五厘圍〕

内巻歩治助江切出し、又巻歩助三郎ニ切出し、引残而

中国歩高四歩五厘、又三步五畿内を送り歩、合七歩五

厘、亥七月廿八日改、

(付紙)

材木町式丁目室屋五兵衛、当組ニ余り歩三步有之候ニ

付、其御組江相讓申処、相違無御座候、以上

亥七月廿八日 五畿内年行司 善 六

中国年行司衆中

総歩高七歩五厘亥七月八日改圍内五厘中市屋新助を買添

場所之方江讓ル、尤吹屋宗九郎方へ売切、引残り七歩圍

改子六月六日、又式歩、五畿内組を送り歩、寛政六寅十

月三日入、又九歩、

(付紙)

室屋五兵衛所持場所之内、式歩、当組を奥中国に送り

歩ニ仕候間、其御組御帳面被成可被下候、以上

寛政六年寅十月三日 五畿内年行司 兵右衛門

奥中国組当番年行司衆中

(付紙)

歩高九歩、備前・備中・備後・伯耆、連人老人太

〔勘、寛政六寅十月三日改〕

買添五厘、伯耆巻ケ圍、寛政六寅四月三日買入、吹屋宗

九郎方を、

内三厘圍伯耆、柳原屋茂右衛門へ売切圍又式厘圍伯耆、

小松屋鶴三郎へ売切圍出切也、

〔第四百九丁裏〕

右之場所名前不残、室屋源十郎方引当、卯十月十八日

(未五月二日消入)

買添場所、備後国巻ケ圍、四厘、辰六月朔日、頼母子

引当(寛政三年亥六月五日、此引当売券老人相添、代銀

巻ケ式百目ニ村澤屋忠兵衛方へ売切、寛政四年子六月六

日

五厘、中市屋新助を買添場所之内、伯耆巻ケ圍、掛高を

四拾貫文帳面巻冊、代銀八百目ニ相極、吹屋宗九郎方へ

売切、寛政四年子六月八日

巻歩、備後国不残、八人町關屋藤八方へ引当、寛政五丑

七月十二日、室屋五兵衛圍

(十一月六日消入)

期〔第百五十一丁表〕

末 匣式歩、備後国不残、立町下条屋加右衛門殿引当テ、寛政五丑十一月六日(寅八月廿六日消入)

幕 歩高五厘、寛政六寅四月三日、吹屋平九郎方^⑧買添場所之内、式厘、伯耆之内半国、小杉屋彦三郎方江売切、同年寅四月十一日、(寛七卯四月十一日本売券仕候)

又三厘、同断場所半国、柳原屋茂兵衛方江売切、同年同日(寛政七卯四月十一日本売券仕候)

式歩、備後国一ヶ国、用立頼母子引当、寛政六年寅八月廿六日(十月三日消入)

卷歩、備後国一ヶ国、井上屋傳八郎方へ引当テ、寛政六年寅十月三日

〔第百五十一丁裏〕

新株天明七年未五月室屋五兵衛ヨリ切分ケ、

一 備前・備中・伯耆^⑨三ヶ国、歩卷歩 室屋治助^⑩

右場所不残、天明七年未十二月十一日、室屋五兵衛へ引

当(天明八年申二月廿八日消入)

内七厘、備中・伯耆^⑨式ヶ国、松井屋源兵衛江売切、天

天明八年申二月廿八日

又三厘、備前国卷ヶ国、京田屋善次郎江売切、天明八年申二月廿八日

〔行紙〕六歩、備前国一ヶ国、杉町稻のや兵四郎殿方へ引当、寛政六年寅十月廿六日

又九歩出切、外ニ買添場所五厘有、

吹屋宗九郎^⑪買添場所、三厘、伯州会见郡・八橋郡・

日野郡^⑫三郡、懸高^⑬式拾^⑭文之帳面卷冊、代銀百五

拾目、柳原屋茂右衛門方へ売切、寛政七卯四月十一日、但し此の分去年下売券ヲ以今年本売券仕候、

〔第百五十二丁表〕

吹屋宗九郎^⑪買添場所、式厘、伯耆之内□□郡・□□

郡・久米郡^⑮三郡、懸高^⑬式拾^⑭文之長面卷冊、代百五拾

目、小杉屋彦三郎方へ売切、寛政七卯四月十六日、但し

此の分亥年下売券ヲ以今年本売券仕候、

〔中略〕

〔第百七十八丁表〕 三十八 京善

歩高拾歩^⑯ 生場所^⑰

一 松岡屋圓右衛門備前下津井嶋式ヶ所嗣 京田屋善次郎^④

備後之内友福山城下^④
備中因嶋在、美作津山嗣小者 老 人^④

(出畑屋甚藏へ売却)

外ニ買添歩高五厘、備中老ヶ國、室屋富三郎より買添、

天明四年辰五月三日

外ニ備前老ヶ國、天明八年申二月廿八日、室屋治助^④買

添

買添歩高三厘、又武厘、尾山屋、残り歩ノ老歩有、

買添場所老歩、寛政六年寅七月十一日ニ出畑屋甚藏へ売

切、

〔第百十八丁裏〕〔中略〕

〔第百九十一丁表〕三十九 柳茂

歩高 (改五歩) 六歩五厘^④

外組ニ三歩五厘有、

寛政八辰三月十七日改 歩高六歩五厘^④

(付紙) 〔右衛門〕

(名代改松井屋甚藏)

一 松井屋仙藏 伯州米子宿外不殘、雲國 州御城下外不殘、石州 雲州境^④西之方、

柳原屋茂兵衛^④ 小者 老 人^④

銀山領之内大森町、境東 在斗、

太田町^④在七十五軒、因 州八上郡同

買添場所、歩高三厘、伯耆之内会見郡・八橋郡・日野郡

ノ三郡、寛政六寅四月十六日、室屋五兵衛方^④買入、

(此分寛政七卯四月十一日、本売券仕候)

〔後略〕

〔富山売業業史料集〕

六 寛政四年三月 懸場所帳面売渡証文

一 永代売渡シ申反魂丹掛帳面之事

一 長柄町三丁目大浦屋傳次郎方より買添場所、四歩、越

後国頸城郡・古志郡・三島郡・蒲原郡・沼垂郡、小者老

人相添、懸高メテ三百五拾貫文之帳面老冊、代銀貳貫七

百日ニ一々引渡シ之極を以売渡シ、代銀不殘唯今請取申

所実止ニ御座候、然上者是以後私者勿論別人たり共、右

場所江私名代を以、余商等ニ茂為入込申問鋪候、為其売

券証文如件

〔売切〕寛政四年子三月六日

海老町二丁目

金屋文三郎 ⑩

千石町式丁目

有澤屋和兵衛殿

右帳面ノ高相調理申処相違無御座候、以上

越後組年行司 文治郎 ⑩

同 清左衛門 ⑩

右場所帳面ノ高見届申候、以上

調理役人 源右衛門 ⑩

右調理人奥印等見届申所相違無之候、已上

〔売切〕 町 肝 煎 治郎三郎 ⑩

右之通承届候、已上

当 番町年寄 ⑩

〔富山売薬業史史料集〕

二 文化十三年ノ嘉永三年 東水橋売薬懸場帳借

入及び売買高覚書

文化拾参年より天保元年迄拾四ヶ年間に於ける売薬懸場帳
と抵当として借入金及び売買金額

一 四万五千貳百六拾貳貫文 低当借金

此件数 百貳拾壹株

一 貳万八百八拾七貫文 売買金額

此件数 五拾件

天保貳年より嘉永参年迄貳拾ヶ年間に於ける売買金額

一 拾万九千参拾貳貫文

此件数 貳百六拾七件

〔水橋町郷土史〕

三〇 文政五年四月 懸場所帳面売渡証文

永代売渡申反魂丹場所掛帳面之事

一 私所持場所之内三步、播州明石郡、加古郡、加茂郡、

印南郡、飾磨郡、ノ五郡名前相添、掛高ノ百六拾五ノ文

之帳面寄册代銀三貫目ニて引渡之極を以売渡シ、代銀只

今不残請取中所実正ニ御座候、然上者是已後私者勿論別

人たり共、私名代を以右場所余商等ニ成為入込申間敷候、
為其売券証文如件

文政五年午四月十七日

柳町
大田屋
仁重郎 ④

連子
頼母子連中

右帳面相調理申所掛高相違無御座候、以上

五畿内組年行司

同 藤兵衛 ④

同 文右衛門 ④

同 兵衛 ④

(大田家文書・富山市立郷土博物館蔵)

通 三 (文政七年) 頼母子取当り見合証文

流 ④ 見合証文之事

三 忖番親高野屋太郎兵衛殿取立連子頼母子、廿三番目有澤屋

庄入取当り、出銭寄高値ニ受取被申候、依而為引当先達而
太郎丸屋義兵衛半口取当之節、入置中候私場所越中国老歩、
代銀老メ六百目売券証文尙通入置申候、此度見合証文ニ仕
候、然上者年々定之出銭急度懸繼可被申候、万一相滞候ハ
右入置候引当御勝手ニ御引取可被成候、私内々極合御座
候ニ付指出置候得者、其節貸売券沙汰申間敷候、此上とも
彼是違乱申候ハ、此証文之趣を以御断可被成候、為其見合
証文如件

(富山売薬業史料集)

三 文政十二年十二月 薬種株売渡証文

相對を以薬種株永代売渡申証文之事

一 薬種株 付添申道具類、不残
別紙目錄之通

代金百五拾兩

右者私所持仕薬種株永代貴殿へ売渡、代金唯今不残請取申
処実正ニ御座候、然上者是以後御礼金等貴殿へ上納可被成
候事

期 右之通薬種株永代貫殿へ壳渡申上者、以来子孫ニ至迄少し

末 茨中分無御座候、為其証文仍而如件

幕 文政十二年十二月

I

八尾白室
九郎右衛門(印)

一拾歩 名 前

山室屋忠兵衛

紺室
治郎左衛門殿

右之通私共承知仕申処相違無御座候、以上

大野屋
仲間 三郎兵衛(印)

□内老歩五厘

同、懸高百八拾貫文、名前添四貫目

村松屋
同 徳兵衛(印)

上州・下野・常陸・下総・川西千三十貫文、代十

川崎屋
同 五郎兵衛(印)

内老歩

天保二卯八月廿五日、廿五兩、布仁江入置

白室
同 権治郎(印)

同、懸高百廿貫文、代老ノ八百目

右之通相違無御座候、以上

薬種汗煎

喜兵衛(印)

□内老歩三厘

同國、ノ百五十六ノ文、代老貫三百五十目

久左衛門(印)

同辰三月廿六日

能兵衛 入

清左衛門(印)

山室屋傳四郎殿頼母子入

□内老歩

同國、懸高式百四十ノ文、連人老人相添代、四

右之通承届候、以上

上総
稲垣勘四郎(印)

ノ六百日天保三辰三月廿六日、廿兩に、菊庄入

同
中田清兵衛(印)

内老歩

同、百廿貫文、代老貫八百目

〔宮山県史 史料編V〕

同五月廿二日、頼母子入

□内式歩 同、貳百四十ノ文、代三貫六百目

同五月廿三日、能兵様入

内老歩貳厘 同、百四十四ノ文、代貳ノ百五拾目

同五月廿八日、頼母子入

買添

老歩 新村嘉右衛門ノ買入八拾ノ文、中□屋傳四郎ノ買

入三拾貫文、合百百拾ノ文、代老ノ六百五十日

天保三辰三月廿六日

老歩 八川屋小三郎ノ買入、九拾ノ文、代老ノ三百五十

日 天保三辰三月廿六日、能兵様入

老歩三厘 嶋屋淺吉ノ買入、七拾ノ文、代一ノ五十日

天保四巳三月貳日、太郎丸屋小三郎殿十三両方

二入

売券控

天保七申年三月六日能兵様江預ケ置

〔富山売薬業史史料集〕

三 流 天保三年二月 懸場所帳面売渡証文

永代売渡申薬場所帳面之事

卯ノ年取揚高メ

一 百三拾貫百拾七文

①

間也

但シ、拾文ニ付三拾五文カヘ

此代四百五拾五貫四百拾文、七金ノ定

右之通、代金不殘請取申候、私所持仕候売薬場所之内、

越後国糸井川(魚カ)より新発田在迄、貴殿へ売渡申処実正ニ御

座候、然上ハ場所先ニおゐて請取問違并ニ借用不法之義

等御座候ハ、私場所ニ而切渡シ可申候、何様之間違御

座候共、貴殿江御難題相懸ケ申間敷候、

一 火難、水難、死たえ、欠落之儀ハ、辰二月廿五日迄ハ

私方へ引請可申候、其後日之義ハ貴殿方へ御引請可被成

候、ケ様ニ相極売渡し中上ハ、私等ハ勿論、代人たり共、

其場所先へ、売薬ハ不中及、余商売ニも堅入込申間敷、

為後日之為之運印以売私証文如件

天保三年辰二月廿五日

外 老 兩 但シ江戸懸合利老組重々等受取申候

本人 二日市屋 次郎右衛門 ㊦

一門 開発屋 次 助 ㊦
仲人 藤 五 郎 ㊦

(内藤記念くすり博物館蔵)

右私取持場所帳面前段之通貴殿江壳渡中所相違無御座候、然上者場所先ニおゐて彼是等御座候ハ、私罷出急渡埒明、(度カ)貴殿江少も御難題懸中間敷候、ケ様ニ相究申上者子々孫々ニいたるまで、毛頭中分無御座候、為後日之証文如件

福岡屋
清右衛門殿

天保四巳二月

三 天保四年二月 懸場所帳面壳渡証文

永代壳渡申壳薬場所帳面之事

一 総州匠巖・海上・香取・印旛郡、山辺・武射郡帳面懸

数有之儘

取揚高百八拾貳貫三文 但シ十文ニ付式十六文半文

代四百八拾貳貫三百八文 壳子助脚老人相添

此金七拾兩三步二朱ト 旅名富永兵衛

三百五十八文

内 八兩 去月帰宅次第請取極メ

残テ六拾貳兩三步貳朱ト三百五十八文 只今請取申候

メ

高月村 平左衛門殿株下
同 七右衛門殿

右壳薬場所等讓替之儀相違無之ニ付、致奥書候、以上

壳薬吟味人

町新庄油屋 又 兵 衛 ㊦

右之通承届致奥書候、以上

計煎 辰 兵 衛 ㊦

(寺西家所蔵文書)

新庄新町 長 兵 衛 ㊦

所町新庄村 清 八 ㊦

最寄挨拶高月村 喜 八 ㊦

天保四年八月 懸場所帳面売渡証文

永代売渡申反魂丹場所懸帳面之事

印

一 大田屋伝兵衛が買添場所老歩、備後之國通り筋連人老

人相添懸高ノ百五拾貫文、代銀貳貫八百日、又四歩安芸

之内高田・高宮・山形ノテ三郡、豊田郡之内本江(郷方)在之外

不殘、加茂郡之内西条在懸高ノ四百貫文、代銀六貫日又

五厘、安芸之内御手洗斗懸高ノ五拾貫文、代銀七百五拾

日、懸高都合六百貫文之帳面一冊、代銀ノ九貫五百五拾

日ニ取極一々引渡之極ヲ以売渡、代銀只今不殘請取申所

実正ニ御座候、然上ハ是已後私者勿論為別人共、右場所

江私名代を以余商等ニ度為入込中間敷候、為其売券証文

如件

天保四年己八月五日

大田屋

仁十郎 印

松井屋

東蔵殿

通 流 三

右帳面相調理中処懸高相違無御座候、以上

印

印

印

奥中国組年行司

文右衛門

印

外次郎

印

右場所帳面ノ高見届申候、以上

調理役

清五郎

印

同

清右衛門

印

右調理人奥印等見届中処相違無之候、已上

反魂丹方肝煎

健吉

印

右之通承届候、以上

上縮

六右衛門

印

(関野家文書・富山市立郷土博物館蔵)

三 天保五年六月 売子一人脚を添え、懸場所帳

而売渡証文

天保五年六月

川中村株持人蓬沢屋

久 助 ④

乍恐書付を以御願申上候

西水橋 范七郎殿

私儀不勝手之儀御座候ニ付、所持仕候売棄場所之内、五畿

内、并売子脚一人付添ニ而株持人出中村蓬沢屋久助江、相

讓中度奉存候間、右讓替之儀御聞届被成下候様奉願上候、

右之通売棄場所并売子脚老人付添ニ而讓替之儀、御聞届可
被下候様奉願上候、以上

尤御役銀之義者右久助上納仕可中候、以上

東水橋売棄吟味人

天保五年六月

東水橋株持人石正屋

和 助 ④

同

傳 八 郎 ④

金山十次郎殿

七 之 助 ④

西水橋

同

勘 六 郎 ④

范七郎殿

乍恐書付を以御願申上候

滑川売棄吟味人

私儀商売手薄ニ御座候ニ付、株持人東水橋石正屋和助所持

貞 次 郎 ④

之売棄場所之内、五畿内并売子脚老人付添ニ而私讓請中度

同

傳 藏 ④

奉存候間、右讓替之儀御聞届被成下候様奉願上候、尤御役

(裏書)
「表書讓り替之趣承届候也」

銀之義者私上納仕可申候、以上

金山十次郎 ㊦

西水橋

范七郎

㊦

(早川家所藏文書)

(「富山売薬業史史料集」)

三 天保六年八月 懸場所鑑札担保の借用証文

借用申金子之事

一 金子貳兩者 正金也

右者御鑑札引当ニ而借用致居候銀主も、改方御役所様江願出ニ付長々御縮ニ相成居、漸々当三日迄申延右日限ニ上納不仕候時ハ、又候重キ御縮ニ相成候事日前ニ御座候ニ付、貴殿江相歎ノ所御聞訳被下暫之所借用申候儀実正ニ御座候、当四日早天ニ御鑑札急度御渡し可申上候、尤借用之金子者、私場所帳面先達而町御役所様江指上ケ置、此節御払ニ相成候右代金之内を申受、急度返済可仕候、為其借用証文如件

天保六年八月二日

四方 芝草屋甚左衛門

㊦

能登屋兵右衛門殿

永代売渡之反魂丹場処手付証文之事

三 嘉永三年二月 懸場所帳面売渡手付証文

一 私所持場処連人付作州加茂谷・かが見谷・坪井・羽が井・仙下・田矢・田井在メ去ル年之取揚百八十貫斗之帳面卷冊、決算法立ヲ以百貫文ニ付四十五兩ニ相極メ、代金之内為手付金拾兩髓ニ請取申候所実正ニ御座候、然上者近口ニ帳面決算相立、代金之義者米三月三日ニ切ニ証文名前切替之上、引替請渡シ申約定を以売渡シ可中候、為其口之手付証文如件

嘉永三戌二月廿三日

志甫屋

善七

㊦

仲人

藤兵衛

㊦

老田屋

傳右衛門殿

決算之法立別シニ記

(奥野家文書・富山市立郷土博物館蔵)

四〇 嘉永三年二月 頼母子取当り請合証文

請合中証文之事

一 此度出セ頼母子講、蓬沢屋久太郎取当り申ニ付、私請人ニ相立申処実正ニ御座候、依而本人ノ薬場所売切証文私取請、セ話人中江預ケ置キ申ニ付、出金之儀本人相滞候義も御座候得者、一座之障リニ不相成様、私ノ相弁シ其座江懸繼可申候、猶亦右薬場所証文等ニ付、何与歟六ケ敷義出来仕候ハ、右金高応シ候代リ売切証文私ノ指出シ可中候、何様之書付申候上者満会迄御連申江、少夷御難題掛中間敷候、為其請合証文指出シ申処如件

嘉永三年

戊二月

蓬沢屋

久助 ㊦

出世講

御連中

世話人衆中

(早川家所蔵文書)

四一 嘉永三年三月 懸場所帳面売渡添証文

売切中反魂丹場所懸帳面添証文之事

一 私所持場処作州之内加茂川ノ東不殘、津山御領秘、去ル酉年取揚高決算ノ高百七拾貫七拾六文之帳面一冊、連人老相添代金七拾七兩壹步貳朱ト、永五匁九分貳厘ニ相極メ代金只今不殘請取申所実正ニ御座候、然ル上者一々引渡し可中御定法ニ御座候得共、双方得勝手を以引渡し相止メ、貴殿方御老人ニ而念々御廻リ可被成候、若場所得意先ニ而仕切目録算違、或ハ上リ懸仲問置合懸等御座候ハ、先々之書付御持参之上売渡し申候直段ニ而算用相立、急度送金可仕候、其外何ニ不寄間違等有之候ハ、是も御定法通り済方可仕候、并ニ宿々之払方其外諸借用等御座候ハ、其先々之書付御持参之上、算用相立急度相済可申候、且又欠落懸退転懸焼失懸水流等御座候ハ、当三月三日迄ハ私方ノ相弁可申候、三月三日ノ後ハ承リ不申候、為後日之売切添証文如件

嘉永三年 戊三月三日

塩屋 善七 ㊦

関屋 清助殿

前書之通極合を以、私仲人ニ相立中所相違無御座候、若又間違筋御座候ハ、私罷出、相勝貴殿江少しも御難題相懸申間敷候、為其仲人奥印候、以上

老田屋

藤兵衛 ㊦

(関野家文書 富山市立郷土博物館蔵)

四 嘉永五年三月 懸場所帳面売渡仮証文

売薬帳面売渡仮証文之事

亥年取揚高

一 五百五拾貫文斗

淡州志国、阿州徳嶋町迄、帳面之表軒数有儘

但 百貫文揚リニ付、五拾式兩老步買

内 老割残金、当暮帰国次第ニ無利足ニ請取可申

定

三 流

又 式拾五兩入金、只今請取

中金半分、当十二日ニ決算之上請取定

残、来四月三日切ニ証文与引替請收定

一 老味七懸、一味老ばい七式つ他宗寺、女名前丸印いんきやう、かみゆへ七懸、今寄丁西金六七、造用二ツ割、箱錢五毛、決算新古ニ可致事

一 源寿講売薬脚札、式人廻リ、付添柳筭五ツ組式人前、

丸薬箱式人前、さじ同断、弁当式つ、やたて式本、ずつ

老つ、なつめ老つ、判木三拾^(枚)牧斗、尤判木之義へ、貸かり可致事

右前段之通相定、売渡中仮証文一札相渡申所如件

嘉永五子三月七日

本人

東水橋池田屋

清右衛門 ㊦

仲人

石正屋

与兵衛 ㊦

同

池田屋

清吉 ㊦

高岡仲人

小松屋

清八 ㊦

同

吉野屋

七兵衛 ㊦

同

鏡宮村

八郎右衛門 ㊦

高岡福岡屋

清右衛門殿

取次ぬしや

小右衛門殿

(内藤記念くすり博物館蔵)

三 嘉永五年四月 懸場所帳面売渡証文

永代売渡申売薬場所証文之事

去亥年取揚高

圓一 四百三貫五百拾貳文 淡州須木^(洲カ)岩屋・尾崎迄、軒

数帳面有儘

圓 但し百貫文ニ付五拾毫兩かへ

圓 代金貳百五兩三歩ト貳百貳十五文

内 貳拾兩貳歩者一割残貸

但 当暮帰兩次第無利足ニ河請取申極

残り

①百八拾五兩壹歩ト貳百貳十五文受取申候

右私所持仕候薬場所、前段之通、貴殿江売渡、則代金前

頭之通、請取申所実正ニ御座候、然上者、場所先ニおる
て、請取違並借用等御座候ハ、右残金を以、夫々差引
可被成候、ケ様ニ相極売渡上者、右場所中江者、余商売
たり共、堅入込申間敷候、為後年一門・仲人等連印証文
相渡中所如件

嘉永五年子四月

本人

東水橋売薬元人

池田屋清右衛門

①

一門

同所

池田屋清五郎

①

仲人

同所

池田屋清三郎

①

同

同所

石政屋与兵衛

①

高岡仲人

同所

小松屋清八

①

同

同所

吉野屋七兵衛

①

同

同所

わし塚屋弥兵衛

①

同

鏡宮村

八郎右衛門

①

同

荒川

向寄請人 甚三郎

①

高岡福岡屋

清右衛門殿

右薬場所帳面所持仕候所相違無御座候、以上

葉屋年行司

四郎三郎 ㊦

代金

同

林 藏 ㊦

内

宍わり残し置、尤無利足に而當

右藥場所売券状指出シ申ニ付、御達申上候、以上

暮歸国次第請取申定
手付金請取中候

宛藥吟味人當番

伝八郎 ㊦

六拾壹兩壹步二朱分
十三

代金百兩ニ付四十兩指為中置等
請取申定、尤帳面引替之定ニ御

同 伝三郎 ㊦

座候

同 甚 助 ㊦

天正寺村

十兵衛 ㊦

残金

四月五日切

西水橋

吉 郎 ㊦

付物

(内藤記念くすり博物館蔵)

御裏書本証文引替之定

他国出興札
(初行李之)

安政五年三月 懸場所売買決算定書

六幅風呂敷

売藥場所讓替決算定之事

去巳ノ年取揚高 旅名前堀久藏

丸薬箱

一 四百七拾貫文斗 上総房州二ヶ国之間帳面拾壹

一 壹筒

仕切箱

冊の表

ヒ類色々

三 流 通

但百貫文揚ニ付、金四十七兩買

一 少々箱入

巳ノ年参リ荷物、浜ノ村角屋方
ニ預け置申分別冊之表通
右同断東金伊勢屋孫兵衛方ニ預

ケ置申分別冊之表通

決算法立

- 一 決算立方新古見合之定ニ御座候
- 一 壹ケ年廻り披懸辰年留主家と見合之定
- 一 貳ケ年披ケ年割を以決算ニ入立申定ニ御座候
- 一 預ケ薬皆売此分売高代錢ニ七相懸申候
- 一 薬一品預ケ置候分

但シ売高代錢ニ七相懸申候、尤此分皆売ニ相成居候時者
七二度相懸申候事

浄土真宗之外

- 一 売高代錢常成七懸ノ分 寺院隱居住、独身住、女名前女
郎屋、髮結床下役
- 一 右同断 七二度相懸申分 右人々之内預ケ薬皆売并薬一品
預ケ置候分
- 一 右同断 七三度相懸申 右人々之内薬一品預ケ置、皆売
ニ相成候分
- 一 今寄算丁百文之定ニ御座候事

一 金相場六貫六百文之定

右ノ通双方納得之上、他国出脚札并余り荷物等付添を以
直段取頻り売買仕候処実正ニ御座候、然上者買人ノ破談
中立候時者手付金丸損仕及売人ノ破談申立候時者入金倍
返シニ仕、尤双方造用之義者破談申出候者より指出可申
候、猶又外々より故障有之帳面ニ而者無御座候ニ付、定
書仕上之申候、以上

安政五年午三月四日

元人 西水橋四十物屋 又右衛門
一門請 同 仁左衛門
向寄請人 同 勘藏
同 同 宇三郎
同 同 藤助
同 同 甚右衛門
同 同 清次郎
高月曲測屋 久兵衛
同人株下 宇兵衛
侍人 石黒屋 権六

同 碑田屋 清 助
同 古市屋 嘉兵衛

決算見届人

傳六郎殿

同

次兵衛殿

右書付取請決算見届申宛不正之義、茂無御座候ニ付、奥書
仕御達申上候、以上

決算見届人

傳六郎

次兵衛

岩城七郎兵衛殿

西水橋

吉郎殿

(寺西家所蔵文書)

午十一月

私儀手崎屋富太郎所持の薬種株譲リ請け薬種商売仕度奉存
候間、御聞届け被成下候様奉願上候、尤製薬吟味は不及申、
紛敷薬種取扱不申様御縮方被仰渡通り敷重相心得可中候間、
此段各様より宜敷被仰上被下候様、御願申上候、以上

薬種屋肝煎

源三郎殿

義作殿

右清右衛門儀、手崎屋富太郎薬種株譲リ請、薬種屋商売仕
度儀、私共納得任候に付、添書連印仕申候、以上

薬種屋仲間

津島屋 小八郎 印

関屋 庄右衛門 印

榎屋 藤右衛門 印

井波屋 太助 印

蓮花寺屋 理左衛門 印

棚田屋 喜兵衛 印

安政五年十一月 薬種株売渡証文

〔表書讓替願及御達承届候、以上(裏書)〕

戸出屋 藤 八 ④

一 付物之儀者一切無之取極ニ相違無御座候

決算法立之極

己未正月十八日 葉種屋 肝 煎 ④

一 決算立方新古見合之規定ニ相違無御座候

〔高岡葉業史稿〕・内藤記念くすり博物館蔵

一 老年拔廻り掛留主家与見合、式年抜七懸、三年抜五懸を以決算ニ入立申定ニ御座候

四 文久元年三月 懸場所帳面売渡定書

一 売高代錢七懸之分

一 葉一品預ケ置候分并預ケ葉皆売ニ相成申分

売葉場所売買定書之事

一 右同断 浄土真宗之外

去申年取揚高 旅名前中田八左衛門

一 寺懸 隠居住 独身住

一 九拾五貫文斗 房州前原在 岩田在 久保迄

一 女郎屋 女名前 髮結

帳面式冊之表

一 右同断七式度相懸申分

一 右人々之内葉一品預ケ置候分并

但シ百貫文揚ニ付金四拾兩式歩買

一 預ケ葉皆売ニ相成申分

代金

一 右同断三度相懸申分

一 右人々之内、葉一品預ケ置、皆

内宅割残之金尤無利足ニ而当着帰国之上請渡之定御座

一 売ニ相成申分

候、為中金与決算之上帳面引替半金高請渡之定ニ御座

一 今寄算丁百文金相場六貫六百文

候、残り満金之儀者四月五日本証文引替之取極ニ御座

一 決算造用等式ッ割之定而御座候

候

一 三両者手付金請渡相済申候

右之通双方一類納得之上仲人相加り直段取頼り売買仕、

手付金相濟申勉実正ニ御座候、然上者売人方より破談申出候ハ、手付金倍返、及買人方が破談申立候ハ、手付金丸損ニ仕、尤双方造用之儀者破談申出候者指出可申候、且又外々が故障有之帳面ニ而者無御座候ニ付、遠印定書上ケ申所如件

文久元年曾三月十四日 売本人 西水橋中屋

八郎兵衛 印

一門請人 同

和 十 郎 印

向寄請人 山屋

与 七 印

仲人 辻ヶ堂屋

字 三 郎 印

同 同

藤 助 印

同 嶋屋

清 次 郎 印

買本人 高月曲瀨屋

久 兵 衛 印

一門請人 四拾物屋

平 七 印

仲人 専光寺屋

与三右衛門 印

同 曲瀨屋

新 助 印

決算見届人

傳六郎殿

右書付取請決算見届申所、不正之儀茂無御座候ニ付此段御達申上候、以上

決算見届人

傳 六 郎 印

岩城七郎兵衛殿

天正寺村 十次郎殿

西水橋 半七郎殿

(裏書)
「表書之通下置候事」

岩城七郎兵衛 印

天正寺村
十次郎 圃
西水橋
半七郎 圃

(寺西家所蔵文書)

被下候様奉願上候、尤御役銀之義ハ毎歳私方上納可仕候、
以上

文久元年四月十一月

東岩瀬壳薬元人

〆 文久元年十一月 壳薬他国出元人付脚札讓替

願書

岩城七郎兵衛殿

黒崎屋兵三郎 圃

天正寺村十次郎殿

西水橋半七郎殿

私義不勝手之義御座候ニ付、壳薬他国出元人付脚札壹枚是
迄越後国江相用候分、東岩瀬黒崎屋兵三郎方江相譲り申度
奉存候間、讓替之義被仰付被下様奉願上申候、以上

右壳薬他国出元人附脚札讓替双方書付指出申ニ付、讓替願
之通り被仰付可被下候、以上

文久元年四月十一月

滑川壳薬吟味人

滑川壳薬元人

傳 藏 圃

三宅屋源右衛門 圃

同 八 兵 衛 圃

岩城七郎兵衛殿

東岩瀬壳薬吟味人

天正寺村十次郎殿

八 兵 衛 圃

西水橋半七郎殿

同 忠 右 衛 門 圃

私義尚壳手薄ニ付、滑川三宅屋源右衛門所持之壳薬他国出

同 甚 助 圃

元人附脚札壹枚撰州江相用申度奉存候間、讓替之義被仰付

(宮山壳薬業史史料集)

文久二年十月 懸場所帳面売渡証文

(内藤記念くすり博物館蔵)

売薬帳面譲渡証文之事

一 三百貫文斗 大坂町廻り玉栄堂名代

但し拾文ニ付式拾文買

此代 六百貫文 金六八之定

右之通売渡申処実正ニ御座候、尤代金不残髓ニ請取申候、

右得意ニ付何方(貴方)ノ故障ケ問敷申出候者御座候ハ、私共罷

出近殿江少し(題脱カ)茂御難相懸中間敷候、為其後年連印証文依而

如件

文久二戌十月

本人 大坂加賀屋

又兵衛 印

請人 同 播磨屋

庄助 印

仲人 越中水橋

善之介 印

越中高岡綿屋

源右衛門殿

文久三年十月 懸場所帳面買入証文

買入証文之事

一 三拾六メ文

能州廻り

外ニ判木等付物

西田国泰寺御内江雲庵

名前売薬帳面老冊

此代金拾七両老歩式朱指上算用皆済申候

右売薬帳面貴殿ノ永代私シ方江買入申所実正ニ御座候、然

上者御役銀老本脚私シ方此地御役所江直ニ上納可仕候、

依而為後年証文如件

文久三年

買人 高岡片原町

和泉屋

長右衛門 印

売人

野村

同 平 兵衛殿

平

八殿

三 流 通

同
小右衛門殿

右相違無御座候ニ付奥書仕候、以上

吟味人役 松屋

理右衛門 印

同 和泉屋

善兵衛 印

(内藤記念くすり博物館蔵)

五〇 慶応元年九月 懸場所帳面担保の借用証文

借用申金子之事

一 金百貳拾兩也

此引当テ与して伯耆行売葉帳面波多野三左門名前、(衛腕方) 中年

取揚り高三百貳十式ノ四百七拾貳文、外ニ四年新懸三百

六十軒致候分共、酉年ノ五年迄迄ケ年ニ礼金拾八兩貳歩

宛与して、五ケ年間立野茶屋新古殿江引渡置申候処、当

時之取揚り高七百貫文余ニ相成居申候、軒数貳千五六百

軒ニ御座候、并ニ売葉株札付添江渡シ置申候

右金子前段之通私所持仕候、売葉帳面引当ニて、借用中

所実正ニ御座候、尤返済之義ハ来寅九月五日切、月壹分

式之利足を加ヘ元利共急度返済可仕候、万一相滞候ハ、

引当ニ入置候帳面御引取御勘定可被下候、為其一門請人

等相当縮印形取揃、指上申候依而証文如件

慶応元年乙丑九月五日

本人

岩坪屋

新兵衛 印形

請人

岩坪屋

藤兵衛 印形

関屋

新右衛門 印形

縮書

五兵衛殿

右縮証文之通相違無之候ニ付奥書仕候、以上

売葉方吟味人

室屋

武兵衛

松屋

理右衛門

和泉屋

長右衛門

柳田屋

善四郎

和泉屋

善兵衛

中野屋 助

定藤屋 清 四郎

(内藤記念くすり博物館蔵)

(関野家文書・富山市立郷土博物館蔵)

三 慶応二年九月 頼母子取当り出金請合証文

出金請合証文之事

円融講六番目同苗清助取当、出金寄高都合儘ニ請取被申候、依而後會懸金廿五両之為引当、同人所持新名場所一步、作州之内懸高ノ百六拾八貫文代銀貳貫五百貳拾目之売券壹通入置被中候、然上ハ年貳會之出金壹両宛急度懸繼可被中候、万一人相滞候ハ、右引当ニ不拘、私ハ急度御連中江少茂御難題相懸申問敷候、此上ニ茂彼は申立候ハ、此証文之趣を以、御断可被成候、為其出金請合証文如件

慶応二年九月

関原

善次郎 印

円融講

連中

三 (年不詳) 懸場所帳面売渡し後の違約一札

別紙一札之事

一 私義先年売渡シ中薬場所帳面棒杭之中江入込申候掛御座候ニ付、此度吟味様迄御断被成候儀ハ、一月中恐入、申訳無御座候ニ付、越後国三条より村上迄先帳村数之中江、若置合等御座候ハ、御引上可被成候、尤入込候掛義者滑川菟屋其助方へ去四月売渡候帳面之中江有之、此分来春買請、又新帳式冊之中ニ茂有之候、両様共来春各々様方へ先年古証文棒杭約定通り直段振り合以売渡シ可申候、若御望無御座候、^(ハ、脱カ)外向寄江売渡し可中候、此外ニ入込之掛分一向無御座候、若御座候ハ御引上被成候とも聊一言申訳無御座候、ケ様相極中候上ハ棒杭之中江、代人相廻り候而も、私義浅吉ト親類之者迄も入込申問敷候、此条問違等御座候ハ、御上様へ御断被成、何ケ様越度ニ被仰候而も聊彼是中間敷候、依而親類仲人等蓮印一札^(違カ)

相渡可申候、如件

宣七月十日 本 人 ^{東本橋} 市江屋 弥三右衛門 ㊦

一門請人 市江屋 健 吉 ㊦

同 同 太 助 ㊦

仲 人 東福寺屋 五郎右衛門 ㊦

石黒屋 小三郎 ㊦

川合屋 四郎三郎 ㊦

石黒屋 傳兵衛 ㊦

高岡釜屋

与四兵衛殿

(内藤記念くすり博物館蔵)

(2) 行商一般

三 寛保二年四月 往来切手受合

御受合状之事

一 卷人 年式拾七 百塚村善五郎 八郎右衛門

メ

右之者越後江楽亮ニ罷越申度奉存候間、境御関所罷通り申御過書被為懸御意可被下候、則当月廿二日ニ罷立十月中ニ罷歸り其節御案内可申上候、若科人走り人又ハ他国・他領ニ居留り申者ヲ申掠御過書申受候ハ、私如何様共曲言ニ可被仰付候、為共御受合状指上申候、以上

寛保二年四月十六日 百塚村八郎右衛門請人

おや 茂五郎

右六月六日ニ善五郎罷歸り申旨及案内申上候、又六月晦日

ニ罷立申度旨いさい左之通

榎野寛兵衛様

吉川勘兵衛様

右善五郎奉願之通相違無御座候、為其奥書仕指上申上候、

以上

肝煎 吉右衛門

右之通吟味仕候処相違無御座候、以上

十村 治右衛門

(内山家文書・富山県立図書館蔵)

四 寛政十二年十二月 反魂丹の反古包紙一件

於御当地反古買人数九人ニ差極置候、然処反魂丹商売人等江薬包紙等裁出し、反古八尾商人江直ニ相渡候由相聞候、以来右人数九人之外江相渡候義不相成候、此度改之もの申付、右反古蜜々買取行候者見付次第押取候様中渡候、其□^(外カ)何れも買取候哉為相尋、売人名前於相知ニ者、急度可申付候間、左様相心得、右之趣嚴重御触渡し可在之候、以上

十二月十四日

御儉約奉行

林九郎左衛門殿

永原貞衛殿

尚以本文之趣別紙之通、反古買共へ申渡置候、此段承知可^(表紙)在之候、已上

通
御当地反魂丹商売人共々薬包紙裁出し、反古八尾之ものへ完渡候体ニ而、何れも及難義候付、以来改之もの相廻し度段相願候処、願之通被仰渡候、全体差定候ものへ相渡候之

義へ、各之買取方下直成故与被存候、左様有之而者大勢之売人可及迷惑候、此度改而嚴重ニ被仰渡候上者、各直段宜買取、聊も手縮ケ間敷不筋之買取方いたし候義無之様可相心得候、若心得違之もの於有之者、急度可被仰付候条、此段入念中渡置候様御儉約御奉行方被仰渡候間、比旨急度可心得候、以上

申十二月十四日

御儉約方下役

反古買九人之もの

(前田文書・富山県立図書館蔵)

五 文政三々四年 薬屋一件決算覚帳

文政三年辰二月廿五日かじ二月廿五日迄

薬屋一件決算之覚帳

紙数九枚

当番年行司

四郎三郎

同 同

長三郎

辰二月廿五日 当番

辰二月廿五日

一 拾八貫百三十九文

請取預り

辰三月

一 三ノメ七百六十九文

箱之分預り

辰三月

一 十七ノメ五百十三文

正ニ取集高此末ニ委細記ス

一 三百五十文

但し卯年 割不足預り

辰八月

一 貳貫文

箱之分預り

一 壹貫八百文

箱之分預り

一 四拾三貫二百七拾壹文

預り分

右之内払口

辰二月廿五日

一 六百六拾四文

但し此末ニ委細記ス

先年行司

太四郎 四郎三郎ノ

次助殿

口 錢

足割

貳百拾壹文宛

狐塚屋

吉五郎ノ受取

日置屋

口 錢

狐塚屋

調蔵殿

口 錢

造り割人々不足之分

四郎三郎取替

林蔵方へ相渡

辰四月 一 貳拾七貫七百七十三文

但し此末ニ委細記ス

辰五月迄分

一 四貫四百七十七文

但し造用割六ノメ九百文之外

此末ニ委細記ス

辰五月

一 貳貫五百文

仲間示談之上 四郎三郎ノ相渡シ

辰五月

一 七百八拾四文

仲間示談之上 四郎三郎ノ相渡シ

辰二月廿五日迄

一 貳百六拾文

時々人足賃払 委細口々此末ニ記ス

一 八百文

取替相渡シ

辰二月廿五日迄

一 四貫五百八十八文

但し此末ニ委細口々ニ記ス

一 四拾三ノメ六百四十六文

差引残り

七拾五文

狐塚屋傳蔵方へ相渡

谷屋林蔵方へ払

柳寺屋平右衛門
在番之節 付落分

川七ノ飯代取替分

文三郎人足賃

四郎三郎・太四郎かり分
拾六日入三日迄

四郎三郎取かへ
長三郎取かへ

四郎三郎取替払分
長三郎取替払分

不足分
四郎三郎取替

此方ニ

但シ室屋吉郎右衛門 口銭

箱分預り

差引残り

預り分

此分次キノ年行司へ相渡シ可申候

右辰二月廿五日夕当巳ノ二月廿五日迄在番中算用如此ニ

御座候間御覽可被下候、以上

文政四年

巳二月廿五日

当番年行司

四郎三郎

(判)

同

長三郎

(判)

御仲間衆中様

四郎三郎
長三郎

取替委細記ス

通 流 三

辰三月

一 百五拾文

辰五月廿八日

一 八拾八文

一 四百廿文

御算用場へ上り紙面
生地岩瀨迄駄賃

酒肴代 算用之節

兩人生地飯代
並ニ舟賃等

一 式拾文

一 參拾八文

但シ 卯八月廿七日付落分

辰七月
一 三百五十文

一 百 文

但シ卯年人足賃まし

辰八月
一 五拾四文

辰十二月
一 八百三十七文

南鎌倉行

卯月分付落
一 式 百 文

御冥加一件ニ付

辰午分
一 六十六文

此末ニ算用記ス

一 三百五十文

巳二月十日
一 百五拾文

但シ辰七月三百五十文之外

同
一 百六拾文

相渡シ

東岩瀨
与平行鮭ノふと

傳七弘

竹又三郎
筆料和渡シ

中町
市郎兵衛へ人足賃

八寸式文代
取かへ

岩瀨
与平行

滑川

紙屋七右衛門
筆料弘

御冥加銀
不足取替

高嶋屋仁六
筆料帳面三冊
御蔵又三郎
筆料

生地行人足賃

狐塚屋調蔵殿
取替被居候分

I 幕末期

一 八百四十文

宮山紙面
案紙調料

文三郎人足賃 委細記ス

南鎌倉行

卯年付落人足賃

一 式 百文

肴老折
代除

一 百六拾文
辰三月廿五日前触
一 五十文
三月朔日

人足

右同漸行

町触人足
老

一 二百十日
五百六十五文

岩瀬 与平
銀五匁

一 同三日
五十文

次助場所ニ付
町触人足

但シ南鎌倉行之外

御冥加触人足

一 四員五百八十八文

兩人取替分

一 三月十九日
四十文

右同断人足賃

造用割造用

一 四月十七日
五十文

源左衛門
林藏 懸合ニ付町触

一 辰二月廿五日
六員九百文

老人ニ付百六十六文宛

一 四月廿四日
五十文

傳八と
小助 申分ニ付触

内

一 百六十六文

藤五郎不足

一 同廿七日
式拾文

廣野屋へ帳面人足

一 百六十六文

新
權兵衛不足

一 五月十九日
四拾文

紙面ニ付寄合触

一 百六十六文

清 八不足

一 五月廿五日
五十文

生地行
寄合之節

一 百六十六文

四郎左衛門不足

一 八百文

御冥加銀取集人足賃

一 六百六十四文

不足

一 同廿八日廿九日
百廿文

東岩瀬行駄賃

此分四郎三郎取替分

一 同廿八日廿九日
百廿文

東岩瀬へ
紙面上ケ申ニ付町触

正味

一 式拾文

西水橋行紙面ニ付人足

一 六員貳百三十六文

取集高

一 五月晦日
貳拾文

清八殿 寄合之節

一 四拾文

十二月廿四日

一 七拾文

二月十四日十五日

百三十文

一 七拾文

ノ貳貫六拾文

錢 相渡シ

足割錢口

辰三月

一 拾八貫九百九十文

但シ卷人ニ付 貳百十一文宛

内

四百貳拾貳文

貳百拾壹文

貳百十壹文

貳百十壹文

四百廿貳文

ノ卷ノ四百七十七文

正味

拾七ノ五百拾三文

辰十二月御冥加筆料

久四郎殿
場所觸人足

東岩瀬迄岸本屋行人足

人足賃

寄合之節

吉郎左衛門場所
所売券觸
伝八場

一 拾五ノ三百九十九文

但シ卷人ニ付百七十七文宛

此内

拾五ノ四百六十五文

上納銀並ニ造用等

但シ取立帳之衣払

差別残り

六十六文 不足

四郎三郎取替

谷屋林藏殿 差引口

卯

壹貫百六十三文

同

貳貫文

茶代
度々之寄合

一 六百六拾文

同

一 百六十五文

同廿九日

一 四百八十九文

次助場所寄合造用
冥加寄合節 造用

ノ四ノ四百七十七文

辰五月払

但シ六ノ九百文之外

猶又辰三月ノ当二月廿五日迄之分

次キ年行司ノ御払可被成候

狐塚屋 傳藏殿

差引

一 五拾貫貳百三十七文

卯五月迄借用高
先年行司帳面之表

七ノ五百三十六文

辰四月迄

ノ五拾七ノ七百七十二文

内辰四月

式拾七ノ七百七十三文

長三郎
四郎三郎
ノ入ル

残り

三拾貫文

借 用

但シ辰五月ノ之利足也



(財団法人 水橋郷土史料館蔵)

壬 文政三年十一月 小倉藩、完薬免許触書

覚

一 毒薬似セ薬之儀ハ第一之御制禁ニ候、御郡中前々より
 疑敷薬生所も不知もの致徘徊取扱候義有之候ニ付、急度
 停止中付、越中富山薬種屋權七調合之諸薬、吟味之上壳
 弘差免、廻在之節ハ証文相渡紛敷薬等預をも申付置候、
 然ル処近来猥ニ相成、權七名前ニ而似セ薬壳弘候ヲ吟味
 をは不致、却而所々取扱宿町見世壳等いたす族も有之趣

相聞へ候、免許証文提札等不相改義等不吟味之至ニ候、

一 大橋町ニ而調合いたし候蘇香田卜中薬、牛馬等ニも相

用功能有之趣ニ而、壳弘ノ顯出吟味之上疑敷次第も無之

ニ付、右一種斗免許提札相渡、右外之薬堅差留候条、廻

在之節遂吟味候様申触置候処、是又不遂吟味猥ニ壳歩行

候由不埒之至ニ候、村々ニ而急度相預見当り候ハ、取上

可申出候、

一 江州日野中井東廣調合之薬、先年免許申付置候所、段

々不埒之義有之候ニ付、差留以来在中江堅立入不中様申

付、其段触書をも差出候所、是又近年猥ニ所々致徘徊請

壳等いたし候段相聞へ候、急度立入せ中間敷候、在中ニ

而ハ壳薬重モニ相用候事故、免許申付候迎も第一素性相

亂候段者畢竟御憐愍之事ニ候処、心得違いたし人之害ニ

相成候事ヲも不相弁、毎々申触候趣不相用、不慥薬取扱

候段ハ有之間敷事ニ候、畢竟村役之者共免許之者廻在之

節、証文提札等之改ヲも不致義と相見へ候、其所江薬壳

与号し胡乱体之者等入込、每度盜難之趣も相聞不ノリ之

事ニ候、前々申触候通、右体之者往来宿筋一宿之外村々

江立入不中様申聞、若相背者有之候者非人ニ送出させ可

射水郡

申候、此度猶又しらべ方富山權七江申付、免許外之薬見
当り候ハ、取上置可申候、追而焼捨可申付候、薬請薬
等いたし候者ハ勿論、村々ニ而も第一免許薬売之名前ニ
而致俳徊候者、証文提札無之者見知ルものたり共相求不
申追立可申候、

右之趣御郡中端々迄堅御中付可有之候、以上

文政 辰十一月

伊藤勘解由

六郡筋奉行中

右之通御役所々御条目御触出御座候、端々迄行通り候哉此
段御役所々も相尋候所被 仰付候間御吟味之上早々御しら
セ可被成候、以上

〔富山売薬業史史料集〕

通 三 天保元年九月 射水郡売薬方仕法帳

流 (表紙) 文政十三年九月

三 売薬方仕法帳

一 売薬ニ罷越候国々之御作法相背不中、尤御国之取沙汰
堅ク仕問鋪候、跡々より御法度之趣不依何事嚴重ニ相
守可申事

一 売薬御役銀、毎年十一月限無滯上納可致事

一 御過書不相願、密ニ売薬ニ罷越候者隠置、後日相願ニ
おゐて者急度可被仰付候条、此旨相心得可申事

一 新掛いたし候節、前々より薬置来候者有之様ニ先方よ
り申聞候ハ、強而薬預ケ申問鋪候、若先方より好之
薬品茂候ハ、前々より置薬候者茂為指置候様相心得
可申事

一 薬重置之儀、近年心得違之者茂有之、猥ニ薬置合、其
上直段致下直ニ得意先与馴合重置仕者者追々御詮儀之
上足留ニ可被仰付候条、急度相心得可申事

一 射水郡売薬仲間相互ニ薬置合堅ク仕問鋪事

一 商人不似合風俗済上ニ不相成様、万端慎方急度相心得
可申事

一 場所先ニおゐて仲間煩出候節、向寄之ヶ所江参居候者

相互ニ馳集、心深ニ介抱仕療養等可致候、若煩出候儀
存不中仲間之方江者、急速申遣、代々ニ可致介抱事

付り、病人相果候ハ、其所之難題ニ不相成様相
談之上、品能執斗可申事

一 旅立定日之儀者、向寄仲間寄合候而夫々申合、都而御
作法方等之趣会得仕、御過書御願申上可致、出立寄合
不濟内勝手次第旅立致問舖事

付り、戻り注進者御過書相願候節、年月書上置候
通り、急度罷歸可申、併病氣等ニ而難罷歸訊取有
之候ハ、其手筋之役人等方江書状指遣、且延相
願可申事

一 御困廻売薬人商売ニ罷出候節、何方々々江罷越日数、
何日程相懸り候段、所方役人江相達出立仕、罷歸次第
相届可申事

一 旅先におゐて代人相雇、得意先為廻候儀堅ク不相成事
付り、相煩候歟、又は不時成儀出来故障有之候節
者、仲間之内相互ニ助合可申事

一 売子人之内先親方より隙を取何れ之売子ニ相極候共、

人柄之様子及商売方指障之儀無之哉、得与先親方手前
相尋可申、其儀無之勝手次第ニ取極於有之者、吟味人

江中入詮儀之上其人々指省キ可申、若其上他所江罷越
主取稼仕候共、先親方場所向寄ニ候得者指構可申事

一 旅先におゐて親方者不及中、売子人ニ至迄博奕蟲之、
諸勝負ケ間舖儀一切致問舖、御縮方嚴重相守、旅先ニ
而無益之隙を取、年若之仲間をだまし、金錢為費候様
之儀於有之者、請人ニ為相弁、尚又嚴重御詮儀可被仰
付等ニ候条、兼而急度相心得可申事

付り、旅先より罷歸候上者、薬種等之用意第一、
開作稼等入情ニ相心得、猥ニ口ヲ送り申問舖事

一 売薬仕入方薬種等精誠吟味仕、粗薬取扱不申様可致入
念ニ、尤御法度之薬種類堅ク取扱申問舖事

一 丸薬製候節、手伝之者共江格別馳走ケ問舖儀致問舖事
一 株持人并売子共之内ニ茂、旅先江罷越我儘を働キ、是
迄隨其困薬直段極等有之所、粗抹成仕入いたし、直段
売下ケ外仲間共不願迷惑者共有之体、是等者売薬一
統之指障ニ茂相成候間、吟味人方ニ而得与詮儀之上可

及斷事

一 無高所等為稼御郡売薬株持人、并高岡等江被相雇他国

江売薬壳子商売仕度者者、所方役人より其段願出御聞

届之上ニ而商売可致候、且又右壳子商売指止候節者、

其段所方役人より断出可中事

一 売薬株持人自分帳面場所先江悴、二三男等旅出致候儀

指支不申候、若外売薬人ニ被雇他国江旅出致シ候時者

御願中上、売薬壳子人ニ御聞届ヲ請可中事

一 株持人々壳子召仕候時者、給銀取式ハ礼錢引請等双方

示談之上得与相極、隨成請人等相立、証文為取替、於

後日申分無之様可仕事、尤壳子肝曲之儀於有之者向寄

売薬人等相互ニ打寄、立会之上突否相札埒明可中事

付り、礼錢引請之壳子人召仕候節者、株持主、壳

子并向寄人等立会、薬場所帳面之表精誠を以取揚

錢高等相調理候上、双方意得之上積卸シ相定可申

事

流 一 仙台様・南部様等御領分合薬売弘申人数相究居、彼方

三 様江御役金上納仕、御免札御渡商売仕來候ヶ所者其組

合切ニ而毎歳年行可役相立、夫々調査方等仕米候分者

是迄之通相心得可中事

一 当御郡今度売薬株立并出脚相定申候、併他国他領より

薬場所帳面買入候茂、御困益ニ茂候間指支不申候、尤

其向寄売薬人ニ指障候ハ、難聞届候、其節可為詮儀候、

且又他領等より薬場所買入候分、出脚相増候儀指支不

申候

一 壳株ニ薬場所帳面出脚它人分付添、残場所帳面所持仕

者相互ニ切出シ壳買之儀勝手次第ニ可仕事

一 是迄売薬商売不仕者、已米売薬株并出脚場所付添讓請、

薬商売願出候者有之候ハ、御聞届可被下事

一 売薬株并出脚及不勝手之場所切出シ等讓替之儀、壳人

より吟味人等江及示談候ハ、吟味人等より売薬株持

人々江一統致廻文、其上ニ而壳買可有之候、若望人無

之候ハ、他所江壳出可申候、且又隠壳買致シ候儀於相

頭者可為僉儀候事

付り、前段讓替之儀、売薬仲間ニ而茂為致挨拶直

段等之儀突意を以取極、双方迷惑之筋無之様相心

得可申事

一 売薬商売不仕者ニ而茂売子請人と歟売薬方ニ引合候儀

I 幕末

一 高岡、新川郡等売薬場所売買之儀者御国之儀ニ候間、

有之候節者、吟味人より其者呼ニ遣候而茂彼是申立、

吟味人及示談売薬主付之指図を請売買可致候事

出合不申時者其段主付江及案内可申事

一 新川郡より売薬場所帳面買入候ハ、新川郡売薬主付裏

一 売薬場所讓替之儀者惣而主付之閤届之裏書いたし候間

書を請可中候、高岡等より薬場所帳面買入候儀者是迄

断出可申候、万一閤届を請不申勝手次第下ニ而讓替堅

之通ニ相心得可申事

ク不相成候事

一 売薬株讓替之儀、所方役人并売薬吟味人奥書を以相願

一 奥州仙台様御領分ノ老組

候ハ、主付より組主付江其段相届候上ニ而取極売買

一 同 南部様御領分ノ老組

可致事

一 越後、信濃、飛騨、出羽、武蔵等東国ノ老組

一 売薬場所帳面引当ニ而合薬仕入、銀等指支無拋借用、

一 越前、近江、五畿内、九州等西国ノ老組

又者御取納引当等ニ仕候節、吟味人得与致詮儀其向寄

一 御国加越能三州ノ老組

売薬人手前茂聞合、右帳面錢高を以借用等可致候、若

右五組与相定以来ニおゐて、故障式者売子共置定等ニ

吟味人等不穿鑿ニ而印形相弁候而者、後年煩敷儀出来

申分致出来候ハ、其老組之内向寄之売薬人并吟味人

可仕候間得与僉議之上可致印形候、勿論銀主人能々調

立会詮儀可致候、若老組ニ而落着不仕候ハ、五組打

理証文為取替、六ヶ舖義出来不仕様相心得可申事

寄致詮儀大体之儀者吟味人、売薬人自身ニ其座江罷出

一 売薬場所売券証文并引当証文等調様案文可相渡候間、

精誠を以取縮可有之候事

其旨相心得、尤品ニ寄外ニ書加ヒ申度儀茂有之候ハ、

付り、吟味人并老組之内、向寄之売薬仲間立会、

吟味人示談之上書入可申事

万端故障有之共大体之事者取縮可有之事

一 薬売子人自身ニ売薬場相求申時ハ、是迄売子ニ罷越候

主人之向寄場所等ニ而先主人より指構有之ケ所指省キ、
無構薬場所譲請可申事

一 此度老株之出脚人数相極候上者、相互ニ致吟味、過足
等見聞候ハ、早速断出可申事

一 老株之出脚人数相極居候得共、場所得意先キ年々相働
極之出脚ニ而、手張り廻兼候ハ、向寄之売薬人^与示談
之上、増脚相願可申上事

付り、売薬場所得意先キ不廻等ニ而出脚極之人数

程入用ニ無之候而茂、御役銀取立候条猶更商売方

入情ニ相働、増脚茂相願候様專一ニ相心得可申事

一 毎年三月中日限相極、売薬御縮方等申談、請書印形見

届候間、売子人不法之筋等有之、親方手前ニおゐて致

穿鑿候而茂聞入不申候ハ、無泥其段断出可申事

通 右ケ条書之趣一統嚴重相守可申候、若相背申者於有之者急

度御詮儀可被仰付候条兼而重々相心得可申事

文政十三年九月

三 流

宮森村

庄五郎(判)

高木村

藤右衛門(判)

右仕法之通可取極置者也

御郡奉行(印)

(石川家所藏文書)

天保三年三月 檢校売薬場所帳面預り証文

合薬帳面預り証文之事

一 越後糸井川(魚カ)新発田在迄、辰ノ年改置帳面式冊、去上

り高百三拾ノ百十七文、軒数三百八十式軒、

右之通預り申候処実正ニ御座候、

一 右之帳面夫々相改候、相違無御座候、依而当年辰ノ年

中ノ年迄五ケ年之問、惣方納得之上帳面利足等して(とカ)卷ケ

年ニ金六兩老歩づ、相渡し、右帳面預り申候処実正ニ御

座候、

一 五ケ年目ニ右預り帳面相渡申候時ハ、右之上り高・か

ケ數通り相改、急度相渡可被下候事、

一 五ケ年目ニ私預り候元帳面より成共不足ニ相成候時ハ、

右元帳面之内何村何右衛門掛何貫何百何十何文、ノ拾文上リヲ三拾五文づゝ之相場ヲ以、銭高之通り急度弁金相渡し可申候事、

一 五ヶ年之定ニ御座候得共、私共年々場所取上等不足ニ相成、又ハ掛等不足ニ相成時、又ハ不埒之義も是有候時

ハ何時成共帳面ヲ御取上可被下候、少も中分無御座候事、

一 五ヶ年目ニ元長面之通り相渡し、其外ハ私之勤等御座候時ハ右勤之銭高三拾五文之相場ヲ以、半分ハ私方江相渡し可申定ニ御座候、半分ハ貴殿へ相渡定ニ御座候事、

一 勤之銭高私へ被下候分之内、半分ハ其年被下候、半分ハ証文手形ニて被下候、其明年帰宅次第ニ利足ヲ以、元利共右証文手形引替ニて相渡可被下候定ニ御座候、

一 五ヶ年之間者人分ハ御役金相納可申候事、

一 旅先ニお糸(いカ)て相煩ひ仕候共、貴殿方へ少も御難題相かけ申問敷候事、

一 旅先ニおいて商売ニ付入用等御座候共私ハ相出可申候事、

一 帰宅之善年(前カ)之帳面御改被下、其上帳面相渡可申候事、

一 利足之義、帰宅次第御渡し可申候事、

右ヶ条趣急度相心得、右長面(帳カ)ニ預り入清々(縁カ)相廻仕候、万一私ニいヶ様之義御座候共、請人為其相立置可申候間、請人方ハ利足御請取可被成候、為其証文如件

天保三歳辰三月五日 本人 二日市屋次郎右衛門

請人 同 次 助

同 四日市屋嘉 助

福岡屋清右衛門殿

前文之通り此度私共請人ニ相立申廻相違無御座候、万一次郎右衛門ニいヶ様之義御座候共、私共弁金ヲ以、貴殿へ御勘定相済申候、為其請人印形仕候所依而如件

請人 二日市屋 次 助

同 四日市屋 嘉 助

福岡屋清右衛門殿

(内藤記念くすり博物館蔵)

天保三年十一月 小倉藩、売薬許可の庄屋宛

触書

寛

越中富山住人業種屋權七申者、於御郡中反魂丹其外之業
売申度旨願出候ニ付、廻村申付候、宿々村々共行懸次第宿
を貸、宿賃請取之可申候、萊望之者者無疑相調、勿論業請
売之者者權七業可致受売候、權七并手代を茂差出候、仍而
証文如件

天保三辰十一月

山田平右衛門 御印

企救郡

出川郡

京都郡

仲津郡

築城郡

上毛郡

大庄屋中

小庄屋共

(富山売業業史史料集)

一 六拾六貫文

巳年錢揚り高

但シ辰年八十二メ文揚り

右備前国売業場所、貴殿御所持帳面、私引請申廻実正ニ御
座候、然上ハ当暮帰国次第帳面錢揚高を以、指引勘定急度
相立可申候、猶又是迄貴殿ニ奉公中指上置候証文之通り、
播州津ノ国両者者勿論、其外貴殿所持之場所先ヘハ、永々
外売買ニも入込申間敷候、若入込候ハ、思召次第ニ可被
成候、為其証文相渡申所如件

天保五年

午三月十日

柳原屋

勘兵衛 印

一門同

市兵衛 (判)

同湊屋

久五郎 (判)

世話人上野屋

吉兵衛 (判)

蓬沢屋

久助様

(早川家所蔵文書)

天保五年三月 檢校売業請合証文

引請申売業場所帳面之事

通 流 三

二 天保十四年十一月 売薬品増し代替の熊本国

産墨売捌方一札

取為替一札之事

一 去暮各方より薬増願被成度儀ニ付而、御困製之墨七拾文

錢六貫目宛毎歳請込申度由願出ニ相成候之処、願之通

被 仰付候、左候処右御請方之墨半高御損毛ニ而、三貫

目ニシテ私方江引請可申候、此方ニ毎歳私方へ入方之口

錢貳貫三百目宛差引仕候得ハ、七百目過ニ相成申候、此

分薬増口錢ニ御仕向被下候段忝奉存候、尤墨不殘御拵濟

後考口錢都合三貫目宛毎年御仕向可被下極合之事、巨細

書左之通

一 六貫目 毎歳墨請方可被成分

内三貫目 春上納分

残三貫目 暮上納分

外ニ 六貫目 御冥加上納分

一 貳貫目 口錢

一 三百目 足増口錢

一 七百目

メ三貫目

薬品増口錢

右之通毎歳御引受ニ相成候墨口錢都合三貫目ニ立用被成度

段双方納得仕候、然上者後年ニ至り候而茂売捌方之儀ニ付

而異変等申問敷候、依而一札進置候処如件

天保十四年卯十一月

財津熊三郎 函

小出原屋 久兵衛殿

松野屋 佐兵衛殿

美濃屋 宗 七殿

松井屋 久四郎殿

高沢屋 文 藏殿

栗種屋 弥三兵衛殿

松 尾 文次郎殿

播磨屋 傳兵衛殿

〔富山売薬業史料集〕

三 流 通

三 弘化四年〜明治二年 飛騨国境通過売薬商人の出身地と売薬荷物

番所名	取立帳年月	総件数	売薬関係件数	通過売薬商人の出身町村名と売薬荷物
小豆沢	嘉永二年十一月	一三九	五	富山(売二) 高山(売二・種一)
〃	明治二年四月	一三九	三六	大久保(売一) 箱一 小久保(売三) 箱一 岩瀬村(売三) 箱一 長原(売三) 箱一 滑川(売三) 箱一 高ヶ口(売三) 箱一 七ヶ口(売三) 箱一 黒山(売一) 種一 高山(売一) 種一 三谷(売三) 箱一 堀原(売三) 箱一 古江(売三) 箱一 須川(売三) 箱一 水橋(売一) 箱一 榆原(売一) 箱一
荒田	万延二年二月	六四七	八	黒山(売一) 種一 高山(売一) 種一
荒田	明治二年四月	五〇七	八〇	越中(売一) 箱一 高野(売一) 箱一 布尻(売七) 箱七 船渡(売七) 箱七 水橋(売三) 箱六 岩瀬(売三) 箱六 古川(売一) 種一 冬頭(売一) 種一
二ツ屋	安政六年二月	一八四	三	大村(種一)
中山	明治二年四月	二一四	一三	信州(種一) 種一 富山(種一) 種一 高月山(売六) 箱六 富山(売二) 箱二 水橋(売五) 箱五
小白川	弘化四年九月	一〇二	三	野尻(売一)
〃	安政三年八月	七二	三	高山(売二)
〃	安政三年九月	九五	七	高岡(売二) 箱二 野尻(売二) 箱一
〃	安政四年閏五月	四六	一	越中(売一) 箱一 越中(売一) 箱一 越中(売一) 箱一 越中(売一) 箱一

番所名	取立帳年月	総件数	売葉関係 件数	通過売葉商人の出身町村名と売葉荷物
小白川	安政六年 八月	六七	一	放生津(売一)
〃	万延一年 八月	三四	一	高岡(売一)
〃	元治一年 四月	三二	一	越中下梨(売一)
〃	元治一年 六月	一一二	三	越中北方(売一) 城端(売一・箱一)
〃	元治一年 七月	七八	一	越中下梨(売一)
荒田	嘉永三年 一月	七	〇	
二ツ屋	嘉永三年 一月	三三	〇	
〃	安政四年 一月	〇	〇	
〃	安政四年 三月	四	〇	
〃	安政四年 五月	八	〇	
〃	安政六年 一月	三七	〇	
中山	安政五年 一月	五六	〇	
小白川	安政三年一〇月	一三一	〇	
〃	元治一年 五月	一〇三	〇	
牛首	文政五年 五月	二五	〇	
羽根	文政五年から明治二 年四月まで三三冊	一八	〇	留帳のうち通過件数のないものがある

(注) 右の表のうち 売は売葉、種は葉種、箱は売葉箱のことをさす。

(植村元覚『行商圏と領域経済』)

右前段之趣承り届候、以上

滑川売薬吟味人

傳 蔵 ㊦

同

八兵衛 ㊦

(早川家所蔵文書)

三 嘉永三年二月 懸場所帳面預り証文

預り申売薬懸場帳面之事

去四年取揚候高之内 播州姫路

一 百七十貫文揚り 帳面之内一冊

高田清次郎名前 有儘出脚半分相添

右之通売薬懸場帳面、儘ニ預リ申処実正ニ御座候、然上者

当戌年ノ酉年迄十二ヶ年限リ、壹ヶ年ニ金五兩壹歩宛利金

二、八月七日切兩度ニ相渡可中候、万一右帳面預リ之中、

不埒之義或御座候而利金等迄相滞候ハ、何時ニ而或右預

リ帳面、貴殿御引取被成候共、聊申分無御座候、為其帳面

預リ証文相渡中処如件

嘉永三年

戌二月

蓬沢屋

久太郎 ㊦

六 (嘉永三年)八月 越中売薬人、薩摩藩製薬方

合薬売捌方願書

乍恐口上覚

磯

御殿様御代より数代私共御領内諸郷々江、合薬為入付方罷

上り全商売仕来、誠以奉蒙 御国恩、乍恐私共家内介抱相

続仕別而難有奉存上候、然ル処去年ノ御製薬御方より 御

仁政之思召を以御領内江合薬御入付被為遊候段奉承知候、

難有御趣意之趣乍恐奉汲受候、左様御座候処、私共是迄之

通入付方仕候而者、前文御趣意相叶不巾儀与乍恐奉存上候、

就而者去年ノ入付置候合薬代銀請取方仕候而引取、入付方

蓬沢屋
久助殿

期 仕間敷候、左候而前文奉申上候通、是迄 御国様江罷上私

末 共ニ而外國々江者罷越不申儀ニ而、一向奉蒙 御国恩候者

幕 共御座候得者、是迄被仰付置候旁之御取訳を以、御領内之

I 内御憐愍被召加郷々以御見合入付方仕候様、御免被仰付被

下度奉願上候、就右而者御製菓御方御調合之合菓申請之直

成同様売出方仕度奉存候間、右願之通被仰付被下候得者別

而難有奉存、幾久敷御国恩亡脚仕不中候、且又帰国之節者

御調合之合菓類申受被仰付被下候得者、於他国元弘方手広

出精仕度念願奉存上候、左様御座候而諸上納之儀者是迄通

献納仕度奉存上候、左ニ奉願上候、

一 金子

御製菓御方江年々上納仕度奉存候、

一 昆布 壹万斤

右老行産物御方江上納仕度奉存候、

右之通冥加為御礼年々本文之通当年々上納仕度奉存候間、

誠以御繁多之御稠恐縮至極奉存候得共、此等之趣奉願上候

間、成合候様被仰上、可被下儀奉願上候、以上

能登屋 兵 蔵

中屋 善次郎

中屋 嘉次郎

油屋 源 蔵

井澤屋 清兵衛

松屋 甚 七

宮嶋屋 伊兵衛

戌八月

上

右之通奉願上候趣承屈申候、諸郷々江合菓御入付相成、輕

キ代銀を以申受被仰付、御趣意之趣得与申論候処深奉汲受

候、就而者右之者共 御領内江罷下り候分者他国方江相掛

商売等仕不中、偏ニ奉蒙 御国恩候者共ニ而、願之通被仰

付下候得者一統難有奉存上候、且御調合之御菓等同人共歸

国之節申請被仰付、他国江元弘方仕度段段承申候間、乍恐

私引受取扱方仕度奉存候、猶又往々御奉公筋等念願奉存上

候段段承申候間、旁之御取訳を以何卒願之通被仰付被下候

様被仰上被下度此段中上候、以上

戌八月

木村與兵衛 印

御製葉御方

〔富山壳葉業史史料集〕

室 嘉永四年六月 水上屋清二郎名義、石見諸仕
入内訳書上

石州諸仕入之控

- 一 三朱ト四百四十匁七分九厘
- 一 二百七拾九匁三分三厘
- 一 六百貳匁七分八厘
- 一 貳ノ四百三十五文
- 一 金壹兩ト百三十文
- 一 三ノ貳百文
- 一 五百文
- 一 壹ノ五百七十文
- 一 八百七十九文
- 一 八百六十八文
- 一 五ノ五百十文

茶木屋葉種代

中屋葉種代

油屋葉種代

能登屋

吉沢屋即功紙代

田中判木代

今井判木代

中野奥田屋袋付手間

松尾紙折手間

孫安油七升、炭代

(カ) みる場

- 一 百三十文
- 一 三ノ七百六文
- 一 貳ノ八百四十二文
- 一 九十文
- 一 八百十九匁三厘
- 一 壹ノ三百九十七文
- 一 四百六十九文
- 一 五ノ貳十五文
- 一 壹ノ七十九文
- 一 拾貫文
- 一 六日 三歩貳朱ト百三十七文
- 一 五拾七匁四分四厘
- 一 壹ノ九十文
- 一 五百貳十四匁九分五厘
- 一 五十文
- 一 五匁七分
- 一 富山 三十五文

かうやく御役

中町茶木屋貝代

奥宗目葉、包糸手間

からつや、龜七ツ

中嶋屋紙代

竹川包七百六十、六百六十目

高嶋、紙折手間

松尾、丸葉手間

濱子屋、袋付手間

福田、捧盛五百目入

粟山屋、錦繪代

奥田屋佐兵衛飯余瀉三蔵丁子

曲物代

金具屋風葉代

筆壹本

折墨三百目

竹川百目

一	六十五文	生麸老升	一	百文	末野老つ
一	六文	箆 良	一	拾五文	筆老本
一	式十五文	墨鉢老つ	一	式百式文	胡麻油老合半
一	拾五文	水 油	一	百九十五文	生麸三升
一	三拾文	紅蓮鉛	一	式拾四文	飴老合
一	三拾文	筆老本	一	式十式文	玉子二つ
一	五拾文	筆式本	一	六拾文	墨はけ老本
一	百文	墨式本	一	九拾文	糊刷毛老本
一	百三拾文	清水膏御役	一	式百六十五文	杉楊枝七百本
一	老ノ七百文	籠拾籠代	一	三拾文	さし日薬□□老つ
一	八百八十文	かんさらし老斗代	一	六拾文	竹皮式百十匁
一	八拾四文	しき手間、七升代	一	四拾文	竹皮百廿匁
一	式百文	赤玉紙老本	一	五文	小豆 <small>(粉カ)</small> 胡
一	三百八十五文	むしろ十五枚	一	百式十五文	米たわら十
一	八百五十文	名前・連人、其外入用	一	四百六拾文	岩瀬迄賃式駄分
一	式ノ二百廿文	八六分入即治膏手具	一	五十文	小付老つ
一	式百八十文	<small>(弱桃カ)</small> 黒美四升	一	四百六十文	荷作手マ、繩□代
一	式百五十文	油三合半	一	九拾文	筆三本

三 流 通

一	式ノ四百文	荷物式函分うん賃	一	式百十七文	紅染絹三尺式寸五分
一	式百五十文	小付巻つ、十ノ目斗	一	拾五文	赤紙六枚
一	六拾七文	胡桃油半合	ノ		
一	壹朱	諸丸藥手間	是ヨリ路金買物		
一	壹ノ式百文	桐油六枚	一	六匁	金ふん三十目
一	式朱ト五十文	十三折、合羽巻枚	一	貳両	銀くす式十一匁
一	三步壹朱	金箔三百六十二枚	一	壹歩	扇子
一	貳歩	口 屨	一	三步	四〇きぬ糸
一	貳歩貳朱	諸雜用	一	三步	風呂敷
一	壹ノ文	反古薬、九百六十目	一	四百式十四文	薬袋紙三丈 <small>(帖カ)</small>
一	四十五文	反こん丹かんぼん巻枚	一	拾壹匁	はり廿疋
一	四十文	かりやす	一	三両	路金兩人分
一	八十文	名ぼん	金ノ拾両三步三朱		
一	貳百三十文	下り紙、壹束三丈 <small>(帖カ)</small>	銀ノ壹ノ九百拾匁一分九厘		
一	六拾文	生駄巻升	此金三拾壹両三步壹朱ト百五十六文		
一	四拾文	箱巻つ	并銀ノ八百四拾壹匁壹分三厘		
一	三百文	万金丹箱代	此金拾貳両三分三朱ト十八文		
一	三拾貳文	筆巻本	錢ノ五拾九ノ貳百六十一文		

期 此金九兩卷朱ト三百五十五文

幕 都合

六拾四兩三步ト五百廿九文

嘉永四年亥六月

水上や清二郎

〔富山売薬業史史料集〕

突 (安政二年)十二月 薩摩藩における売薬差止

解除一件

写

先年来 御手許計を以御製薬方被 召建、合薬類諸品製薬
被 仰付、御領国中一統江代銀上納申請被 仰付、就中諸
郷辺鄙之場所ニ至候事者、輕民共医療之手当等行届兼候儀
茂可有之哉与、厚以 思召諸郷末々迄迄申請被 仰付来候
得共、何分広太之^(大丸) 御領国中売弘方行届兼候所々御吟味之
訳有之、往古より 御領国内江入来候売薬、越中富山のもの
共江薩州・隅州之分者売薬御差止ニ而、去ル亥年より右御製
薬方調合之諸品、右之もの共江御下渡ニ相成、是迄自薬売

弘方同様ニ被 仰付、売高ニ心し金銭当人共江者割口銭

被成下来候得共、基商人共之事故利得ニ相泥ミ、訳合茂有

之候哉自薬売弘候様ニ隔々行涉り兼候趣相聞得、全体輕民

共病苦御救之 御趣意ニ相触れ如何之至ニ候、依之越中富

山売薬之もの共を以御製薬方諸品売渡方之儀者、此節より御

取止被 仰付、別段之手続を以売弘方被 仰付候ニ付、右

富山売薬之儀者薩隅両国共旧来之通り勝手次第被 仰付候

条、難有奉承知候之様可申渡旨御製薬方御役々江可申渡事、

但、富山之もの共御領内江旧来之通売薬売弘御免被 仰

付候ニ付而者、冥加御礼銀之儀、別紙之通被 仰付候、左

候而口州一郡之儀者是迄之通被 仰付候条是又可申渡事、

写

一 金三百兩

一 鉛千斤

右式行此節売薬御領国中江売弘方御免被 仰付候冥加為御

礼、此節御製薬方江上納被 仰付候、

一 金百兩宛

右年々為御礼御製薬方江上納被 仰付候、

但、外ニ昆布壹万斤琉球産物方江為御礼上納之儀者是迄
之通被 仰付候、

写

別紙式通之通 豊後殿有馬舍人御取次を以被仰渡候間、
此段申渡候事、

卯十二月十五日

御製 藥方印

〔前略〕 然者先便之粗御懸合申越候合藥入付方之儀、此節
元通り御免許被仰付、別而御満悦之至御祝義申上候、御安
心可被下候、就而者当春爰許ニ而御願出之願書者御取揚無
之、疾ニ御下ケニ相成、別段之御吟味之訳被為在難有御免
被仰付、別紙写を以差送申候間御高覧可被下候、尤御口達
を以不容易儀ニ候得共、右之通被仰付被下候段奉承知候、
委細之儀者鳥羽屋藤次郎殿・油屋源藏殿・中屋清古殿・宮
鳥屋五兵衛殿等御聞取可被下候、御同人方も長々御逗留
ニ而嘸々御退屈千万被成御座候得共、其詮義相立此度者万
事御首尾能御出立ニ相成大悦奉存候、

流

三

一 極御内々御座候 御製藥館被召建候 思召、御領内端
々輕者共迄も御救可被為在難有御趣意之折柄江、他国方江

御手厚御憐情被召加候儀者不相成訳合御座候処、誠ニ以不
容易御吟味被為成下御免被仰付、何共重々奉恐入候次第御
座候、此已来万古不易ニ罷成り、何廉故障^(到之)至来不致様丈夫
ニ御取斗被成下、御厚配之程誠ニ奉恐悦候、此上者何れも^(符)
様ニも幾久敷御宝蔵之御事と奉遠察候、右御祝義申上候、
右成行御四人の方江も中入置候間猶又細々聞御取可被下候、
一 入付方之儀者米年より御互ニ御下向ニ相成候様ニ有御
座度候、

一 冥加為御礼此節金三百兩上納仕置候、鉛之儀者大坂ニ
おゐて御手当被成下候様申達置申候、

一 此節御免被仰付候迄之間御仲間方も御迷惑之程奉察
候、其内ニも御不肖^(承力)之御方も有之、折角御出費も不及様御
相談仕取計申候得共、余計ニ相重ミ、御預り置金子ニ而者
引足不中、甚以御氣之毒ニ御座候、且外ニ御加銀之訳合も
空敷罷成り、何共申上様も無之実ニ氣外之至ニ候、其段も
御同人方へ申出置候間細々御聞取可被下候、先ハ右之趣早
々御掛合申上度如斯御座候、恐々謹言

十二月

木村 與兵衛

御仲間中様

〔富山壳葉業史史料集〕

段御時合宣被仰上可被下候、以上

辰九月

越中富山

葉種屋權七

忝 (安政三年)九月 越中富山葉種屋權七、小倉

藩壳葉免許嘆願書

乍恐奉願上口上覚

私儀往古々厚奉蒙 御国免、殊ニ壳葉調理方等被 仰付置、

御国住人同様ニ相心得、商業仕来申候処、此度重御趣意柄

等就有之、莫太成金高持帰候御風臨御座候様承、誠ニ以奉

驚入候、私手許ニ而

御領中壳葉代惣取揚持帰金高凡四百兩余ニ御座候間、向

後御国産之品何成共時之見合を以買求帰候様可仕候、此上

御銀札之儀者御両替所江引替指出申間鋪候、何卒往古通不

相替御免許被 仰付置被下候者大慶至極難有仕合奉存上候、

尚此度為冥加金貳百兩献上之仕度奉存上候、誠ニ以聊之儀

ニ御座候得共御受納被成下、御加用ニ茂被遊被下置候者快

慶至極奉存上候、何卒御憐愍を以御執成之程奉願上候、此

右彌三郎・徳兵衛奉願上候通、宣被仰上可被下候、以上

室町壹丁目

油原

右 平右衛門 印

御 町 方

御 役 所

〔富山壳葉業史史料集〕

六 安政三年 越中富山葉種屋權七、小倉藩領篠

崎八幡神社寄進

乍恐葉種屋權七御領中御免許之由来

(中 略)

一 先年中御当国宮尾社心願成就仕、喜悅之余り石之鳥居寄進仕、後年ニ至り破損仕候故弘化年中修復仕候

(中 略)

安政辰年月日

越中富山

薬種屋權七

(富山売薬業史史料集)

充 安政四年三月 新川売薬人、出雲大社神札売

弘方願書

奉願口上之覚

越中国滑川住人高田清次郎与中者、百四五十年以来御国江参入仕、御城下御國中致売薬米候処、文政年中歟郷中売薬御差留被仰出、御城下のミ御免ニ相成候ニ付、年々不相替御城下ニ逗留罷在候由、同人先祖々代々大社信仰ニ而参詣もいたし御神札等受来候ニ付而者、数十年来千家殿江致出入候者ニ御座候処、当時近遠国とも諸人神道信仰之世并ニ相成候ニ付、加賀・能登兩國之内手寄くを以所々ニ而世

話人を相立、大社御神徳相弘申度段此近年申出候、仍之何卒永々且場(續カ)ニ相成候様精々心配可致旨申置候処、追々神徳相弘り毎度北国筋の参詣もいたし候様相成申候、然処同人儀如古来御國中売薬之内願成就仕候様、神願を籠罷在候由ニ御座候得共、表向願出候而者恐入候訳も有之ニ付、何卒千家殿の郷中売薬御免ニ相成候様願立被遣度旨兼而申出候得共、何様不容易事故相見合被居候処、同国松井屋源右衛門与申者北嶋殿社中佐草図書江相頼、御願申上候儀者承知被致候得共、其節被願立候而者図書願立候折柄、又々千家殿も被願候与申響ニ而者、図書儀ハ上官之身分旁以外聞も如何敷、先々折も可有之事与被差控候内、去暮図書願通り御國中売薬之儀御聞届ニ相成候ニ付而者、清次郎義是非同様御免被成下度様ニと遮而願立候ニ付、被及考量候処、不無理儀、國許之外聞といひ就中同人義ハ百四五十年米御國参入仕、御城下ニ而微名も相弘居候得者不面目之訳も可有御座候間、此段御賢察被成下、郷中共偏ニ御免被仰付候様奉願候、假令売薬御免ニ相成候迎郷中人別不勸之者へ押売杯者決而不仕、素々御國政之儀(大カ)太切ニ可相守旨申出候間、

願之通御聞届相成候ハ、清次郎無此上大慶仕、大社配札之
世話振も別而厚心配可仕、殊ニ諸民之病難者勿論、折ニ触
候而者一命をも助ケ候儀ニ御座候得者神慮ニ茂相叶、且者
千家殿外聞ニも可相成儀ニ御座候間、何卒御配意を以願意
御許容被仰付様精々奉仰願候、右等之趣厚御願可申上旨千
家殿被中付如此ニ御座候、以上

年月日

平岡主殿

兩御奉行宛

御役人衆中様

御願申上ル御事

〔富山売薬業史史料集〕

一 私義兼而 大社様信仰仕候ニ付、千家様が数十年来御
守頂戴仕来候、然処近年御神札相弘メ度心願ニ御座候ニ付、
加賀・能登両国之内左之宿町手寄仕候処、追々御神札奉願
上度与中出候者数多御座候、全数百年来此御用之御恩を蒙
り候私義ハ、いかさま御蔭ニ而利益をも取帰り候得者御国
損之訳茂可有御座歟、乍忝追々御神札等受候様ニ相成候而
者御国益ハ私之利潤が十倍ニ可相成与責而之御恩報与奉存、
精々心配仕度奉存候、仍而当時私が手寄仕居候宿町左ニ申

上候、

加賀国 金沢城下 小松町 松任町

大聖寺城下 鶴木町(桑志)

能登国 七尾町 福浦湊

右宿町之外郡村共御檀場ニ相弘可申上如件

安政四年巳三月

越中清次郎
高田 清次郎

大社千家様

古 安政四年四月ノ閏五月 仙台藩売薬願方一件

〔表紙〕
「安政四年四月」

仙台御指留ニ付、如元之御高免被成下度歎願申上候内、

嘉兵衛罷下り別ニ願立候ニ付一致可致段被仰渡、和談

致其後諸願并義状書控

仁八郎

清八

嘉兵衛

嘉兵衛と和談証中遣候写左ニ

和談御約定御申合規定之事

配葉御免之義私共相願居候処、其御向筋御内意ニ而仁八郎清八兩人も願相出居、此兩人ハ四ヶ年前も惣代として願申出居候者共ニ而、相免候節ハ誰江も不抱被相免者ニ候所（拘力）扱又御手前共も品々願之趣無余義事ニ而、深切ニ付被相免度候得共仁八郎清八江対し御義情被為立兼候間、和談願不申出候内ハ双方江何時迄も御免許無之候ニ付、和談仕候様被仰談此度私も取向ひ御相談仕納得相成御互大慶仕候、就而者此末御熟和仕願成就之上ハ合功ニ而独功ト御互申義無之御申合之事

一 配葉御免之義願成就之上者、御互是迄造費又ハ夫々諸懸りも可有之、此義は御互御申合一致御相談之上諸共共可仕堅御申合之事

一 此度御吟味次第二人之内江一人名前ニ而御下知有之候共、元も三人願申立候上者独功名申立問敷候事

三 流 右之通堅御申合仕外出張居候者共江ハ決而御秘藏仕御申合ニ而少しも相そむき申問敷候、以上

安政四己年四月廿九日

守妻町屋

嘉兵衛印

山屋 清 八様
布目屋 仁八郎様

右ヶ条之通私共兩人ニ而双方和談中入早速御納得被下恭存候、然上ハ嘉兵衛殿方も如何体之問違等御座候共、私共引受相捌可申候、為後日之奥印如件

駒見屋 仲 藏 印
塚原屋 弥三兵衛 印

仁八郎清八と和談証申遣候写左ニ

和談御約定御申合義状証之事

配葉御免之義其元被相願居候処、此度其御向筋御内意ニ而私共兩人も願相出居、私共ハ四ヶ年前も惣代として願申出居候者共ニ而、相免候節ハ誰江も不抱被相免者ニ候所（拘力）扱又其元連之義も品々願之趣無余義事ニ而、深切ニ付被相免事ニ候得共私共兩人江対し御義情被為立兼候間、和談願不申出候内ハ双方江何時迄も御免許無之候ニ付、和談仕候様被仰談此度其元も御取向ひ御相談之趣承知仕御互大慶仕候、就而者此末御熟和仕願成就之上ハ、合功ニ而独功と申

期 義御互申問敷御申合之事

末 一 配藥御免之義願成就之上ハ御互是迄雜費又ハ夫々謬懸

I 幕 りも有之、此義ハ御互御申合一致御相談之上諸弘共可仕

堅御申合之事

一 此度御吟味次第三人江内一人名前ニ而御下知有之候、

其元より三人願申立候上者一人功名申立問敷候事

右之通堅御申合仕外出張居候者共江ハ、決而御秘藏仕御

申合ニ而少し茂相そむき申問敷候、以上

安政四己年四月廿九日

守護町原
嘉兵衛様

山屋
清 八 印
布石屋
仁 八 郎 印

右ヶ条之通、私共兩人ニ而双方和談申入、早速御納得被下

恭存候、然上ハ清八殿仁八郎殿兩人方々如何様之問違等御

座候共、私共引受相搦可申候、為後日之奥印如件

駒見原
仲 一 藏 印

塚原屋
弥三兵衛 印

二人連名ヲ以奉願上候義仁八郎清八兩人下書写左ニ

乍恐貴寺様奉頼奉願候義ハ御向違ニ而仁八郎清

八恐入奉存候得共、此度嘉兵衛義和談之義頼入

相叶不申候而ハ、何時迄も双方江御下知無之趣

御向筋御内話之趣ニ付今度和談仕候、依而去年

中ハ嘉兵衛義貴寺様御取次奉願置、此度御相談

之趣承知仕恭仕合ニ奉存、左ニ三人連名奉願候

事

私共九十六人御当国江参り売藥渡世仕、広太之蒙御国恩、

難有仕合奉存候、然処嘉永八年より売藥渡世御指留相成、

四ヶ年之間無渡世ニ而露命相統も相立兼候ニ付、仁八郎・

清八義ハ四ヶ年前ハ嘉兵衛義ハ去年より如已前之、売藥渡

世御高免被成下度候品々歎願書双方ハ指出候処、当三月中

御吟味難被相成段被仰渡候ニ付、恐入指控罷在双方同様之

願ニ付、御上之御用多至極恐入罷在候処、此度嘉兵衛義仁

八郎・清八江和談無之候而ハ御吟味被成下兼候品々御内意

有之由ニ而、取向ひ申聞候ニ付双方和談仕候間万一表格別

之御慈悲ヲ以、御吟味相成候□者右二人名前ヲ以御指凶被

成下候ハ、私共不及申九十六人一同大慶難有仕合奉存候、

尚和談之上ハ双方指障り之義一円無御座候、右様御指凶罷

成御下知頂戴之上ハ段々内願候通り金子三千両、為冥加之
献金仕度奉存候、右金子之義ハ越中迄往覆之間急飛脚申遣
候ハ、三十日之間御猶予被成下候ハ、無相違金子相納候
様仕候間、乍恐御取詰御指図罷成候様御取次奉頼上候、前
文之通り毛頭違変無御座候間、御請合被成下度、此段奉
頼上候、依而御頼証如件

安政四巳年五月廿二日

嘉兵衛 印

清 八 印

仁八郎 印

法蓮寺様

御役者

右之通五月廿二日付之願書指出候処、御上様御筆ヲ被下
ケ下候ニ付、閏五月十五日指出候願書写左ニ

乍恐貴寺様江奉頼奉願候、私共願之筋柄仲間一

統之義和談之上一致仕候義ニ無之候而ハ不相叶

筋ニ付、嘉兵衛ハ頼合有之此度和談仕、去年中

嘉兵衛義貴寺様江御取次奉頼置候ニ付、尚又三

人連名ヲ以奉願候事

私共九十六人御当国江参り壳薬渡世仕、広太之蒙御国恩、

難有仕合奉存候、然処嘉永八年ハ壳薬渡世御指留ニ罷成、

四ヶ年之間無渡世ニ而露命相統も相立兼候ニ付仁八郎清八

義者四ヶ年前ハ嘉兵衛義者去年ハ如巳前之、壳薬渡世御高

免被成下度段品々歎願書双方ハ差出候処、当三月中御吟味

難被為成下段被仰渡奉恐入候、再応奉願候義甚以恐入奉存

候得共、仲間一統年来御当国江罷出壳薬渡世ヲ以露命相統

罷有候者共之義、御指留ニ罷成候ニ付而ハ何ヲ以相統可仕

哉、誠歎敷次第ニ御座候、私共一統御当国江罷出莫太之蒙

御国恩、難有仕合筆紙ニ難尽義ニ御座候間、薬製精々吟味

直段指働、御国中不自由之所辺鄙之在家、海岸山入迄も指

難薬験ヲ以諸人病苦ヲ相除候義、自然、御国恩ヲ報上候筋

ニ可罷成と兼々精配罷在候義、且又九十六人之者共為御救

命之格別之御慈悲ヲ以如元之配薬御免被成下度、今一応奉

歎願候、已上

安政四巳年閏五月十五日

嘉兵衛 印

清 八 印

仁八郎 印

法蓮寺様

法蓮寺

油田重三郎殿

右之通三人名前ニ而歎願書指出置候処、八月廿二日出
入可油出重三郎様御指紙ニ付、罷出候処別紙之通被

仰渡候事

被 仰渡書写

覚

越中売業御国人被相留候ニ付、売子中一統及迷惑候間、御
困入御免被成下度無幾心と奉歎願候得共、吟味難相成事ニ
中渡置候処、今般其方共売子中ニ成代り、御困入売業之儀
段々歎願申出候ニ付、重役共も申聞候所、歎願之次第無余
(儀方)
□殊ニ候得共、其方共兼而相心得居候通り医学校所ニおひ
て配薬取行居候事ニ而、依而ハ願立之趣不及吟味事ニ候得
共、歎願之趣も突に歎敷事ニ有之、格別之御吟味を以嘉永
七年已前之通り、越中売業売子之者共、御困入配御免被成
(藥脱方)
下候、医学校所配薬取行江ハ指障りニ不相成様、配薬可致
旨重役共申聞候間、其旨可相心得重三郎様申付候事

但、医学校所江役金相納之義始、諸事嘉永七年已前之
通り相心得可申候事

右之通如願被仰候ニ付、御礼廻り左之通罷出候事

御家老 芝角対馬様

医学校
所学頭

原 甚 京様

出入司 油田重三郎様

兩替所本
質御役人

林 源五郎様

考 役 困分武治様

以上

為冥加之献金仕度内願申上候書左ニ

乍恐口上書ヲ以奉申上候

私共九十六人売業御免被成下度候義、別紙ヲ以奉願上候処

□□如願御高免被成下候御下知之上ハ、為冥加之金

□□仕度奉存候、御役金之義も如先年之相納□□

之御慈悲を以、如斯被成下度奉願候、右金□□之上、

越中迄往覆之間、日数三十日も御□□無相違上納仕候

間、御時節柄御用多も□□段御取次被成下度、奉願上

候、以上

嘉兵衛 印

清 八 印

□ □ 五月廿二日

法運寺様

仁八郎 印

油田重三郎殿

法 運 寺

(竹橋家文書・富山市役所蔵)

七 安政五年十二月 高岡町会所発行の売薬行商

鑑札

(表)
高岡坂下町 京田屋
仙臺行売薬商心人 善助
出脚心人

(裏)
安政五年 (印文「高」)
高岡町
午十二月
所

(内藤記念くすり博物館蔵)

三 万延元年十二月 売薬仕法紛争一件

乍恐再書付を以御願申上候

私義取持仕候武蔵国廻り旅名俵屋甚蔵鶴寿軒与申売薬帳面、
 年分両度廻り四百貫文上り高、殿村津幡江村紋兵衛江去ル
 巳ノ年より戌年迄五ヶ年之間檢行ニ相定、礼金之義ハ巳年
 九両壹歩、翌午年より拾四兩宛ニ取極、請人同村九左衛門
 九郎兵衛兩人相立、証文取受、帳面引渡置候廻紋兵衛義余
 人江又卸仕礼金指越不申、初年分午年より十ヶ年賦ニ仕、
 都合五拾壹兩壹歩外ニ利足も可相立筈、其外取替金午ノ年
 彼国江引合ニ指遣候雜用共彼是六拾兩余少しも指越不申義
 ニ付、度々引合候義等当三月委細書付を以御断申上置候通
 紋三郎義今井村小十郎等代人ニ替候義者私おゐて可及貪着
 筋無御座、右ハ如何相成候哉彼組御裁許作道村甚兵衛殿ニ
 おゐて和順方申談之趣も御座候得共、私手前ニ而ハ数十冊
 之帳面録右様之次第ニ而者外々江指障り、和順難相成趣申
 達置候、其後数月何等之被仰渡も無御座、最早当年余日無
 御座迷惑仕候、紋兵衛義ハ佐渡国行売薬帳面も取持罷在遣
 成者、及請人ニ相立候同村九左衛門、九郎兵衛兩人ハ則紋
 兵衛一類ニ而過分之高禄所持いたし居、右檢行取極之義ハ
 当人故障出来候共請人より弁し方可仕定ハ私ニも不限、外

々定合も有之、尤礼金ハ帳面之代金利廻を以相定候義ハ九左衛門等ニも檢行之帳面所持有之能承知之筈、然所紋兵衛(校方)与一議仕私帳面禄踏潰可申休ニも相聞心外之仕合当三月私より上置候断書付之内右帳面元代金ニ而紋兵衛引受可申歟礼金全ク指引ニ可及歟之旨等申上置候得共○此議ハ不相当、○段々以心寛仕候所今井村小十郎等下請ニ而罷越義ハ私江少しも不抱義(拘方)与今更心付申候間、何れ最前御断書付御取用ヒ被申間敷前段申上候通り九左衛門等造成人々請合を以引渡置候得者請判之趣○討合証文之表を以御殿官御差義被成下、早速介銀濟方被仰付被下様意不相立而者会得難相成義御座候間○乍御難題此段御郡御奉行所江宜被為仰遣、早速濟方仕候様被仰渡被下候様奉願上候、以上

万延元年十二月

福岡屋清右衛門

高岡町御会所

(内藤記念くすり博物館蔵)

宣 文久元年二月 葉種屋株議請方願書

私儀井林屋清右衛門所持の葉種株譲り請、葉種商売仕度奉存候間、御閑屈被成下候様奉願上候、尤禁察吟味は不及中紛敷業種取扱不申様御縮方被為仰渡通、敢重相心得可申候間、此段各々様より宜敷被仰上被下候様奉願上候 以上

万延二年西二月

葉種屋肝煎

源三郎殿

右武兵衛義、井林屋清右衛門葉種株譲り請、葉種屋商売仕度義、私共納得仕候に付添書連印仕中候、以上

葉種屋仲間

- 津島屋 小八郎 印
- 旗屋 藤右衛門 印
- 井波屋 太助 印
- 蓮花寺屋 理左衛門 印
- 榎田屋 喜兵衛 印
- 戸出原 藤八 印
- 福岡屋 清右衛門 印

右書付出申候に付、御達申上候、以上

藥種屋肝煎
源 三郎 ㊦

〔富山売薬業史史料集〕

高岡町

御会所

(裏書)
一表書讓請願義、御達申上承届候、以上

藥種屋肝煎 ㊦

(高岡薬業史稿・内藤記念くすり博物館蔵)

㊦ 文久三年五月 小倉藩売薬免許証書

証 書

此度其元江回来之通御領中売薬格別之御詮議を以永々免
許被仰出候付、薬品調合粗略無之様肝要之事ニ候、依之一
札差遣之候者也、

小 倉

御町方

文久三亥年五月廿三日

役 所 ㊦

越中富山

藥種屋權七殿

㊦ 元治元年四月 檢校売薬取替し証文

預ケ申反魂丹懸帳(檢カ)檢校為取替証文之事

私所持場所播州作州ノ式ケ国名前連人ノ式人相添、去ル
亥年取揚高薬有目置立決算を以、五百六拾六ノ百六十八
文之帳面一冊、又五百三拾九ノ八百七十二文之帳面一冊、
メ千百六ノ四十一文但し百貫文取揚ニ付、五兩ニ相極都
合五十五兩式歩(檢カ)ノ二百九十八文、右檢校金歸国次第請取
可申極合を以、当子年ノ向辰年迄五ケ年之間、貴殿江檢
校ニ預ケ申所実正ニ御座候、然上者尚又極合等之儀者左
ニ記ス

御公儀様御法度并仲問示談定法御守可被成候事

御役金之儀者私方ニ而上納致、箱先入用ハ貴殿方ニ而
差出し可被成候事

一 為枕金五拾五兩式歩之數、三拾兩を正金ニ而唯今請取、
残廿五兩式歩者奥井屋太七郎殿之老兩宛之通用金手形、

通 流 三

都合廿六枚取請申候、但し正金三拾兩を月老歩之加利足

ニ而、(後校カ) 儉授金取請候御、右利足を立用可致事

一 当年引渡申帳面取揚高年限相済、返帳被致候御、働出

目ニ相成候得者新懸古懸込而六歩は帳面ニ被相添、四歩

者貴殿江相渡し、其節素切相場ヲ以買入可申候、尤代金

之儀者其節半高相渡し、残り半高者私方ニ而場所一時相

改候上、間違等無御座候ハ、翌年三月三日切ニ、一ヶ月

ニ老歩之利足付ニ而相渡し可申候、且又其節右帳面取揚

高カ取落ニ相成候ハ、是又其時之相場ヲ以、弁金可被

成約定ニ御座候事、凶作不商江難船又者病氣病死等御座

候共、難題ケ間敷儀承り不申候事

付たり、旅先ニおゐて仲間一統カ相拘り候不時入用

者私方ニ而差出可申候事

旅先ニおゐて、不法不働又悪敷風聞等御座候ハ、年限

ニ不拘帳面引取可申約定、其節異論被申間敷之事

得意軒数之儀者帳面之通預ケ置申候

場所廻り口之儀者、不順ニ相成不申様御心得可被成候事

薬引高之品相減し不申、行々相用不申薬品は別薬置等、

懸高相落不申様可被成候事

一 帳面之儀者帰国被成次第取請、新帳江享替相渡し可申

事

一 仕入向之儀者、粗薬御用不被成、諸事入念ニ御心得可

被成事

一 旅先残り代出物、年限中預ケ置、終年ニ双方立用可致

事

一 風呂敷大小柳合利式組、諸道具并判木有合、年限中貸

渡置、終年ニ返済可被成事

右之通極合を以、当子年カ向辰年迄五ヶ年之間、貴殿江檢

校ニ預ケ申所相違無御座候、為後日之為取替証文如件

元治元年子四月

稻荷屋 弥兵衛殿

前言之通、私共仲人ニ相当、致極合候所相違無御座候、

若年限中ニ異論之儀御座候ハ、私共引受相參可申候、

為其印形仕候、已上

小杉屋

久兵衛 ④

侍人 茶水屋

調兵衛 ㊦

燻燭屋

半三郎 ㊦

(関野家文書・富山市立郷土博物館蔵)

庚 元治元年十月 越中・能登薬種商売株書上

今石動 町年寄

肝煎

薬種商売人

平野屋 新右衛門
 北村屋 与右衛門
 五社原 次郎兵衛
 平野屋 新右衛門
 五社原 次郎兵衛
 河内屋 八郎兵衛

座候得共、少々之事故不足ニ付、河北郡田中村与三右衛門
 与申者時々持参仕候ニ付、彼者ヲ買受可申旨次郎兵衛中聞
 候、土洗人与申者以前ハ御座候得共、当時左様名目之者無
 御座候事

同所 合薬商売人

但香具屋也

井筒屋

吉郎右衛門

山目屋

小兵衛

右御縮ハ株立ニ而も無御座、望人有之候節ハ願上御聞届次
 第商売相始候様中聞候、山田屋小兵衛義、当時願上いまた
 御聞届之義ハ無御座者之由ニ御座候
 薬種商売人合薬商売人同様ニ商売仕米候ニ付、是迄分別も
 無之縮之義も無御座候ニ付、今度御城下同様之御縮ニ相成
 候様願度旨、次郎兵衛等申聞候
 (藥力)
 同所 御困廻り売役商売人

中村屋

与右衛門

江尻屋

文次郎

岡屋

伊三右衛門

高木屋

利兵衛

平野屋

新右衛門

桜川屋

伊右衛門

通

流

三

右商売前々々五株ニ御座候処、当時平野屋新右衛門方ニ
 株持罷在、残り壹株ハ城端江讓遣シ候様新右衛門等申聞、
 且今般御国産物ニ相成候得ハ、兼而之念願ニ御座候由、就
 而ハ是迄道林寺村并ニ殖生村及近辺之村々ハ出申薬種、半
 夏・茯苓・桔梗・白朮、是等之品々掘立持参仕候者問々御

福町村 薬種商売人

江煎 徳 平

尾山屋 傳 兵衛

中村屋 喜 平次

鉛屋 藤 三郎

宮山原 惣 兵衛

新屋 与一 右衛門

右八人前々々株立ニ而相定り居候様申聞候、商売方不縮ニ付、今度御城下同様之御締ニ相成候様願度段申聞候、近辺出産薬種今石動同様ニ而、不足之分ハ河北郡出中村与三右衛門ノ買請可中段申聞候、同所合薬商売人追而相調理可申段申聞候

右商売相届候者願上、御聞届次第相始候ニ付、軒数定り不申段申聞候

大門 薬種商売人

中村屋 小右衛門

同所 薬種商売人

橋下条村

定塚屋 七郎右衛門

肝煎当番

右ヶ所土洗人 与中者無御座段申聞候

高岡 薬種商売人

水戸田村

榎田屋 喜 兵衛

同断

榎屋 半 兵衛

青井谷村

津嶋屋 藤右衛門

右ヶ所薬種掘取候者四五人御座候、小杉等江指遣候様申聞候

井波屋 小 八郎

候

戸出屋 太 助

浄土寺村

蓮花寺 藤 八

右同断

岩室屋 理左衛門

小杉 薬種商売人

千井屋 小 兵衛

新兵衛

佐賀野屋 蔵

右式人相定め居申段申聞候、商売相始度節誓詞仕候段申聞候、外ニ御縮無御座候由ニ御座候、佐賀野屋田蔵申者土洗仕候ニ付、青井谷村・浄土寺村等其外近辺ノ出候品等引請、土洗仕候旨申聞候

放生津 薬種商売人

横屋

仁兵衛

野村屋

喜兵衛

松原

半六

ノ

右商売相届候者有之候節、願上御聞届次第相始候間、軒数定り不申、且御縮之義無御座段申聞候、土洗人無御座段申聞候

伏木

右ヶ所当月四日ニ参候処、前三日夜出火ニ付、大混雑中夫々調理等仕兼申候

通

太田村 土洗掘子之者先式拾人斗相混シ

流 右ヶ所当年ノ薬草掘札御支配頭ノ御渡ニ付、外村等江罷越

三 掘取罷在候、外村ノ薬草掘ニ当村江罷越候節ハ、見咎可申

旨且外々ニ而も無札之者見懸次第咎申旨、就而ハ是迄少々

宛掘取候薬種、他国等江勝手ニ売捌罷在候処、今度御仕法御座候而ハ、兎角手狭ニ相成困り入候得共、被仰渡之義ニ御座候事故、御請仕候段申聞候

嶋村 土洗掘子之者相混シ

庄左衛門 兵次郎 惣五郎等式拾人斗

右ヶ所当年ノ薬草掘札相渡り候段等、太田村同断

出産薬種

半夏 桔梗 白朮 和大黄 黄蓮

木通 茯苓 川骨 砂参 羌活 車前子

忍冬 山(漆カ) 芳根

是等之品是迄掘取申候段申聞候

氷見 町年寄

肝煎 久左衛門

薬種商売人 德左衛門

黒谷屋 久左衛門

加納屋 七右衛門

田中屋 紋 吉

田中屋

安兵衛

田中屋

権右衛門

五株

右前々々株立ニ御座候旨、商売株讓替之節誓詞仕候旨、外

ニ縮之義無御座ニ付、今度御城下御縮通被仰渡候様奉願上

段中間候、且田中屋権右衛門義貸株仕、田中屋義兵衛借請

當時商売致居候旨中間候、加納屋七右衛門・田中屋紋吉申

聞ハ、是迄当所素人之者共半夏等買込、他國等江出シ候者

多御座候由、且嶋村・太田村等出産之粟種等当所藥店江指

出方少も無御座、右村所々出候品々、阿尾村の舟積を以他

國等江売遣申候由、是ハ富山・越前・江州・大坂等々欠錢

請右様仕候ニ付、阿尾村ニおいても右同服之者御座候由彼

者江談シ合舟積致指遣申ニ付、御口錢問改等相渡居候由、

是迄風聴承り居候段中間候、今度御國産物ニ相成、御縮り

等嚴重相成候得者、格別難有忝段申聞候

嶋村・太田村等々出産之品々余程多分ニ御座候由申聞候

同所 香具屋

宝蓮屋

与左衛門

谷間屋

善五郎

高麗屋

次郎左衛門

ノ

右商売相居候者有之候節、願上御聞届次第相始メ候ニ付、

粟種屋・香具屋等分別分り兼、誠ニ以不縮之段申聞候

阿尾村

右ヶ所上洗人名目之者無御座、掘取候者四五人御座候旨申

聞候、同所の菅丁斗海際山之腰ニ古城跡之巖窪有之内ニ、

氷柱様之もの有之候由ニ候得共、是迄穴入いたし儘ニ見届

候ものも無之杯、氷見ニ而承り候ニ付、則尋行候所、岩穴

入口岩尺五寸斗内三尺計ニ而、縄ニすかり三四間斗下り候

処、平地之様ニ御座候ニ付、蠟燭ニ而相照候処、内々広サ

凡拾七八間四面も御座候哉、天井高サ不同、所々崩出候様

之所御座候、其内鐘乳石氷柱之如ク生下り一面ニ御座候ニ

付、則見本取來候問奉指上候

但 鐘乳石之義ハ元來渡唐之薬品ニ而、品ニ寄上中下甲

乙御座候、直段之義ハ渡り高ニ寄時々高下御座候事

柳田村

右土洗人名目之者無御座候得共、粟種掘取候者御座候処、

当年の嶋村・太田村迄之者共掘札持参いたし罷在、当村等

江参り無札之者見答申ニ付、藁種掘兼甚困入候ニ付、今度

掘札願上度与存居候所ニ而、御産物御仕法ニ相成候へハ忝

段中聞候

是迄藁掘無御座候段中聞候

姿村

同断

中波村

守山村

同断

脇村

右ヶ所藁掘取候者兩三人御座候由、柳田村同断、二上山養

小牧村

候

柳田村同断

能州口郡

藪田村

藁種商売人

同断

子浦村

深江屋善兵衛

小塚村(寛方)

同断

当三軒ニ御座候得共望人有之節願上御蘭届次第商売相始候

小窪

御大工三拾間斗罷在、出稼致候者之由

ニ御座候

土洗人

市右衛門等七人

宇波村

是迄御縮之義相守罷在中候処以後株藁方御送師様御教へ被

小塚村同断(寛方)

下候ハ、尚以難有奉存候旨申聞候

大塚村(寛方)

飯ノ山村

藁種株持

徳左衛門

三 流 通

当時商売不仕候

黄院主申聞候

土洗人

理

八

所口

薬種商売人

塩屋清五郎

芳香具屋株持

三野与左衛門

右土洗人子浦村同断

花木屋理右衛門

菅原村

薬種商売人

庄左衛門

望人願上御聞届次第商売相始メ候付軒数定り不申旨申聞候

御預所広瀬村 薬種商売人

团山屋吉蔵

右ケ所薬種商売前々株立ニ相定り申候外ニ御縮も無御座
何分当時右三人共遠行いたし留主中之事ニ御座候間帰国之
上返答ニ□□存段三野与左衛門手代中聞候

金丸村

土洗人

重次郎

子浦村忠兵衛

右飯山村同断

能登郡村

土洗人

与

八

同断

二ノ宮村

是迄土洗人無御座候

御産物方御役所

吉村屋佐兵衛

石動山天平寺 五拾ヶ寺余有之由

金沢御国産薬種縮役柄崎屋太左衛門等、別冊薬種調理書御

右与八□他国等江籠越留主中之方ニも有之追而一統示談之

上返答可及併薬草之義ハ人命之助ニも相成候品故山稼為致

渡ニ付、写為御承知相廻申候間、先々早々御廻達御披見後

候而も不指支義与存候得共何分右之仕合故取斗兼申候段心

子十月廿三日

石崎市右衛門

御国産薬種縮役

柄崎屋太左衛門

同

諸郡産物方
主付中様

南 善左衛門

(産物方諸事留・金沢市立図書館蔵)

大 慶応元年三月 檢校売葉仕入引請証文

反魂丹場所仕入引請証文之事

宅 慶応元年一月 売葉版面摺値段定覚書

覚

正月が九月迄 月ニ三日算用

十月が十二月迄 大年半高二月三日半高

但シ式百兩余年分見凶高

右摺り上り絵之義は正金を以極合之通り御算用可

申候以上

一 苞歩ニ付七百枚 定直段

但シ四拾枚増最右直段ニ准シ可中事

元治二丑年正月

柳 町 松原善次郎

古鍛冶町 栗山屋清兵衛

西 町 八百屋松之助

三 流 通

(『いまさら』)

一 貴殿御所持播州場所去ル子年檢校揚ニ而、当年為相改

与私江御任被下候ニ付、極合左之通

一 五百六拾八貫九百文 取揚決算惣ノ高

一 四拾三両 去ル子年金相場ならし百日斗其

見積リニ而持参立

内六歩 御益仕入諸雜用給金与悉皆、

殘拾七両式歩 利潤差上可中極合

一 二拾兩者 仕入買物料申請、此分者送り金

ニ而早速入込可中事

内拾兩者 只今請取申候

又拾兩者 五月三日ニ請取可中事

殘 五両式歩者 暮歸国之節、請取候事

右之通極合ニ御座候、然上者当年者檢校揚帳面之事故格

別ニ入念ニ取調理相廻り可中候、彼地金相場之義者、近

年高下御座候与いへ共、昨年者格別ニ高下ニ而其見積ニ

而、先書之通算立仕候得共、当年之処金相場少しニ而茂
下落ニ相成候ハ、不拘極書ニ成丈持參相増差上可申候、
猶又仲間之見聞茂御座候間、左様思召可被下候、依而為
後日之入置申証文如件

元治二乙丑年三月

木人

清水屋

治三郎 ㊦

粹

伊兵衛

請人

堀岡屋

嘉助 ㊦

關屋

長蔵殿

類家衆中

(関野家文書・宮山市立郷土博物館蔵)

克 慶心二年三月 檢校売薬請合証文

旅方仕入引受場所請合証文之事

一 貴殿御場所石州銀山御領相廻り申候傳二郎与中者、出

生髓成者ニ付私請合ニ相立申所突止御座候、然上者昨丑

年七百六拾貫六百文斗之帳面を以、七拾三両老朱持參上

納仕候所、此度御得勝手ニ付傳二郎引請ニ相成申所実正

御座候、仍而当年ノ上納金之義者三十三両ニ御極被下、

仕入金之義者四拾兩老步一朱ニ相極、無利足ニ而三ケ度

ニ御渡し被下候極合、都合七拾三兩老步一朱、来春正月

切迄ニ急度皆上納可仕候、乍併追々操上ケ式三年之中ニ

者極月切ニ帰国仕、成りたけ早く上納仕度奉存候、送り

金仕候時者髓成人へ相送り可申候、此後如何様とも御指

図之為替ニ而も御座候ハ、其方へ取組可申候、右之通り

御極被下候得とも、此上者私実意を以抜丹精年々余分ニ

上納仕度奉存候、尚々商業相働、入念ニ御帳面等相記し

可申候、

一 仕入之義者薬紙其外品々一切吟味可仕極合御座候、

一 引受申候御場所、入念相廻り可申候、

一 帳面之儀者罷帰次第一先指上可申候、年々写替指上可

申候事、

一 御当地御役銀・箱先雜用等、貴殿ニ而御勤被下候極メ、

旅先懸銀も御座候ハ、私ハ相勤可申候極メ、

一 旅先諸道具・井柳籠・風ろ敷大小式、其他品々別紙之

通り御預り置申候、尤損じ物私方ニ而相直し可申候事、

一 万一行跡ニ而金子上納之義相違仕、不納仕候時者何

程ニ而も当人ニ不相拘、私ハ相弁返上可仕候極合、

一 商業全相勤させ可申候、若旅先ニ而病氣相滞候ハ、

私ハ迎立連寄、少も御難題相懸申問敷候、万一病死仕候

共聊彼是申上問敷候事、

一 貴殿御場所相廻り不申候時者、当人者勿論親類縁者た

り共、余商等ニも御場所先へ為入込申問敷候、後ニ至り

外主人取仕候共、回困之奉公為致申問敷候、其上欠落・

持逃仕候ハ、其品承り届急度相揃相済可申候事、

一 宗門之儀者代々浄土真宗ニ而、寺ハ中田村善光寺門徒

ニ紛無御座候事、御法度之宗門ニ而者無御座候、

右之条々急度相守り可申候、尤請合之儀者此証文取返し不

申候時者、何事ニ不寄万端引受可申候、為後日請合証文指

上申所如件

三

慶応二年寅三月

請人 寺島屋喜兵衛 ㊦

本人 古川屋傳次郎 ㊦

室屋弥三兵衛殿

〔富山売薬業史史料集〕

〇 慶応二年六月 売薬方作法帳

定

一 前々御法度之趣嚴重相守可申候売薬罷越候国々之御作

法相背申問敷尤御国之取沙汰堅致問敷候事

一 御郡方より他国へ出候売薬株式百八株之取極ニ而御役

銀一株より拾五匁宛安政二年以来毎歳十一月散小物成方

へ致上納売子出脚之義ハ九百三拾七人ニ而御役銀老人に

付拾五匁宛毎歳三月産物方へ上納致候

尤出脚増方等も有之節ハ夫々相伺御聞届之上脚札可相渡

候間不縮之義無之様相心得可申事

一 旅立定日取極御過書願出候義勿論旅先ニおゐて病氣等

ニ而致逗留限月通り難罷帰節ハ其段中越口延願上可申事

一 新懸いたし候節御郡方之者前々より薬置求候旨申聞候

而も棗之品置替強而指預候者も有之哉ニ候得共右様之義堅ク不相成若先方好の品有之候共前々より置来候者より相求候様ニ可申入候 若シ押而指置候様之義於有之ハ売薬方御指留等ニも可被仰付候間親方分ハ不及申売子共ニおゐても急度相心得可申事

一 薬置合候之義ハ不相成趣前々敲重被仰渡置候所今更心得違之者有之強而致置合薬直段引下ケ御得意先与馴合候様之義等有之哉ニ相聞江候 向後右等之義決而致問數万一致心得違重置等於有之ハ御詮義之上足留等可被仰付候条急度相心得可申事

一 場所先におゐて売薬仲間煩出候節ハ相尋深切ニ介抱可致候 若煩出候義仲間存知不申候ハバ其段中遣代々介抱可致候事 付リ 仲間病死いたし候ハバ其所之難題ニ不相成様仲間相談之上可然様取斗可申事

一 旅先ニおゐて代人相雇得意先為相廻候義決而致問敷若相煩候敷又者不時成故障等有之難廻候節ハ仲間之中ニ而相尋助合可申事

一 旅先におゐて博奕賭之諸勝負ケ問敷義一切致問敷候若

心得違之者見聞仕候ハバ相互ニ意見を加御縮方急度相守可申事 付リ 旅先ニおゐて無益之日間入年若之仲間をだまし金銭を為費候様之義聊も無之様互ニ心付可致尤旅先ニおゐて引負等出来不申様致吟味衣食并付合等質素ニ相心得身分不取失様心得可申事

一 売子共之内年月を重自分稼仕度と申者ハ成立候様致世話可申候売子供仕馴候商売ニ付売薬場所買入可申義ハ不指支義ニ候得共先々親方持場所江ハ余商売たり共立入申義ハ不相成候事

一 売子召置候節吟味人等へ相届取極可申候 若売子引負等致候得ハ請人より相弁可申候 且又奉公中余人同職之売子ニ罷出候義ハ密ニ取極表向ハ改作方手支の様了と申立主人へ暇をとり重テ奉公願者も有之由相聞候向後右様之義堅不相成以後売子ニ召置候節奉公証文ニ開作方問ニ合不申趣書加置尤所方役人輿書を取請召仕可申事

付リ 主人替之節先主人へ指障も無之哉問合故障有之者ハ召仕申問敷候事

一 富山並他郡等へ売子奉公ニ罷越候義堅不相成若左様者

有之候ハハ見聞次第断出可中事

一 売薬場所譲替之義は上縮聞届之証文裏書を請可中事

付リ 譲替聞届証文裏書之義ハ向後三月、六月、九月

与三度願出可中事

一 売薬株等は迄売薬仕入金借用並用立講引当等ニ致し来

候ニ付種々申分出来御縮方ニも指障候 向後右趣書入引

当等可停止旨被仰渡候条若及申分引当等之義断出候ハハ

株御取揚品ニ寄取替人ノ代銀も被取揚候条急度相心得可

中事

一 売薬場所売払度申候節年番へ及示談所方並向寄リへ成

限リ売出可申筈に候右様示談方無之讓請いたし候義ハ決

而致問敷候事

付リ 切出場所譲替之節村数筋境ニ紛敷義無之様篤と

取極置可中若心得違いたし自分持場所ニ而無之向へ立

入新懸いたし候者ハ新懸帳面御取揚ニ可被仰付候事

一 売子心得違帳面之内抜取隠帳面所持いたし居向寄リ余

人へ売渡候様之義堅不相成尤買請候義も不相成候且又売

子共余リ薬同職等江旅先ニ而隠売致者も有之哉ニ相聞候

不埒之義ニ候条心得違不致様嚴重可中談候事

一 旅先ニ而薬不足いたし候節彼表ニ而丸薬等出来いたし

候義不相成候不足品ハ因許江申遣取寄可中事

一 旅先定宿之義自儘に宿替仕候者有之宿主ノ故障中出面

倒之義も有之候間無謂宿替いたし申問敷候事

一 売薬場所他郡並他支配へ売遣候義不相成極合之義每度

被仰渡置候通に候条急度相心得可中事

一 売薬株持人之内其ヶ所所々ニ而毎歳兩人宛年番相定置

上納銀取集メ方等定成之品々ハ年番ニ而相勤可中事

一 売子へ年限相極帳面引請場所廻リ仕候分ハ決算見届を

請置可申年限相濟候節者過不足之義証文通リ決算いたし

可申候見届人見届置不申分故障出来候共詮義ニおよびか

たく候事

場所先組合之覚

一 美作 備前 備中 備後 安芸 周防 長門 因幡

伯耆 出雲 石見 隠岐 老組

一 播磨 畿内五ヶ国 紀伊 丹後 丹波 但馬 老組

一 四国 九州 淡路 老組

通

流

三

期

一 若狭 近江 越前 伊賀 伊勢 美濃 飛騨 宍組

末

一 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐 伊豆 式組

I 幕

一 越後 出羽 佐渡 陸奥 信濃 式組

一 相模 武藏 安房 上総 下総 常陸 上野 下野

宍組

一 御國廻り 式組

右組分之通り諸事向寄を以示談可致候尤宍組之内ニ而

も持場所無之國へ立入新懸等致問敷候事

一 每春壳葉御縮方中渡請書印形見届可申候 若壳子不法

之筋等有之親方目前におゐて中談候趣聞入可申義等有之

候ハ、可及斷候事

一 壳葉方之義株讓替並壳子召置方を始諸事壳葉吟味人ニ

而致縮方可申候今度詮義之上壳葉勢子人被指止是迄右勢

子人相勤居候人之義見届人に被仰付候事

一 御國廻壳葉御役銀之義は安政二年脚役銀御指止壳葉人

宍軒ニ付八匁五分宛御取立ニ相成候処宍軒分上納ニ而三

四人も壳子罷出候者も有之、調理方紛敷候ニ付今度嘉永

度之振合を以出脚卷人ニ付八匁五分宛每歲十一月上納之

義ニ被仰付候条向後前段之通相心得可申候去丑年右出脚

式百拾四人に而其内散小物成方と御郡所与上納二様に相

成居候得共当年々都而散小物成江上可致候事

一 御國廻壳葉之義ハ他國株所持不致者は堅く不相成候

尤出脚増方願之義ハ其時々願出御蘭届を請可申事

一 壳葉方之義過書願方上候是迄其前方支配肝煎方之手を

経其余惣而不相抱候得共株讓替等之義支配方肝煎存知不

申而ハ不都合之義ニ付向後株讓替証文與書ニ所方肝煎致

加印可申候事

一 壳葉株讓替証文是迄区々相成居候間以後別紙案文之通

リ一様ニ相調可申候且壳子召置候証文茂右同様相調可申

事

右壳葉方作法文改度等取極有之候得共今度猶遂詮義候趣御

伺之上前条之通取極候条敲重相守可申若相背候者於有之者

曲事ニ可被仰付候事

慶応二年庚六月

神 保助 三郎

伊 東彦 四郎

岩 城 七郎兵衛

岩 城 平右衛門

天正寺村 十次郎

生地村 前 名

沼保村 次郎左衛門

西水橋 半七郎

〔中田町誌〕

一 近年類薬数多出来、仲ヶ間にて類薬・表判・目印等其

儘返し調り致し甚紛敷相成誠に困入申候、自分門名たり

とも文字筆法替不紛候事、

一 合薬渡世商売とは中ながら、人間病苦を救ひ一服一粒

にて其苦患を遁れ候程の品に候得者、大切に修合可致事、

一 得意先にて世利売、下売、虚言、悪口中触し候族も有

之旁々承り、向後相慎み、若し心得違にて得意先に左様

の儀儘成証摺捕はゞ、仲ヶ間参会の節一同より其廉屹度

取締可致、其節の諸入用は其人より出銀可致事、

一 都而是迄先より差入居候得意先に、跡より参り同名の

薬は勿論何の名印の薬たりとも、卸並より値下げに致し

薬売込候儀は決して致問敷候、若し心得違の方御座候はゞ

取締の節諸入用は前同断の取計方に可致事、

一 諸因得意先に而互に置合せに相成候時は、他の薬を誘

り自分の薬を高めんといたし候儀決而不相成、互に差支

無之様可致事、

一 仲間内召使の奉公人先主に不奉公いたし、又は得意先

にて不実の働きたし、主人に厭れ暇差出し候もの、外

八一 慶応二年七月 仲間取締議定書印帳

一 合薬渡世の儀は、元来先師の遺方家伝の本方を以て薬料を定め売弘め来り候処、年々薬種并に紙類殊の外高値に相成、其上米価高値に付而之荷物運送料共莫大に相嵩

み前代未聞の時節柄、所詮渡世相統も出来がたく、依て

一回評定の上、是までの売値段より諸薬都て三割上約定

に取極め、薬味撰扱上品入念調合可致事、

一 従米御公儀様より仰出候不正薬種・毒薬等決而取扱中

三 流通 問敷候事、

一方に召遣ひ呉れ候様直に参り、又者仲人を以て頼に参り候族者、先主に懸合、速かに差支無之趣相答候は、勝手に召遣候事、

一 仲間召遣の奉公人給銀の儀は一ケ年に、

上奉公人 銀五百匁

中奉公人 銀三百五十匁

下奉公人 銀二百匁

右之通り相定め候事、

一 仲ヶ問置合先にて、他の薬売切明袋に相成有之、其袋引上げ、自分の名前の薬と入替候様も有之、左様の儀は決て致問敷候事、

一 旅中に於て、酒亭遊興に耽り^(マ)実博杯に携候もの見聞及候はゞ、急度意見を加へ、不用に於いては帳面・荷物取揚、国元に申遣べく候事、

一 旅宿において頓死・頓病・長煩・其他如何様の儀出来候とも、近辺見聞次第早速馳付、成丈け世話相互に可致事、

一 定宿の儀は申合せ、其所に同宿可致事、至而都合不宜

候へば勝手に可致事、成丈一宿に泊り候へば、廻り人より始末行届申候様可致事、

一 右仲ヶ問取締候上は、一ケ年一度づゝ差支無之様参会

可致、其節不参の御方は参会諸入用一統割懸け可申候、

右個条の趣一致承諾候上は、相互に正路に渡世可致事、若

し仲ヶ問の内他困へ出、心得違を以て前条一ケ条にても約

定取崩もの有之候はゞ、仲ヶ問内より取締所へ差遣し急度

取締可申候、右に付諸入用の儀は不法人より急度弁銀可仕

筈、為後日仲ヶ問一統取締議定書連印仍て如件

慶応二年庚七月二十九日

米 田 丈 助
外七十一名

越中国富山総代

松 浦 清 助

東 谷 安次郎

安 田 惣 七

加賀領総代

高 田 甚 吉

松 井 榮 吉

八三 (慶応二年) 明治三年) 壳薬値段協定一札

取為替中一札之事

一 此度仕入向薬種諸色高直ニ相成候処、互ニ迷惑仕候間、右ニ付壳薬直段直揚仕度義ニ付、富山・高岡・新川六ヶ所等示談仕度、双方納得之上直揚治定ニ相成、直揚書付取為替熟談仕、是已後ハ何事ニ不限御相談可申約定ニ御座候、然上者親方ハ不及申連人ニ等茂、下壳割下ケ堅不相成可申極合ニ御座候、且又前々々預ケ薬有之ヶ所ニ新懸ニ入込、置合致剩直下ケ現銀壳杯、或ハ得意ニ五懸ニ而馴合為吞込、其上無銘之袋ニ薬ヲ入預ケ置、至而安壳ニ致候もの有之候ニおゐてハ、一統之差障ニ相成、互ニ点檢合セ、右休之もの密ニ名前相糺、嚴重及穿繫、早速指替足留可致約定ニ御座候、依而為後日取為替一札如件

三 流 通

砺波郡 射水郡 婦負郡 新川郡
水橋中町 中野屋安右衛門

一 紫肉丸 五匁
一 龍のふ丸 同

八三 (年不詳) 壳薬品注文覚

覚

同天神町 尾嶋屋孫右衛門 孫四郎事
同天神町 石黒屋久右衛門 勘助事
東岩瀬 米出屋清吉
高 岡 和泉屋善兵衛
同 同 長右衛門
同 津幡 佐助
高 岡 たなたや伊助
小 杉 竹内屋藤右衛門
小 杉 本郷屋源兵衛
〔富山壳薬業史史料集〕

室原 吉衛門

一期 一 絵紙 色々取ませ三百枚

但売薬方

メ此品々御難題なから宜敷御願中上候

右之通り直段御働キ被下急々御送り可成為御願中上候早々

右之者、越後蒲原郡寺泊在、地藏堂在、与板町在、三島郡寺泊在、地上郡長岡在、三条辺迄薬場所御座候ニ付、其身相廻り申候

六月十八日

平野屋新右衛門店

館屋 長次郎

宮島屋定次郎様御店中様

右之者、越後頸城郡糸魚川辺今町在、高田在、刈羽郡柏崎辺迄薬場所御座候ニ付其身相廻り申候

.....

覚

魚射屋 仁兵衛

一 そめいさん 数式百

右之通り御薬御願中上候

右之者、越後頸城郡糸魚川辺高田在迄、薬場所御座候ニ付、売子式人次兵衛、亀次郎与申者信州江行懸ニ相廻り申候

西五月廿六日



眼目屋 庄八

幸助様

『いままさのへ』

右之者、越後頸城郡高田在、荒井在、関川在ニ薬場所御座候ニ付、売子若人三四郎与申者相廻り申候

上野原 平吉

公 (年不詳) 水橋売薬人旅先等書上

右之者、越後頸城郡青海在、糸魚川在、高田在迄薬場所御座候ニ付、其身相廻り申候

所方 控

川井屋 四郎三郎

右之者、越後頸城郡糸魚川辺の高田辺迄、薬場所御座候ニ付、売子志人傳四郎与申者相廻り申候

柳志屋
平右衛門

右之者、越後頸城郡今町在、刈羽郡柏崎在、古志郡長岡在、魚沼郡小千谷在ニ薬場所御座候ニ付、其身相廻り申候

梅沢屋
善次郎

右之者、越後蒲原郡出雲崎在、新潟在、柴田在等ニ薬場所御座候ニ付、夫々出羽米沢辺迄、行懸ニ売子志人傳助与申者相廻り申候

尾嶋屋
孫右衛門

右之者、越後蒲原郡新潟三条在、村松在、柴田在、岩船郡中条在、村上在等ニ売薬場所御座候ニ付、売子式人久兵衛、甚助与申者相廻り申候

日賣屋
久四郎

右之者、越後蒲原郡新潟在、柴田三条在、古志郡長岡在、魚沼郡小千谷在津丸辺迄薬場所御座候ニ付、売子志人長三郎与申者相廻り申候

市江屋
弥三右衛門

右之者、越後蒲原郡三条在、新潟在、柴田在、岩船郡村上在、薬場所御座候ニ付、売子志人安蔵与申者相廻り申候

石黒屋
権兵衛

右之者、越後頸城郡高田今町在、蒲原郡三条、新潟、柴田在、岩船郡村上在ニ薬場所御座候ニ付、売子式人傳四郎、弥助等申者相廻り申候

市江屋
次兵衛

右之者、越後蒲原郡三条在、新潟在、柴田在、岩船郡村上在等ニ薬場所御座候ニ付、其身相廻り申候

浦田屋
和兵衛

右之者、越前大野郡大野在、勝山在、福井在、府中辺迄薬場所御座候ニ付、其身ニ相廻り申候

狐塚屋
調蔵

右之者、越前金津辺、府中在、三国在、敦賀辺迄、売子四人、傳左衛門、俵兵衛、十助、平八等若州、中国筋迄薬場所御座候ニ付、行懸ニ相廻り申候

谷原
林蔵

右之者、飛州高山町在、美濃境迄、薬場所少々御座候ニ付

期 売子亭人又吉与申者、五畿内筋々案切所、戻り懸ニ相廻り
未 申候
当地紙屋佐兵衛船積送り状之事
荷主熊野屋宗助殿分

I 幕
(財団法人 水橋郷土史料館蔵)
令 老簡 合聚
此掛物

八五 (年不詳) 鵜浦兵吉船積送り状

鵜浦兵吉船積送状

⑤三箇合聚入 越中ト山 大坪屋九兵衛殿

式箇中荷

運賃丁センセメ七百文

右荷物積送申候条、着岸之砌御改受取、尤運賃御渡可被成
候、万一海上之儀ハ可為御法候、如件

寅三月廿六日

道正屋久兵衛 印

敦賀 越中屋宗右衛門殿

(内藤記念くすり博物館蔵)

八七 (年不詳) 旅先にて病氣のため帰国延期願

八六 (年不詳) 紙屋佐兵衛船積送り状

月延願分

覚

運賃老貫五百五拾文 御地ニ而御渡し可被下候

メ

右之通り積送申候条着岸之砌ニ御改請取可被下候万一海上
之儀ハ可為御法候依而送状之事

寅四月三日

竹松屋弥三兵衛 印

ツルカニ而

越中屋宗右衛門殿

(内藤記念くすり博物館蔵)

一 老人

滑川小泉屋太三郎養子
太 吉

右之者為売薬稼御過書等願請、去六月廿七日出立仕淡州須本迄罷越、当三月中罷婦可申処、彼地ニおゐて病氣相煩、迎も稼方相後申ニ付、当四月中彼地ニ居止り相稼申度旨、書状を以中越候段太三郎相願申候間、何卒当四月中迄月延御聞届被成下候様奉願上候、尤婦次第御案内可申上候、以上

三二月廿八日

滑川肝煎并

売薬吟味人

同 伝 藏 ㊦

九郎三郎 ㊦

売薬吟味人

同 貞次郎 ㊦

助右衛門 ㊦

(寺西家所藏文書)

四 經 營

六 享保二年一月 薬種屋中田家家訓

一 第一家業を精に入常々油断有之間敷候家督受取候時より少しに而も滅じ而者其身一分立不申事に候且又年々入方少つゝよけ有之候とて油断有ましく候火災其外不時之入用可有事に候へば其心得可有事

一 火之用心常々無油断家来共へも可申付事

一 親死去候跡必不仕合可有事と万事に慎可有之候若き時者勿論中年たり共代替りにはかし方等不埒出来申物に候間可有思慮事に候曾又家内之者にも私欲無之様に常々算用等念を入可申事右肝要に候

一 かし方之帳面質帳俵物帳見世かけ帳何茂常々くり返し度々見候而先々え催促可致候たとへ覺居候共度々披見いたし候には大きに徳有之候

一 指当たる用事万之事共覚書にいたし置毎朝夕見候而用
を弁じ可申候曾又正月より暮迄之覚書いたし置候間折々
取出し披見可有之事

一 常々奢かましき暮仲間數候年中入用多成不申様に常々
心懸可申事

一 たとへ仕合宜し共家来を増又は座敷など建常々花麗に
暮し而者若い共身一代無恙暮候共跡三代立中まじかくも
ふけがたくへりやすきは金銀に而候とかく定入用多く前
は入方まけ中候事に候間随分小勢に輕暮候様に可有思慮
事

一 年中之勘定正月中に委細に可仕候二月へ延申まじく候
不仕合之年者急に思慮いたし家来を減らす事簡略可仕候
来年者箇様に有間敷なと、不定成事を当にいたし常体に
暮候者存之外算用違可申候とかく不仕合之時者急に驚ぶ
りを替候事肝要に候

一 若不仕合之事有之候共只今迄いたしつけ候商売替申間
敷候此儀者京大坂に而商之道に名を得たる人中たる事に
候仕合能とて紺屋が蔵宿いたし又は酒屋か米商いたして

間もなくつぶれ申家共例多有之候

一 米商一切仕ましく候去共年により見込有之時五十石百
石迄は慥成切手買候事可有儀に候とく大かかり必無用に
候たとへ一年宜候共翌年あしきか畢竟損之方に成可申候

一 其道不存知商他人すゝめ候共一切仕ましく候

一 かり銀を以商手広仕間敷候とかく借銀に歩を出し候而
者何商に而もあい不申候

一 何事によらず請人に相立中ましく候事

一 米預り状たとへ当座之事に而も書候而人にかし申間敷
候箇様之事者兄弟たり共仕まじき事に候

一 火事の節取出し見申候覚事致置候而常々一応思慮候土
蔵へ道具を入候時入口に斗つみ置奥へは入不申物に候内
へ式人入居候而二かいより段々つめ候へは過分に入申事
に候まど戸まへこてに而能々ぬり可申候やけ通り早速立
寄戸を明く為に遠へのき中ましく候おそく戸明候へは内
より出候事有之候間早速より可申候事

一 火難にあい家普請仕候者見世は前におとり不申様に宜
建可申候内普請は随分小かまへに可仕候勿論座敷などは

五七ヶ年も建不申暮可中候末々に至仕合宜候共座敷広く
建候事必々仕間敷候家風おもく成に而者身代むつかしく
候何とそ軽暮候へは一分心安候

一 分限に不相応之衣服着用有間敷候別而ふだんは古き粗
衣着可申候此儀筆紙に難尽徳有之候

一 孫々に至候而も武家より妻をむかへ中間敷候勿論武家
より養子一切仕間敷候

一 何によらず芸に心を寄申ましく候無芸成事何人相応之
事に候芸に工夫候而者家業疎に成行候別而連歌俳諧など
すき入此道にのみ思慮をめぐらし身代つぶし候人何国に
ても例多有之候わけて茶湯などすき候事町人身代破滅之
左右に候併何芸にても少づゝ習置候へは間に合申事に候
すき入にて其道のミ工夫いたし我を忘候故身代つぶし申
事に候

一 参会又は慰に他出候翌日用事もなきに近所たり共出あ
りき商不精に而は身代立不申候きのふは終日他出候間今
日者別て精出し可申と存候覚悟に而無之候而者不宜候

四 経

一 何によらず高直成道具求申ましく候かけ物硯箱其外何

にても下直成物に而間に合可中事に候

一 土蔵くら火之用心常々可為思慮候かく古く候いゝ付か
へ可申候用心かべ其外火事之前後に入中道具常々一ツ有
用意事

一 碁将棋双六すき申ましく候夜は慰に打候共昼之内箇様
之慰殊之外隙どれ無益之事に候

一 万事に仁之道無之候而は家相統難成候商之事にも少つ
ゝ用捨をいたし別而質物など歩あいを算用仕上申事に候
間少つゝ用捨可致候右之心懸に候へは弥商も広質も多成
可中事に候此外出入中者家来に至迄仁道を以隣有之時者
代々繁栄に家相統可有事無疑者也仍如件

享保貳丁酉年

正月吉日

中田清兵衛

中田豊三郎殿

昌榮花押

(『中田家譜』)

六 文政九年一月 売薬奉公人請合証文

請人 東水橋 喜八郎 ㊦

請合申反魂丹若者之事

高月清次郎殿

〔滑川市誌資料〕

一 私二男小七郎旨申者当正月より極月大晦日迄貴殿江相
定為給銀拾貳貫文に相極め申候処実正に御座候然上は場
所先かけ売買之儀も情魂に入為相勤申候且又かけ場先に
而持逃欠落仕候はば私相尋御損等有之候はば急度相弁貴
殿江御難題かけ申問敷候其上如何様之六ヶ敷出入等出来
候而も私引請急度 明可申候若旅方に而相煩候はゞ五七
日御用捨可被下候、方一長煩仕候はゞ右給銀之内を以御
算用可仕候、尚又場先に而私欲にかかはり貴殿之御目を
かすめ不屈き之仕形相知れ候はゞ其所より吾人因本江御
返被成候共少歳申分無御座候將又御縁無之候而御障被下
候共後日に至貴殿之かけ場先之国々江商売に遣し申問
敷候勿論小七郎之儀に付外々より彼是等申者聊無御座候
為其後日之証文如件

文政九年正月

本人 田中 小七郎 書判

紙面を以奉願上候

私儀商売手簿ニ御座候ニ付、東水橋株持人宗左衛門所持之

七 天保元年三月 売薬売子一人讓替願書

紙面を以奉願上候

私儀不勝手之儀御座候ニ付、所持仕候売薬売子脚老人田中
村久助方へ相譲り申度奉存候間、右譲り替之義御聞届被成
下候様奉願上候、尤御役銀之義者右田中村久助方上納仕可
申候、以上

文政十三年

寅三月

東水橋株持人 宗左衛門 ㊦

東長江村 十左衛門殿
西水橋 范七郎殿

本人 田中

小七郎 書判

売藥亮子脚忝人、譲り請申度奉存候間、右譲り替之義御聞届被成下候様奉願上候、尤御役銀之義私の上納仕可申候、以上

文政十三年

寅三月

田中村株持人
久助 印

東長江村
十左衛門殿
西水橋
范七郎殿

右之通売藥亮子脚忝人譲り替之儀、御聞届被成下候様奉願上候、以上

右譲替之儀承り届候也

營 経 四

東長江村
十左衛門
西水橋
上縮
范七郎 印

東水橋吟味人
伝八郎 印
同
七之助 印
同
勘六 印
滑川吟味人
貞次郎 印
同
九郎三郎

〔裏書〕
「表書譲り替之趣承届候也」

金山十次郎 印
西水橋
范七郎 印

〔早川家所藏文書〕

二 天保二年五月 売藥奉公人請合証文

入置申一札之事

一 私儀太田屋弥兵衛名前ニ而松前場所所持仕候処、去ル寅七月彼御地諸国入込候売藥人御差留ニ相成、私儀茂右同様被仰付候、然る処賞殿義者、才田屋勘七名前之場所往古御免ニ而入込被成候ニ付、此度改而御免被仰付候、其余不残御指留被仰付、私儀茂此二十ヶ年前入込候場所故右御指留之内へ相加り打驚途方ニ暮、心痛至極仕候、依而種々手ヲ尽シ立入御免御願申上候得とも、一向御聞濟無御座候故、御役筋江内々達而御願申上候処、御憐愍を以左候ハ、同国才田屋勘七義ハ往古ヨリ御免ニ而入込候ニ付、此度右勘七并京都齋藤平角兩人而已改

而御免被仰付候間、右勤七手代分ニ相成入込候義者格別、
其餘者一人茂難相成趣ニ被仰付候ニ付、少々者安心仕候、
依而貴殿江相縫り手代分ニ被成下候様相願候処、私難淡
ヲ御察被下早速御納得被下候間、不相変全商売取統千萬
忝仕合ニ奉存候、右之趣ニ付是以後為心得、左之通ケ条
書を以相致置申候

一 貴殿彼御地弘名前、才田屋勤七並目印等迄私葉包紙其
外不何依紛敷名前等之書入中間敷候

一 私彼御地弘名前は迄、太田屋弥兵衛ニ致置候処、前巖
之趣ニ付、是已後、太田屋永壽軒与相改書入可申候

一 彼表御国掟、急度相守可申候

一 私者勿論、又者代人差遣し候共、彼御地ニ而越年仕間
敷候

一 彼御地人役并荷物御口錢等ハ私身当り之分是迄之通上
納可仕候

一 於場所先私儀ニ付、万一如何様之故障出来仕候共、貴
殿手代分ニ相成候共、少茂御難題相掛申間敷候、尚又雜
用等相掛り候共、始末不殘私ハ出銅可仕候

一 私得勝手を以代人指遣シ候節ハ、前文之趣意一々中含
別一札を取請置、毛頭心得違不仕候之様申付差遣し可申
候

右之通嚴重ニ相心得、其外諸組仲間問定法之通、急度相守
可申候、依而為後日之入置申一札如件

天保二年卯五月

長谷屋理兵衛

南部組年行司衆中

同 御順番衆中

本庄屋

甚三郎殿

右之通り之一札金商売仕来り申候

(松前反魂丹場所記録・宮山県立図書館蔵)

三 天保十一年一月 壳葉奉公人請合証文

請合申奉公人状之事

一 私義貴殿江当子正月ハ同十二月迄御奉公相定、則為給
銀十二頁文ニ相極内 借用申宛実正ニ御座候、然上

者懸場志(先カ)ニ而商売之儀入情相働可申候、勿論懸場先ニ而持逃欠落等仕候ハ、私共罷出急度相尋貴殿御難儀等懸申問敷候、其上六ツケ敷出入等出来仕候ハ、急度引請相誘可申候、若旅先ニ而病氣相滯候ハ、五七日ハ御用捨可被下候、尤長滯り仕候ハ、右給銀之内ニ而御算用仕候、且又懸場先不屈成仕形相知レ候ハ、場所先ニ而老人御返可被成候共一向ニ中分無御座候、猶又御縁無之御際被下候共、後日ニ至り貴殿懸場先江売棗ハ不及申ニ、外商売ニ茂参り申問敷候、若懸場先江参り候ハ、如何様共思召次第ニ可被成候、且又朋輩(輩カ)等口論一味等仕間敷候、勿論私身上ニ外々ハ彼是等申者無御座候、依而親受人等連印仕候間幾年成共、私奉公中此証文御用ひ可被下候、為後日之請合証文仕処如件

天保十一正月

本人 女川村 平四郎 ㊦
 同人 親 孫左衛門 ㊦
 請人 同村 文左衛門 ㊦

蓬沢屋 久助殿

(早川家所藏文書)

三 天保十三年四月 売棗奉公人請合証文

受合申奉公人証文之事

一 私義貴殿御所持之藥場旅出奉公相定難有奉存候然上ハ場所先ニ而持逃欠落等仕候得者私其從急度尋出シ相渡可申候其上紛失之処御座候得者私其從急度相弁シ少茂貴殿江難題懸申問敷候若旅先ニ而相煩候時ハ四五日ハ御用捨可被下候万一長煩相成候時ハ貴殿諸造用御取替被下私其從急度御算用可仕候猶又私義自所かわり不屈成義御座候得者所ヨリ御返事可被成下候共少茂若分無御座候尤次年改外商売樽共其因ニ入込申問敷候勿論身ニ付外より彼是等御座候得者私共從相亦可申候就夫々万一落等御座候得者売棗縮方断落度奉吳々後念請合証文迄印指上可申候処如件

天保十三年寅四月

本 人 新 七 ㊦
 一門並請合 與左衛門 ㊦
 宮路屋次郎兵衛様

(滑川町誌)

六四 嘉永四年五月 売薬奉公人違約一札

(関野家文書・宮山市立郷土博物館蔵)

入置申書付之事

二日町屋和右衛門殿所持場所作州別紙決算帳面之通、去春私仲人ニ相立売買致候処、於貴殿方ニ連人為御用被成候処、右帳面取上ケ之内百六拾貫文斗取落し之由被聞御申、其上帳面之表ニ何角故障之筋、他ニ右之候故、於私ニ調理方可致管之所、去ル酉年被相廻伝蔵殿去夏九州表江被参候ニ、未帰国被致不申故、本家和兵衛殿へ懸合致候処、連人之儀は旅先へ不構為御立被下候趣、和兵衛殿へ御申被聞候故、右之様子ニ御座候、仍而伝蔵殿不遠内帰国之上、且は急々取懸り筋道相立申候、若伝蔵殿帰国延国相成候へ、来春は急度前段の趣ニ相心得可申候、為後日之入置申処依而如件

嘉永四年亥五月

柿沢屋

太

助

㊦

関屋

清助殿

九五 嘉永六年九月 上新川郡内売薬人脚数書上

嘉永六年丑九月調上新川郡内売薬人

所持調理帳抜書左の如し

東岩瀬 佐藤屋與三右衛門等九十人脚

新庄 油屋又兵衛等七十六人脚

黒牧村 彌三郎等二十四人脚

西水橋 儀左衛門等二百十九人脚

東水橋 上野屋平兵衛等二百八十七人脚

高月村

石黒屋 纏九郎 四人 小林屋 嘉十郎 八人

高田屋 次郎兵衛 八人 高田屋 仙四郎 五人

松倉屋 作左衛門 五人 稲葉 覺兵衛 五人

網谷 喜三郎 三人 井黒屋 彌四郎 八人

中村屋 喜兵衛 二人 開谷屋 十次郎 四人

開谷屋 十五郎 五人 曲淵屋 久兵衛 十九人

松井屋 喜三八 四人
 四十物屋 德三郎 二人
 高田屋 清五郎 五人
 領家村 半兵衛 一人
 總人數百四十一人脚

滑川町

島屋 仁兵衛 九人
 竹内屋 長三郎 三人
 万十屋 與右衛門 二人
 笠木屋 新七 二人
 石正屋 喜右衛門 六人
 市江屋 伊左衛門 四人
 大掛屋 吉六郎 一人
 小泉屋 太三郎 十五人
 野町屋 長七 一人
 万十屋 久兵衛 二人
 大熊屋 助四郎 三人
 宮路屋 次兵衛 四人
 笠木屋 忠藏 三人

松任屋 覺右衛門 五人
 藪屋 甚助 七人
 上野屋 吉兵衛 七人
 笠木屋 新助 六人
 尾山屋 宗兵衛 六人
 奈部屋 甚四郎 十二人
 高田屋 次郎右衛門 六人
 中島屋 勘三郎 四人
 竹鼻屋 傳藏 四人
 淺井屋 利三郎 一人
 大掛屋 嘉一郎 五人
 柳田屋 又兵衛 七人
 四十物屋 與左衛門 二人

蓬澤屋 久助 七人
 蓬澤屋 久太郎 八人
 三宅屋 源右衛門 四人
 戀塚屋 與左衛門 三人
 總人數百四十八人脚

〔滑川町誌〕

安政四年三月 旅出奉公人請合証文

旅出奉公人請合証文之事

一 三ヶ村七郎兵衛三男茂助与中者、慥成者ニ付貴殿方江
 御旅出奉公仕候ニ付、当人江御渡方帳面越前行、持参金
式百九拾式文
 三拾五兩貳歩、急度持参可仕趣を以御極合申処実正ニ御
 座候、依而老ケ年給金与して三兩ニ相極被下候段、全難
 有仕合ニ奉存候、右ニ付若持参金不足仕候ハ、則給金
 之内を以御引落可被成下御極合、為相勤申所相違無御座
 候、年々出情可仕様相働可中候、
 一場処先々持逃・欠落等仕候者、早速彼地罷越、尋出
 し当人因許江速帰可申候、右持逃之品不寄何ニ一々取揃
 相渡可申候、右ニ付持参金不足仕候分、私より急度相济

期 可申候、

I 幕 末 一 宗門之義者代々浄土真宗、大塚村法蔵寺且那ニ紛無御座候、

一 御法度之博奕或者賭勝負、堅為致中間敷候、別而從

御役所様嚴重ニ被 仰渡候之趣ニ御座候得者、篤々為申

聞置候間、毛頭右様之場処江為立寄中間敷候、

一 場処先にお以て相煩候ハ、二三日者御用捨被成下、

長病相滯候者、雜用等私々急度御算用相立相済可申候、

万一病死等仕候者、其処ニ而御作法通御勝手ニ御葬可

被下候、此義ニ付貴殿へ少も中分御難題相懸申間敷候、

勿論入用等之義者何程相懸り候共、私々速ニ相済可申候、

右之通幾年ニ而茂、私共請合ニ相立申所実正ニ御座候、若

御都合ニ寄御隙ニ相成候共、貴殿方御場処筋江者隣国たり

共余商等ニも差遣し申間敷候、為後口奉公人請合証文如件

安政四己年三月

本人 三ヶ村

茂 助

請人 室屋久次郎 圃

芳尾健吉殿

〔富山売薬業史料集〕

九七 元治元年五月 売薬奉公人請合証文

売薬方奉公証文之事

一 私義貴殿方江売薬旅出奉公ニ相極申候所実正ニ御座候、

然上ハ為給銀与して年ニ 相極、尤半銀只今請取残

金之義ハ、旅先全相勤帰次第御渡可被下候

一 御公義様御法度之趣、急度相守可申候

一 於旅先ニ相煩候ハ、五七日者御用捨可被下候、若長

病ニ相成候ハ、急度代人相立、定通り為相勤可申候

一 遊女・博奕等都而不法之勤方一切不申様、堅ク相心得

可申候

一 宗旨之義ハ代々浄土真宗、寺者小出村玉永寺且那ニ紛

無御座候、何時ニても寺切手指上可申候

一 旅先ニおゐて病死致候ハ、其御国之御作法通り御葬可

被下候、其節相懸り申候入用高之表急度相済可申候

一 於旅先ニ持逃、欠落仕候ハ、早束尋出し、尤持逃等之

(速カ)

品々急度相亦可申上候、聊も御難題成義相懸間敷候

一 私義於旅先ニ御氣ニ入不申候ハ、何時ニても御返可被成候、猶又御仲間中御極合之通り急度相心得可申候前頭条々急度相守可申候、若万ニ一ツも相違之義御座候ハ、諸人等罷出急度相勝可申上候

一 幾年ニても此証文ニて御奉公中御見通置可被下候、尤貴殿御暇出不申内何方江奉公ニ相極メ候共、何時ニても御呼返シ可被成候、其節毛頭違背申上間敷候、依而奉公人証文相渡一札如件

元治元年

子五月

本人池田鯨村忠兵衛二男

小 七 印

一門身代諸人同封

八左衛門 印

同断同村

小左衛門 印

世わ人

栄 吉 印

蓬沢屋

助右衛門殿

前書之通り相違不申候ニ付、奥印仕候、以上

右村計熊

八郎右衛門 印

六 慶応元年八月 福岡行越中壳薬人名書上

乍恐以書付奉申上候

越中富山

壳薬部

松 岡 平四郎

茶木屋 徳三郎

凡此手代八人

凡此手代六人

松 屋 清 藏

松井 宗右衛門

凡此手代九人

凡此手代七人

内山 治左衛門

凡此手代七人

越中高岡

岡本 清右衛門

伊勢 長右衛門

凡此手代式人

凡此手代三人

津島 八右衛門

堀 田 茂 助

凡此手代式人

凡此手代式人

和泉屋 善 助

凡此手代三人

越中小杉

中川 小兵衛

凡此手代三人

越中岩瀬

米田屋 清吉

凡此手代三人

越中水橋

尾嶋屋孫右衛門

凡此手代三人

上野屋 藤藏

凡此手代三人

越中新庄

急 沢 甚兵衛

凡此手代三人

凡壳薬師拾八軒

凡手代六拾八人

越中魚津

菊川 三郎兵衛

凡此手代三人

中野屋安右衛門

凡此手代三人

江州日野

竹 村 林藏

凡此手代三人

前相分不申、何共恐入候得共、一先帰国致篤与取調主人手

代共名前明細ニ奉書上度存候間、来春下リ迄右書面之義御

差延被成下度、備ニ奉願上候、以上

慶応元年丑八月

越中富山壳薬師

惣代 宇八郎

久 藏

加賀領高岡惣代

善兵衛

治左衛門

止宿水原町

忠右衛門

福岡御代官様

(反魂丹ニ関スル諸事留書・富山県立図書館蔵)

五 団体・仲間

寛政十二年三月 反魂丹場所連中定書帳

〔表紙〕
寛政十二年

反魂丹場所連中定書帳

右者今般御調ニ付奉書上候得共、惣代而已ニ者巨細手代名

中三月二十六日 年 番

藁場所連中定書之事

事

一 御公儀様々仰出之御法度、全ニ相守事

右定書之通相背申問鋪様堅相心得可申候 依而如件

但し御提殿重ニ相守、商売茂全ニ相勤事

寛政十二年申三月

一 旅先ニ而喧嘩勿論、博奕、廓杯ニ不寄致法^(放カ)者聞付次第急度詮義致事

西水橋 廣野屋 年番 (判)

第急度詮義致事

宗左衛門 (判)

尤其義無聞入者ハ其場ニ出合候仲間者江持参物預リ置、

池田屋 同右衛門 (判)

因本江相戻し可中事

辻ヶ堂屋 久兵衛 (判)

一 旅先ニ而一錢為共粗末致事一向相成不中不埒等致者、

室屋 宗兵衛 (判)

猶其場成夫又因本ニ而茂詮義相糺事

同 勝嶋屋 義左衛門 (判)

一 先様々□等有之節ハ共向寄仲間打寄、他所他国之者ニ

東水橋 梅澤屋 次兵衛 (判)

而茂名前相改、訴訟ニ可及事

柳守屋 平次郎 (判)

但し可濟事、公事訴訟ニ不可及、此義肝要可為事

同 平右衛門 (判)

一 旅先ニ而致病煩、又病死有之候共聞付次第、介抱之上

日置屋 久四郎 (判)

そこく致濟^(仏カ)私葬事

谷屋 次郎左衛門 (判)

午併香典之儀ハ格別

浦田屋 平藏 (判)

一 旅宿道筋不寄付合之刻、何事ニ而茂致心易事

松屋 清八 (判)

一 若者共心違有之候ハ仲間示談及、品々寄而急致詮義事

魚野屋 次郎右衛門 (判)

一 仲間衆□貴報ニ洩氣腹不致候者ハ其地々之御役所江訴

加角屋 喜兵衛 (判)

四 団体・仲間

川屋 四郎三郎 (判)

日置屋 久四郎 (判)

谷屋 次兵衛 (判)

石正原 弥助 (判)

高月高田 清次郎 (判)

同 宗左衛門 (判)

同 作兵衛 (判)

同 清兵衛 (判)

滑川高方殿 次郎左衛門 (判)

西水橋辻ケ堂屋 宇右衛門 (判)

右中間之内、年行司役人ニ谷屋次兵衛様御頼、四方之世話

事極置申候、尤他国場所先キ諸事しらべ役人ニ日置屋久四

郎様御頼相定リ申候 以上

酉三月十三日 寄合ニ相改置

右連中之内、以後、何事ニ不寄、示談義御座候節、相もれ

申間敷候、以上

年行司役人

谷屋 次兵衛 (判)

場所先役人

年行司谷屋次兵衛様江セ話料として金子百疋年々事ニ懸
可申候等ニ相極申候 以上

惣 蓮 (連方) 中

一 薬場所先ニ而彼是懸リ合等 出来仕候共仲間相談之上、

造用格別之義御座候節ハ如何様共、とんちやく、可及事

一場所先ニ而證儀等御座候而当人ノ年行司江被相聞候節、

其役人聞届之上格別之事

(財団法人 水橋郷土史料館蔵)

100 文化三年八月ノ十四年 仙台における諸費

用、割符留

清兵衛殿ノ申来リ候段、如斯割方仕候、以上

文化四年卯六月改之

文化二年寅八月廿五日高岡立野屋左助殿落命致、仙台岩瀬

川口屋門兵衛殿ニテ相煩、水巻庄右衛門殿ノ同八月廿七日

差仕、六泊逗留仕、雜用割方左之通卷ノ拾文相懸リ、依而

一人ニ七十八文ツム相当リ申候 以上

月日同断

文化三年寅秋仙台城下ニ而高岡高木屋弥三右エ門殿、当□^(因カ)

本江屋徳平殿与重置之論ニ付、清六殿、藤五郎殿其座へ出
会故、無廻立会ニ而雑用相懸リ六百文割方ニ御座候

文化三年寅春、本江屋長蔵、仙台古川ニ而病死いたし、無
廻中林屋市助殿其座へ罷出、雑用八百九十文相懸リ割方仕
候、以上

月日同断

文化五年辰秋、富山山屋与助中分ニ付、清次郎、藤五郎殿
雑用六百文相懸リ、三拾貳人ニ割符老ツ面ニ付、十九文宛
指登シ申候、以上

文化六年巳六月十日会

文化六年巳春、高岡柳田屋惣助殿仙台水沢ニ而病死いたし
ニ付、病中ヨル八郎右衛門、伊助其座へ罷出、始終雑用四
貫二百文相懸リ、拾四人割符老ツ面ニ付、三百文ツム指出
シ申候、以上

月日同断

文化七年仙台役金之儀ニ付、佐藤屋長左衛門殿増役等可仕

様ニ御上迄彼是等願書迄指上ケ申抔与中儀ニ有之候ニ付、

先年之役元三浦屋清兵衛殿迄右等之儀ハ夫々首尾いたし、

又以先年之通三浦屋清兵衛殿ニ役元被仰付候、然所右三浦

屋清兵衛殿ト申来候儀ハ、元来承リ候所、増役金ト儀^(マシ)ハ其

仲間之内ハ佐藤屋長左衛門殿等ニなれ合、役是等下持ト仕

候人有之候ニハ決定之事ニ候様ニ申来候ニ付、仲間寄合請

誠吟味仕候得共、左様之事聊申人無之候ニ付、仲間共連判

仕所如件

文化八年未五月日

文次郎

門四郎

清六

又六

嘉兵衛

小左衛門

伊助

又七

甚左衛門

源次郎

懸リ申候ニ付、仲間々入用足とし而壹貫五百文手伝仕候、
為念相記置申候、以上

文政十四年

門四郎

文化九年申年、又六殿梓又次郎殿、仙台(登カ)豊米郡柳木津ニ而
長煩仕、入用過分ニ相懸リ申ニ付、仲間入用(符カ)与として錢貳

覚右衛門

貫文手伝仕候、左ニ人々割符仕候、尤人数拾四人壹人ニ付、

伊 助

百三拾四文ツヽ

清 六

月日

又 六

文化十酉年仙台城下ニ而伊助殿長々之病氣、入用過分相懸

文治郎

リ、其上せかれ籤七并覚右衛門等日數逗留被致候、尚々入

九左衛門

雜用相懸リ故、仲間々入用足リとして壹貫五百文手伝仕候、

孫右衛門

為念相記置申候、以上

ノ

文化十一年六月廿九日改

(竹橋家文書・富山市役所蔵)

文化十二亥年八郎右衛門、伊達尋折ニ而永々病氣雜用過分

相懸リ申ニ付、仲間々入用足リとして壹貫五百文手伝仕候、

一〇二 文政元年五月 薩摩組仲間規約

為念相記置申候

文化十子年(三脱カ)

仲間九人

示談定法書

小杉指除申候

一 薩州表之儀者三拾壹ヶ年前亮藁御差留ニ相成候ニ付、

文化十三子年又次郎殿越後ニ而永々相滞ニ付、雜用過分相

種々ニ取繕仕、拾七ヶ年以前酉年彼地居付与申分ニ相成、

可成ニ合薬商売取続申候、且其節当 御役所より薩州行
 之義者式拾組之示談ニ不拘式十式人足ニ御定被為 置、
 別組ニ被 仰渡難在御受申上置候処、去ル亥年私共売薬
 先規之通直名前にて、右薩州御領中徘徊御免許御座候而
 難在奉存候、然ル処彼地之任人加治木町ニ日高平八与申
 もの、先年ノ売薬仕、面名前四人廻リニ而懸帳面ノ高九
 百五拾貫文斗之場所所持罷在候処、去ル子之春巳来、右
 帳面私共江引請具候様達而申越、無挽引受申候儀示談仕、
 左候得者右平八所持之四人足を相増、都合式拾六人足ニ
 御極被為 成下候故、是以後反魂丹場所名前所持不仕者
 江茂場所譲引之売買仕候節者、薩州行仲間切之示談相立
 置候得者、老人足式人足付与申振合にて譲引相成候得者、
 運方之振合能相成、且式拾組江聊茂差障不申儀与奉存候
 に付、此段奉願上候処、御聞濟被為 成下、其年一作之
 御冥加与して銀子式拾枚上納仕候、尤是まて上納仕來候
 御礼銀者只今より銀老枚相増、以後銀七枚宛当番年行司
 ノ取立、毎歳十二月上納可仕候、將亦如前頭彼之御国表、
 数年之間押立而商売相成かたく候に付、仲間共所持場所

譲引并引当等茂調不申、仲間共切ニ下売券仕置候処、混
 雑之儀可有之哉難斗候ニ付、右下売券引当等之分不残消
 入、此度銘々所持懸高等具ニ相改、仲間一統印形取揃新
 ニ示談帳出来仕候上、御役所江指上御奥書申受度候ニ付、
 ケ条書相認示談定法相立置候上者、銘々心得違無之候様
 嚴重相守可申候、依而為納得承知印形可有之候、則条数
 左之通

一 薩州御領中懸場所持之儀者式拾六面之仲間ニ今般 御
 聞濟之上願之通被為 仰付候に付、是已後彼地外城分之
 極ニ相定申候、然ル上者 御当地反魂丹商売方御定法之
 趣急度相守、聊茂相背申聞鋪候、依之毎歳御礼銀与して、
 銀七枚宛仲間面割を以取立、当番年行司より十二月廿五
 日限ニ上納可仕候事、

一 薩州表合薬商売御免被 仰付候ニ付、彼地之御上様江
 為御冥加鉛百五拾斤・熊之皮拾枚宛、毎歳場所着之上、
 鹿兒島問屋取次を以献納可仕候事、

一 薩州御領中合薬吟味役上野氏より、合薬御免許之御証
 文例歳申受候ニ付、御礼錢与して老人前ニ拾貫文宛、毎

歲七月十日・十二月廿五日兩度御取立有之候間、其日限
 二無滞相納可申候事、勿論上野氏右御証文申受彼地相
 廻り候得者、彼地之御国法者不及申何事、急度相守可申
 候事、

付り、御家中諸士之御銘々・諸御役人方・郷上等江
 対シ、無礼無之候様かたく相慎可申候事、

一 薩州表者古来より浄土真宗之儀者堅御停止之所御座候
 間、數年入込懇意ニ相成候共、宗門之沙汰決而相咄申間
 鋪候事、

一 彼地場所先ニおゐて博奕者勿論、惣而賭之諸勝負・惣
 鋪参会等堅任問鋪候事、

付り、得意先者不及申ニ他所者ニ出合候節ハ粗抹之
 儀無之候様可相心得候事、

一 於彼地ニ出口不正之沓葉種者不及申、御法度之品々不
 寄何ニ、少分たり共仲間一統ニ買取候儀者、決而相成不
 申候事、

一 彼地得意先ニおゐて葉直段引下候義堅相成不申、并押
 売等決而仲間鋪候事、

一 於彼地ニ宿々或者得意先ニ而茂、何程之商ニ而持参金
 何程坏与相尋候者有之候共、聊之商ニ申立、過分之金錢
 取集候様決而相咄申間鋪候、尤近年改而從 当御役所被
 為 仰出候御書立等茂有之候得者、諸事相慎可申候事、

一 彼地ニおゐて仲間之内病氣等相滞候者有之候而、商売
 相勤兼候者有之候ハ、其節向寄勝手宜所ニ居合候仲間
 而三人茂呼寄介抱仕、見聞示談之上ニ而助人相立可申候、
 尤右病氣ニ付帰国茂自ラ及延引候時者格別之事ニ候、只
 無煩茂人々得手勝手を以相残り詰越居続ニ逗留致候而、
 追々仲間帰国仕候期にて、其間を考へ彼地之人を相雇掛
 場所相廻し、或者新懸等為致候儀、決而不相成候、若心
 得違之者有之候ハ、過分之過料錢為差出可申候事、

付り、他御領ものを相雇懸廻りを為致、又ハ連人等
 ニ召連候儀、第一之御法度ニ御座候而、他組江茂差
 障ニ相成候間、此段急度相心得可申候事、

一 彼地場所廻り相仕舞人々帰国仕候節ハ、鹿兒島表ニ而
 問屋を以町 御座江帰国手形を相願、其手形持参いたし、
 津口御番所江差上罷通り可申候事、

一 彼地鹿兒島表旅人方町年寄衆より、六ヶ外城切廻在之付状中受、外城江罷越可申御国法にて、向寄外城々々之御役方ニ而次書中請、六ヶ外城廻在終候節ハ早速鹿兒島表江罷出、付状可致返上候、尤彼表江数年入込外城之御役人々懇意ニ相成候共、一ヶ外城たり共無付状ニ場所相廻り候儀者、彼地御国法ニ相背可申義ニ候、此段嚴重相心得可申候事、

一 当組懸場所之儀者外城分ニ相極置候上ハ、人々所持之外城々別外城之内江新ニ一ヶ村たりとも堅入込申間鋪候、以後得手勝手を以売買仕候共、是まで古帳面ニ有来り之村者勿論、新ニ一ヶ村たり共新懸ニ堅入込申間鋪候事、一 薩州行之儀者式拾六面之仲間ニ而、懸場所帳面売買者勿論、何引当ニ而茂壹ヶ外城壹通之売券ニ相調、夫々御奥書可申受候事、

但シ、足付ニ而茂素切出シにても、歩高懸高等之儀者、其時々之見斗ひを以古売券消込候上、贈り引勝手次第ニ可仕候事、

一 当組場所売買之儀者、式拾組ニ不拘、一面にて所持之

外城不殘相添売渡可中極合ニ有之候、尤素切外城切出し仲間内江買込ニ相成候儀者格別、他組江素切ニ売出シ申儀者堅不相成候事、

一 銘々仕入方薬品製法等入念ニ遂吟味を調合いたすべく事肝要ニ候、粗薬等相用へ候得者、自然与得意之請方悪しく相成、畢竟商売衰微之基ニ候間、諸事入念ニ相心得相互ニ相励可申候事、

一 此度人々納得之上御役所江御願申上候而、御聞済に付、当組改而示談定法相立置候上、自然心得違之者有之候得者当組之恥辱ニ相成候間、商売体之振合者外組之風儀より猶更万事入念相心得可申候、若右往左往ニ相成候而者、御役先江茂御難題相懸候様ニ相成、畢竟銘々之身逼ニ相成候間、諸事急度相慎可申候事、

歩高拾歩

一 因分 鋪根

能登屋兵右衛門

メ式ヶ外城

一 清水 曾猶郡 日當山 福山 財部 能登屋喜兵衛

メ五ヶ外城

期 歩高拾歩

一 都ノ城 勝岡 山ノ口 高城 能登屋 直治郎

I 幕 歩高拾歩

歩高拾歩

一 湯尾 馬越 大口 山野 羽月 須木 小林

一 始良 高山 内ノ浦

一 湯尾 馬越 大口 山野 羽月 須木 小林

歩高拾歩

能登屋 虎松

歩高拾歩

歩高拾歩

一 牛根 恒吉 百引 市成 高熊 鹿ノ屋

歩高拾歩

宮嶋屋 専助

一 高崎 高原 野尻 高岡 倉岡 綾 穆佐

歩高拾歩

此内高須拔

能登屋 文蔵

歩高拾歩

歩高拾歩

一 鹿見島御城下 上町組 下町組 西田町組 名廿四ヶ名

歩高拾歩

宮嶋屋 専十郎

一 出水 野田 高尾野 長島 上市屋 喜八

歩高拾歩

一 串良 大崎

宮嶋屋 重五郎

歩高拾歩

歩高拾歩

一 阿久根 日置 市来 桜島 上市屋 新助

歩高拾歩

歩高拾歩

一 志布志 松山 末吉

宮嶋屋 専五郎

一 入来 蘭牟田 樋脇 山崎 東郷 中郷 水引 高城

歩高拾歩

上市屋 安兵衛

歩高拾歩

一 穎娃 山川 喜入

鳥羽屋 五郎助

一 川辺 山田 智覽

松屋 榮治郎

メ三ヶ外城

歩高拾歩

一 今泉 指宿 伊集院 郡山

鳥羽屋 太治郎

歩高拾歩

一 (坊)泊り(久志)秋目 鹿籠

松屋 藤兵衛

メ四ヶ外城

一 宮ノ城 佐司 黒木 鶴田 大村 蒲生

鳥羽屋 喜太郎

一 大根占 小根占 田代 佐多 栗野

吉松
外ニ鹿ノ屋内高須
宮島屋 千代蔵

メ六ヶ外城

歩高拾歩

鹿兒島郡
一 吉田 重富 帖佐 隅州始羅郡
山田 溝辺

吉澤屋 八助

歩高拾歩

一 大始良 花岡 新城 垂水

宮島屋 直治郎

メ五ヶ外城

歩高拾歩

一 踊 横川 横川之内
金山 本城 曾木

吉澤屋 茂助

歩高拾歩

一 谷山 伊作 田布施 吉利 永吉 宮仙分

メ五ヶ外城

歩高拾歩

一 加世田 阿多

松屋 甚七

歩高拾歩

一 吉田 馬関田 加具藤 飯野 宮島屋 染治郎

メ式ヶ外城

歩高拾歩

一 隈ノ城 平佐 山田 百次 串木野 高江 甕ノ島

難

宮島屋 萬太郎

鳥羽屋五郎助

末

メ七ヶ外城

同 太治郎

幕

右ヶ条相定置候間、条数之趣後々相貫候様人々急度相守、

同 喜太郎

I

子息連人等江茂敵重ニ為相守可申候、而納得承知印形仕候、

同 喜太郎

以上

同 茂助

能登屋兵右衛門

松屋甚七

同 喜兵衛

同 榮治郎

同 直治郎

同 藤兵衛

同 虎松

本郷屋吉兵衛

同 文蔵

同 喜助

上市屋喜八

木綿屋金治郎

上市屋新助

鵜坂屋嘉助

同 安兵衛

麦嶋屋清蔵

宮嶋屋専蔵

右之通仲間共不殘印形取請申候処相違無御座候、以上

同 専助

文化十五年寅五月

薩州組年行司

同 専十郎

喜兵衛

同 重五郎

同 太治郎

同 専五郎

右之通承届候もの也

町吟味所

(富山売薬業史史料集)

未七月散高岡役金指引之覚

金十七切
一 五百拾匁

先々ヨリ之分

外ニ

一〇三 文政七年六月 富山・高岡・射水三仲間役金

覚

文政七年甲申六月改

売薬九十六人
一 歩金百六十八切

先役金也

内

七拾壹切

富山三拾四人

九拾七切

散り高岡六拾式人

金百八十兩
一 歩金七百式拾切

文政三年辰春

高役相成申候

内式百五十五切

富山三十四人

合金三十式切銀五分三厘三毛

残高

メ

四百拾五切式朱銀三匁式分二厘
合金拾七切銀三匁七分四厘七毛

散り高岡六十二人

散り高岡合金仕分

五百六十六匁式分九厘

正味

一 銀五百十匁
拾七切銀三匁七分四厘七毛三糸 散り高岡当り

但シ銀直シ式百五拾八匁七分四厘七毛

源役金老匁ニ付

鉦一七七八三三式

内

八百八拾八匁七分老厘
百五拾八匁四厘七毛

高岡四十人

五百六拾六匁式分九厘
百目七分

散り式十老入

メ

散り高岡役金任分

一 銀六匁二百二拾五匁
四百拾五切銀三匁式分式厘

散り高岡当り

正四二八五七一三三二

内

源役八百八拾八匁七分老厘

三貫八百〇八匁七分六厘

高岡

源役五百六十六匁式分九厘

式貫四百二拾六匁九分六厘

散り

メ

高岡通イ金六拾六匁銀六匁八分七毛

但シ三貫八百八匁七分六厘等合金百五拾八匁四厘七毛

二口メ三貫九百六拾六匁八分七厘金ニシテ六拾六匁銀

六匁八分七毛也

散り通イ四拾式匁式朱銀老分六厘

但シ式貫四百式拾六匁九分六厘等金百目七分二口メ

式貫五百式拾七匁六分六厘金ニシテ四拾式匁式朱

銀老分六厘也

散り役金高

一 五百六拾六匁式分九厘

代式貫四百廿六匁九分五厘

富山高岡散メ百六拾八切之内銀直シ金相場六十目金也

一 百目七分

合金式拾老入分
但シ老入ニ付四匁八分宛

メ式貫五百式拾七匁六分六厘

金ニして百六拾八切半 銀老分六厘也

此内但本役老匁ニ付四二八五七一三鉦ニ候得共ナトハハ

ライアケ

本役壹匁ニ四匁三分ヲ用ルナル

一 三拾目八分五厘三毛本役ナル

一 百三拾貳匁六分七厘 大門新町中村屋寛右衛門

一 四匁八分 合金壹人分

ノ

一 貳拾目壹分

一 八拾六匁四分三厘 大門新町中村屋伊助

一 四匁八分 合金壹人分

一 貳拾六匁〇九厘四毛

一 八拾貳匁貳分 中野村滝田久太郎

一 四拾三匁八分七厘七毛

一 百八拾八匁六分七厘 但シ菊右衛門分 同人

一 九匁六分 合金貳人分

ノ

一 外ニ三拾匁代金貳歩

文政七年 海老江大蔵江切出シ申
ニ付ヘル

一 又百五匁 高岡早稲塚屋五右衛門方出ル

一 殘百四拾五匁四分七厘

一 貳拾目〇毫分〇毫毛

一 八拾六匁四分三厘 中野村大野吉三郎

一 四匁八分 合金壹人分

五 団体・仲間

一 此内三拾七匁五分

文政九年 高木屋藤助へ切出シ申ニ
付ヘル

殘五十三匁七分六厘也

此分大門新町二口屋吉四郎持分也

但シ高岡大門屋茂右衛門下持ニ仕候

(竹橋家文書・富山市役所蔵)

103 文政十二年六月 仙台壳葉三仲間定書

三仲間定書

一 先前々々三組一統極合御座候事ニ、一ヶ条ニ而も違犯

のものへ、急度過料等し而夫々遂吟味候極合之所、近年

乱リニ相成、不法之族数多有之由相聞へ申候、言語道断

之事ニ候、仍而今盤仲間示談之上、以後右様違犯之者出

来仕候ハ、親連ニ不犯急度遂詮義、其筋ニより仲間相

除キ可申候歟、或ハ過料トシテ出金ニ為致事

一 博奕之義ハ兼而御公儀様御禁制之所、近頃三組之内

右等之所作を相働候者有之、剩へ商先キニテ其所之商人

杯を取交へ、勝負ヲ決シ候事杯至而不相成事ニ候間、銘

々急度相心得可申事

一 商先キニテ自然重價業等出来仕候砌、先前置米候者、

右業取揚られ候義ヲ意趣ニ含、得意へ対シ彼は難題ケ問

敷事候中懸、得意ヲあらし候体之族有之候、是等之義ハ

甚不可然行跡ニ候、以後ハ無違廉遂詮議、過料之上仲問

相除キ可申定之事

一 業直段等格別下ケ売仕候者も御座候由、是等之義ハ自

他共ニ指丈ニ相成事ニ候間、定法之通り売買可仕事

一 近年無趣意助人を相連候者も御座候由、是等之義ハ以

後相禁し中候間、各相心得可申候、併病氣就或ハよきな

き筋合有之候格別之事候、今盤三仲問談合之趣

一 奥仙台三浦屋清兵衛殿の家相続ニ付、三仲問江金子廿

五兩被相頼候ニ付、此度示談之上当月御役金上納之節、

有足忝人ハ金子杵步宛指出し、内式朱ハ頼母子ニ相加リ、

残式朱ハ寅卯二ケ年ニ請取、宿手形取受置中事

一 宿料之義ハ当年米等格別高直ニ付、当年斗リハ百六十

五文宛ニ相定、来年ハ先來之通り相払可申事

右三組仲問一統示談之上相決申候、已上

文政十二年丑六月七日八日席

富山仲問惣代

駒見

忠 助

袋

弥 助

炭

甚 七

楷尾

甚 蔵

高岡仲問惣代

麻屋

庄 八

長慶

六 三 郎

高木

藤 右 衛 門

和泉屋

権 四 郎

柳田

佐 兵 衛

小問物

弥 三 右 衛 門

吉野

利 助

高辻

又 兵 衛

散り組仲問惣代

高木村

藤 助

殿村

九 左 衛 門

水上

小 兵 衛

一 大坂為替式百貫日程与御請書指出申候得共、実者夫程

究会等仕出立可仕事

残高

尾山屋喜助分助合

四百九拾九兩壹歩貳朱宮仙分

立其上、過料金拾兩差出可申事

付リ、彼表を便り御座候共、仲間一統打寄示談之上

内 三拾五兩 関外廻

一 五百三拾四兩壹歩二朱

宮島屋 仙右衛門 厘

心得違を以出立候もの共者、自分雜用ニ而仲間を飛脚差

十人足

一 彼之表を便り無之内へ、旅立仕候事堅相成不申候、若

一人分五拾三兩壹歩三朱宛

組相願申付、左之通取究人ニ納得之上印形仕候

此度原田貞次郎様薩州表御免之取斗之義、大坂為替等取

一 大坂為替銭高壹万貫文之割合左之通

〔表紙〕
此度原田貞次郎殿御手口御免願ニ付仲間
納得印形帳
七月 薩州組

104 文政十二年七月 大坂為替等取組納得印形状

(竹橋家文書・宮山市役所蔵)

ノ

今井や
太 三 郎
二口や
吉 四 郎
水上や
次郎左衛門

人々取揚高無御座付矣々之処人々江割符仕為替ニ差出者
参差出申時者人々割符請高ニ応し相済差出可申事
一 彼之表、河口安右衛門御免合棗株付属相談ニ相成候時
ハ、成丈代銀相減年賦等ニ究合仕木村相談之上引受可申
候、尤付属ニ相成候之時者、式百貫日程之為替之義ハ、
仲間惣取集高ノ外、一切為替取組之義不相成候之事

付リ、株付属不仕候共為替之義式百貫日程与御座候
得共、壹万貫文之外引受申事不相成究合之事

一 此度願一件之義付、兩人出立付彼之表之義万事相任せ
申候間、木村喜衛殿示談之上、可然様御取斗可被下候事

但シ金ニ直シ七二金

期 五人足

末 一 式百六拾七両三朱

幕 同断

I 一 式百六拾七両三朱

三人足

一 百六拾両壹朱

式人足

一 百六両三歩

卷人足

一 五拾参両壹歩三朱

一 千三百八拾九両

右之道仲間納得之上承知印形仕候、已上

(金盛家所藏文書)

能登屋 喜 兵衛 同

鳥羽屋 五 左衛門 同

上市岸 宇 八 郎 同

松屋 甚 藏 同

米屋 宇 兵衛 同

越中富山之者共御領内江合葉入付方は迄之

通御免被仰付難有奉存候、就右關外四ヶ郷之儀是迄全合葉

入付方仕不中所御座候ニ付、当年より差越入付方仕度奉存

候間、彼地之役々方江形行被仰渡被下候様奉願上候、且同

所江者是迄日州延岡辺江罷下候合葉商人共より入付方仕来

候由、粗承申候間、右之者共儀者当年より都而引取候様、被

仰渡可被下儀奉願上候、御繁多之御砌近比恐多奉存候得共、

此等之段成合候様被仰上被下度奉願上候、以上

戊戌九月八日

木村與兵衛

御製葉御方

右中出越承届申候、越中富山之者共是迄御領内江合葉入

付之儀御免被仰付置候得共、御製葉方々諸郷江御入付相成

候ニ付、都而相止候様可被仰付事候得共、以前より合葉売弘

方仕来候を、都而相止候而者可致難波候間、別段之廉を以

日州御領内迄下町年寄木村與兵衛差引ニ而、是迄之通合葉

入付御免被仰付候旨被仰渡候、然ル処高岡・綾・穆佐・倉

岡四ヶ郷者は迄越中ノ者外手より入付来候由御座候得者、

此節より與兵衛差引之者共江入付方被仰付度願出、日州之儀

105 (嘉永三年)九月 富山売葉人、薩摩關外四外

城入付方許可達書

乍恐口上覚

者纒斗之郷數ニ茂有之、願通御免不被仰付候而者、適日州
一内入付方被仰付候詮、(書脱カ)茂薄訊ニ御座候間、願通被仰付度奉
存此段申上候、以上

戊九月八日

御製藥考

丸 田 泰 蔵

右 同

土 持 叶 之 丞

〔富山売薬業史史料集〕

一〇六 (嘉永三年)九月 富山売薬人、琉球入付方許

可達書

写

木村與兵衛手先

越中之 何某

五 固體・仲間

右者御領國中合薬入付方去ル辰年、琉球産物方計ニ而、右
與兵衛江被仰付置候処、此節右之者為入付方差越度願出、
其通被仰付候条、得其意聊緩セ之儀共無之様可取計候、此
段申渡候、以上

九月

琉球産物方掛

御裁許掛

樺山四郎左衛門

〔富山売薬業史史料集〕

一〇七 嘉永四年十二月 高岡町肝煎、薬種屋仲間規
定書

薬種屋仲間規定書

今般諸商売御取縮就被為仰付候、薬種屋八軒株立に被仰
付、且薬種方肝煎も新に被仰渡候、依て薬種取扱等左之
通可相心得候

一 富山等都て他所より振売に罷越候薬種、相對を以買入
売買いたし候義不相成候、薬種屋之手を経買請候義は可
為勝手候

但、町医師及売薬人等自用に遣候薬種之儀は、富山
等より都て直買の儀、在来の通不指支候事

一 売薬人掛看板或は家法合薬等、売弘候者共之儀は、其

期 藥法之次第藥種方肝煎方江可書出候

關東行配藥商人定書之事

I 幕末

但、此末売藥掛看板指出度者は、其旨藥種方肝煎江

一 私共關東江配藥商内キして、先前より罷越候処、近年

及后、聞届を請候上、可致売弘候事

最寄仲間数多ニ相成申ニ付、此度相改射水郡組キして寄

一 合藥屋之儀は無株に候得共、御聞届を請不申ては商売

合相初メ一統示談仕候、仍而取極メ通相洩不中様急度相

不相成筈に候、尤此末出来退転可有之候条、毎歳正月中

守可中候事

藥種方肝煎迄可及届候

定

一 香具屋之儀は、香味藥種斤売不相成筈ニ候所、近年猥

一 御公儀様御法度趣、先前被仰渡通、急度相守可中候

に相成候体に相聞得候条、以後心得違無之様可相心得候、

事

右之通被仰渡、藥種之儀は品重き品柄に候条、都て御縮方

一 我ケ家伝通嚴重ニ可申候事

嚴重相心得、紛敷藥種取扱不仕様毎々被仰渡候趣、入念可

一 藥種仕入方等、問屋吟味勿論、紛敷品取扱仕問敷候事

被申談置条、猶藥法書出方等之義は、藥種方肝煎承合候様

一 旅先ニおゐて商方ニ付仲間示談之上、定之直段カ下売

可被申渡置候、以上

等仕問敷候事

亥十二月

町 肝煎

一 先得意之者江跡カ重置等仕候者有之候時者、書付為い

町々町頭中

たし取揚候、万一押置等いたし候共引取持参仕候、若哉

(『高岡藥業史稿』・内藤記念くすり博物館蔵)

得意ニ不心服ニ御座候ハ其儘ニ而罷歸り、定通其時直段

カ三割増ニ為買入可申候事

一 中仙道筋、奥州道中筋、五ヶ国之内尤道中ニ而も仲間

宿之外自身勝手之宿等者一円仕問敷候事

一 只 嘉永五年四月 關東行配藥商人定書

五 団体・仲間

一 旅宿ニ而病煩イ等出来仕候時ハ、最寄仲間江相しらせ、
 早速相集り介抱いたし候、万一病死等有之候得ハ、其所
 之御作法通取納可仕候、尤持参有合之品其座江立寄之仲
 間中、始末仕候而も彼是申問敷事

一 旅先ニおゐてやしわる者等六ヶ敷義申被懸候ハ、大
 体定宿ニ而殊濟仕様いたしべく、万一右宿等一宅して陸
 ケ敷中懸候時者、最寄仲間江人を以相しらせ、早速打寄
 示談可仕候事

一 旅宿ニおゐて不埒之銭金、酒喰、女類其外あしく事ニ
 交候時ハ、仲間聞入次第早速馳集り吟味仕、其所勿論五
 ケ国内ハ為立抜候、万一不法中立候得ハ、自身テも代
 人ニ而も帳面等引取、他人相為廻其最寄仲間取斗江ニ而
 始末いたし、彼是申問敷候事

一 旅立之前ニ連人等召連寄合示談之上、出立可仕候事
 一 旅先ニおゐて上様之御位符等、一切相用江仕問敷候事
 一 寄合造用之義ハ惣人割ニ可致候事
 一 仲間内ハ年行司之義ハ、二人宛願番ニ致事、尤示談給
 付渡り之事

一 寄合定日之義ハ、毎年三月二十五日相定可申候、尤前
 日年行司ハ廻状可出候事
 右十五ヶ条之趣、急度相守可仕候、若心得違之者御座候
 ハ、右五ヶ国内禁足可仕、仍而仲間一統連印仕如件
 嘉永五年三月四月十八日

株持人

- 布目村 仁右衛門 印
- 同 与六郎 印
- 中野村 善三郎 印
- 津塚原村 久右衛門 印
- 出来田村 藤右衛門 印
- 柳役陣 覚兵衛 印
- 榎岡村 又兵衛 印
- 吉久村 伝兵衛 印
- (マ、) 下牧野村 岡右衛門 印
- 放生津町 八兵衛 印
- 鏡宮村 弥次兵衛 印
- 高木村 又兵衛 印

年行司順番左ニ記ス

殿村 知兵衛印	上伏間江村 甚右衛門印	下村 彦右衛門印	打出本江村 次郎左衛門印	中川村 与七	改藤右衛門印	ノ十七人	出来田村 藤右衛門	上伏間江村 甚左衛門	布目村 仁右衛門	同 与六郎	中野村 善三郎	沖塚原村 久右衛門	放生湊町 八兵衛
一 辰年	一 巳年	一 午年	一 未年	一 申年	一 酉年	一 戌年	一 亥年	一 子年	一 丑年	一 寅年	一 卯年	一 辰年	一 巳年
との村 知兵衛	柳役開 寛兵衛	柳田村 又兵衛	吉久村 又兵衛	上牧野村 岡右衛門	高木村 又兵衛	鏡宮村 弥次兵衛	下村 彦右衛門	打出本江村 与七	中川村 与七	改藤右衛門印	改藤右衛門印	改藤右衛門印	改藤右衛門印

(竹橋家文書・富山市役所蔵)

一〇九 文久三年二月 上総・下総売薬向寄仲間示談、

仕入貯金融通講定書帳

定書之事

従 御公儀様被 仰出之御法度者不限何事急度相守可中候事、

一 丸薬等製方之義者随分藥品致吟味、御得意様へ不及申

ニ、世間ニおゐて宜評判を請中事肝要ニ候間、相互ニ此後急度心得違無之候様精誠ニ調合可仕候事、

一 丸薬製方之義旅先ニおゐて傍輩たり共相語候事者御法

度之第一ニ御座候間、御得意様者不及申、譬同客相客たり共調合等相尋被成候共、私共之義者手代ニ而御座候ニ

付、一向左様成製方者存し不申候様相答可申候、尤此趣売子人々江茂得(篤カ)与申談可被置候事、

一 御得意様ニ薬置合之義ハ相互ニ薬袋見付次第持参いた

し、宿元ニ而其人江相渡可申候、尤不足錢過分ニ有之候共、其義ハ貪着不仕跡より被置候者之損ニ御座候、且又

御得意様ニ預ケ薬之内、其年御遣被成候代錢之義へ取立、

旅宿ニ而出合之刻相渡可申候事、

付り、前後能々聞糺持参いたし候事、且又袋取揚候

ニ付其義腹中ニ貯、御得意様江跡廻りいたし悪口抔

申事後口相知候時者、其趣意を仲間江打出、寄合之

砌ニ相糺、急度御断申上御役筋之御指図を請申候、

将又袋持参難致得意様も有之候ハ、右袋江書付を入

置候事、尤此趣売子人ニ迄急度申含被置候事、

一 置合之義者天保十二寅年迄之分者御互之事ニ示談いた

し置候得共、卯春相改御役筋ニ而御才件受候分者不残取

揚ケ申候事、

一 置合一件ニ付不筋之申分抔有之、懸合ニ相成候時者、

仲間一統打寄示談いたし相決可申候事、

付り、他所之置合ニ而懸合相成候分者、仲間造用ニ

相定候事、及向寄之置合ニ而論合出来之時者自身造

用之事、

一 薬下売之義者決而相成不申候、万々一心得違致候者有

之候ハ、其儘御役筋江御断申上急度越度願請申候事、

一 場所先キ(に脱カ)おゐて薬種屋ニ而風薬抔仕入仕候義、堅相成

不申候事、

付り、売切候時者随分仲間内ニ前少々宛借調可申候、

万一仲間ニ而相弁シ兼候ハ、其仲間共江示談之上

仕入仕候共随分(密カ)隠密相調可申候事、

一 旅先ニおゐて長煩等いたし候時者、向寄人々聞次第馳

集り、忝人宛順番を以看病可仕候、且又病死仕候時者向

寄示談之上、其国ノ御法道ニ相葬可申候事、

付り、造用之義者仲間自身私之事、

一 喧嘩口論杯之義者有問敷事ニ候得共、品寄右様之訳出

来仕、彼是六ヶ敷難題等相成候様承り候ハ、早速向寄

人々馳集随分理前を聞訳、其上各々添心を以品能取捌可

申事、

付り、造用之義ハ国本ニ而仲間寄合之御能々聞訳、

一 統相談之上割符仕事、

一 旅宿ニ逗留之御、適々たり共外泊一切相成不申事、

付り、無惣外泊リニ而罷越候時節ハ、向寄仲間江其

訳申談承知之上者可然、乍併仲間有合不申時者宿主

江其訳相断、承知之上外泊リ可致候事、

一 宿ニ而適々出合申候節、酒会相催我儘成仕方、其上国

元之親方之暮シ方或者自身之分限を他人江振舞候事甚々

不立候、譬傍輩仲間たり共、左様成義申候而ハ却而国元

之恥を語り人之嘲を受申道理ニ相当り候間、聊雑言申間

鋪候様急度相心得、随分相互ニ諍ニ酒会仕、自身ハ不及

申売子人ニ迄行届候様可為申聞候事、

一 旅先ニおゐて売了たり共不埒之義ハ不及申、猥ニ一日

たり共日(カ)到居候者有之ニおゐてハ、仲間(意カ)異見を加へ、

其上勝手我儘成義申立候ハ、無貪着其親方江右之次第を

為申聞候事、

付り、逗留中たり共一切博奕賭之諸勝負御停止之品

ニ候間、嚴重相成不申候事、

一 場所得手勝手ニ付、売買之義ハ向寄仲間江相触、其上

他江売払可申候事、

一 場所売買之節、村棒杭或川境等歟相定、本証文ニ書あ

らわし、其余一村も相広メ申聞敷候事、

一 寄合会日之義者毎年二月二日ニ相定、尤宿之義ハ東水

橋・高月順番ニ相勤可申候、廻文之義ハ前日ニ相触可申

候間、名代ハ相成不申候間、若人も無不参其座江相連り、
商売全ク未々迄取続候様示談可致候事、

付り、万々一無抛義御座候而出席難仕候ハ、其訳

前日ニ宿本迄相断被成候得者名代人ニ而も不苦候、

無案内不参ニ被成候得者其寄合造用者不残其若人ニ

而いたし候事、

一 先年より仲間共棄置来り候御得意様江、跡より参り、

菓直段下直ニいたし候間私之棄(密カ)隠(ひカ)蜜して御遣江被下候由

を以、直段格別ニ引下ケ置合いたし候者有之ニおゐてハ、

拾文揚りニ付七拾文ニ為買取可申候事、

一 新懸いたし候刻、菓直段下直ニ仕候間御預り被下候与

申者後日ニ相知候ハ、数年相勤申若江ものたり共仲間(いカ)

より足留之義奉御願候間、心得違無之様若者江為申聞可

置候事、

一 旅宿之義ハ自身任勝手ニ、若人之了簡を以宿替申事相

成不申義ニ御座候間、仲間示談之上外宿江参り可申候事、

右之ケ条示談之上取極申上者、少も違背仕候者有間敷候得

共、万々一ケ条ニ相洩候者於有之者、夫々御役筋江此帳面

を以御断申上、如何様之越度被仰付候共毛頭仲間江御恨ミ、
中間敷候、依而一統連印仕候処如件

融通講定書

一 会日之義者二月二日之事、

一 若人前若步懸之事、

一 借用金有之御方者元利会席江積立之事、

一 借用金入札之義者一錢たり共高札江相渡可申事、但同

札有之候得者先開札江相渡可申候事、

一 借用方ニ兩請人之事、

一 借用金相滞候時者兩請人相見(マ)ン之上所持帳面向寄中江

売渡候上元利返済之事、

一 仕入金融通講ニ名付候除銀借用被成候御方者、何れ江

如何様之役印を請、書入ニ相成居分有之候共、此借用

不相済内ハ売券為致間敷候事、

右前後ケ条書之通急度敲重相守可中、依而仲間印形仕候、

以上

文久三癸亥二月

中田村 弥 三 郎

I 幕 末 期

かけ金子年迄分

辻ヶ堂村 政 右 衛 門

同

井黒屋 弥四郎 印

西水橋 嶋 屋 武 七 印

同

小林屋 嘉三郎 印

同 四十物屋久右衛門 印

同

曲淵屋 新 助 印

同 同 弥 吉 印

(富山壳薬業史史料集)

東水橋 四十物屋七右衛門 印

東水橋 四十物屋七兵衛 印

かけ金辰年迄

同 同 七 五 郎 印

同 沖 屋 長 七 印

同 たばこや 榮 吉 印

同 上ノ屋 重三郎

巳年迄

同 徳 兵 衛

柿澤村 平 蔵 印

高 月 専光寺屋 與 七 印

同 四十物屋 平 七 印

同 同 七右衛門 印

同 同 長五郎 印

同 高田屋 清次郎 印

高 月 松井屋 喜三八 印